平成26年 3 月定例会

南伊豆町議会会議録

平成 26年 2 月 25日 開会

平成 26年 3 月 14日 閉会

南伊豆町議会

平成26年3月南伊豆町議会定例会会議録目次

第1号（2月25日）

○議事日程	1
○本日の会議に付した事件	1
○出席議員	1
○欠席議員	1
○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名	1
○職務のため出席した者の職氏名	2
○開会宣告	3
○議事日程説明	3
○開議宣告	3
○会議録署名議員の指名	3
○会期の決定	4
○諸般の報告	4
○町長の施政方針並びに予算編成方針と行政報告	4
○一般質問	24
加 畑 毅 君	24
宮 田 和 彦 君	39
谷 正 君	46
横 嶋 隆 二 君	61
清 水 清 一 君	79
○会議時間の延長	95
○散会宣告	100
○署名議員	101

第2号（2月26日）

○議事日程	103
○本日の会議に付した事件	105
○出席議員	105

○欠席議員	105
○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名	105
○職務のため出席した者の職氏名	105
○開議宣告	106
○会議録署名議員の指名	106
○資料の訂正	106
○議第2号の上程、説明、質疑、討論、採決	106
○議第3号の上程、説明、質疑、討論、採決	108
○議第4号の上程、説明、質疑、討論、採決	111
○議第5号の上程、説明、質疑、討論、採決	112
○議第6号の上程、説明、質疑、討論、採決	115
○議第7号の上程、説明、質疑、討論、採決	117
○議第8号の上程、説明、質疑、委員会付託	119
○議第9号の上程、説明、質疑、委員会付託	121
○議第10号の上程、説明、質疑、委員会付託	122
○議第11号の上程、説明、質疑、委員会付託	124
○議第12号の上程、説明、質疑、委員会付託	125
○議第13号の上程、説明、質疑、委員会付託	127
○議第14号の上程、説明、質疑、討論、採決	128
○議第15号～議第24号の一括上程、説明、質疑、討論、採決	133
○議第25号～議第30号の一括上程、説明、質疑、討論、採決	137
○議第31号の上程、説明、質疑、討論、採決	141
○議第32号の上程、説明、質疑、討論、採決	147
○議第33号の上程、説明、質疑、討論、採決	152
○議第34号の上程、説明、質疑、討論、採決	155
○議第35号の上程、説明、質疑、討論、採決	157
○議第36号の上程、説明、質疑、討論、採決	158
○議第37号の上程、説明、質疑、討論、採決	161
○議第38号の上程、説明、質疑、討論、採決	162
○議第39号の上程、説明、質疑、委員会付託	164

○議第40号の上程、説明、質疑、委員会付託	173
○議第41号の上程、説明、質疑、委員会付託	176
○議第42号の上程、説明、質疑、委員会付託	179
○議第43号の上程、説明、質疑、委員会付託	181
○議第44号の上程、説明、質疑、委員会付託	182
○議第45号の上程、説明、質疑、委員会付託	183
○議第46号の上程、説明、質疑、委員会付託	185
○議第47号の上程、説明、質疑、委員会付託	186
○議第48号の上程、説明、質疑、委員会付託	188
○議第49号の上程、説明、質疑、委員会付託	190
○議第50号の上程、説明、質疑、委員会付託	192
○議第51号の上程、説明、質疑、委員会付託	193
○散会宣告	196
○署名議員	199

第 3 号 (3月14日)

○議事日程	201
○本日の会議に付した事件	202
○出席議員	202
○欠席議員	202
○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名	202
○職務のため出席した者の職氏名	202
○開議宣告	203
○会議録署名議員の指名	203
○議第8号の上程、委員長報告、質疑、討論、採決	203
○議第9号の上程、委員長報告、質疑、討論、採決	207
○議第10号の上程、委員長報告、質疑、討論、採決	209
○議第11号の上程、委員長報告、質疑、討論、採決	211
○議第12号の上程、委員長報告、質疑、討論、採決	212
○議第13号の上程、委員長報告、質疑、討論、採決	214

○議第 39 号の上程、委員長報告、質疑、討論、採決	216
○議第 40 号～議第 42 号の上程、委員長報告、質疑、討論、採決	226
○議第 43 号～議第 46 号の上程、委員長報告、質疑、討論、採決	229
○議第 47 号～議第 50 号の上程、委員長報告、質疑、討論、採決	231
○議第 51 号の上程、委員長報告、質疑、討論、採決	234
○議第 52 号の上程、説明、質疑、討論、採決	235
○発委第 1 号の上程、説明、質疑、討論、採決	236
○各委員会の閉会中の継続調査申出書	238
○閉議及び閉会宣告	238
○署名議員	241

平成 26 年 3 月定例町議会

(第 1 日 2 月 25 日)

平成26年3月南伊豆町議会定例会

議事日程(第1号)

平成26年2月25日(火)午前9時30分開会

- 日程第 1 会議録署名議員の指名
日程第 2 会期の決定
日程第 3 諸般の報告
日程第 4 町長の施政方針並びに予算編成方針と行政報告
日程第 5 一般質問
-

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員(10名)

1番	加 畑 毅 君	2番	宮 田 和 彦 君
3番	吉 川 映 治 君	4番	谷 正 君
5番	長 田 美喜彦 君	6番	稲 葉 勝 男 君
7番	清 水 清 一 君	9番	齋 藤 要 君
10番	渡 邊 嘉 郎 君	11番	横 嶋 隆 二 君

欠席議員(なし)

地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

町 長	梅 本 和 熙 君	副 町 長	松 本 恒 明 君
教 育 長	小 澤 義 一 君	総 務 課 長	山 本 信 三 君
防 災 室 長	大 年 美 文 君	企 画 調 整 課 長	谷 半 時 君
建 設 課 長	鈴 木 重 光 君	産 業 観 光 課 長	大 野 寛 君
町 民 課 長	小 嶋 孝 志 君	健 康 福 祉 課 長	黒 田 三 千 弥 君

教育委員会 事務局長	勝田英夫君	上下水道課長	橋本元治君
会計管理者	藤原富雄君	総務係長	平山貴広君

職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	山田昌平	主幹	佐藤禎明
--------	------	----	------

開会 午前 9時30分

◎開会宣告

○議長（稲葉勝男君） おはようございます。

みなみの桜と菜の花まつりも中盤を迎えましたが、やっと花も開花の兆しを見せております。これからも楽しみだと思えます。

それでは、定刻になりました。ただいまの出席議員は10名です。定足数に達しております。これより平成26年3月南伊豆町議会定例会を開会します。

◎議事日程説明

○議長（稲葉勝男君） 議事日程は印刷配付したとおりであります。

◎開議宣告

○議長（稲葉勝男君） これより本会議第1日の会議を開きます。

◎会議録署名議員の指名

○議長（稲葉勝男君） 日程第1、会議録署名議員を指名します。

会議規則の定めるところにより、議長が指名します。

7番議員 清水清一君

9番議員 齋藤要君

◎会期の決定

○議長（稲葉勝男君） 日程第2、会期の決定を議題とします。

お諮りします。本定例会は、本日から3月14日までの18日間としたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。よって、会期は本日2月25日から3月14日までの18日間と決定しました。

◎諸般の報告

○議長（稲葉勝男君） 日程第3、諸般の報告を申し上げます。

昨年12月定例会以降開催された行事は、お手元に印刷配付したとおりであり、各行事に参加したので報告します。

◎町長の施政方針並びに予算編成方針と行政報告

○議長（稲葉勝男君） 日程第4、町長より施政方針、予算編成方針並びに行政報告の申し出がありましたので、これを許可します。

町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） おはようございます。

3月定例会、よろしくお願い申し上げます。

平成26年南伊豆町議会3月定例会の開会にあたり、施政方針及び予算編成方針についてご説明を申し上げます。

現在、我が国を取り巻く環境は、少子高齢化と人口減少及び、産業構造の変化並びに地球規模の環境問題、高度情報化の進展及び経済等のグローバル化など、不安定要素を包含しつつ、急激な変化を遂げています。

このような中、第2次安倍内閣においては、大胆な金融政策、機動的な財政政策及び民間

投資を喚起する成長戦略の「三本の矢」による一体的な取り組みにより、個人消費などの支出の増加が生産の増加に繋がり、雇用、所得の増加をもたらす実体経済の好循環の動きが始まっております。

企業では、設備投資などの動きが見込まれ、民間主導の景気回復が着実に進んでおりますが、自治体経営においては以前にも増して難しい時代となり、より一層の自助努力は基より、ファシリティマネジメント等新たな行政システムの構築が必要となっております。

本町においても、少子化に伴う人口減少と高齢化社会への変化や、インターネット等を媒介とした高度情報化などが急速に進展し、住民ニーズも複雑・高度化しています。

さらに、巨大地震・津波に対する静岡県第4次地震被害想定への早急な防災・減災対策が求められております。

このような行政課題に対応するために、絶えず情報収集のアンテナを高く保ちつつ、住民ニーズの把握に努めるなど、開かれた町政の推進はもちろんのこと、住民の負託に応える職員の資質向上や気概の醸成にも努めてまいります。

また、町政の基盤をなす財政状況につきましては、本町は依存財源比率が高く、国等の動向に左右されやすい状況にありますが、いかなる事態にも対応できるよう財政調整基金等の充実により、足腰の強いまちづくりを進め、住民の安全・安心を担保する町政運営に努めることが肝要であると考えております。

そのような中で、現在、平成22年3月に策定しました第5次南伊豆町総合計画に基づき、町の将来像であります「次（み）世代（らい）につなぐ 光と水と緑に輝く南伊豆町～ひとにやさしく 自然にやさしく 未来につなぐまちづくり」を推進していくため、職員一丸となって取り組んでいるところであります。

この取り組みをさらに一層前進させるために、私は「21世紀、わたしたちの住む町、あなたと造る町」を基本理念に掲げ、町民参加型町政を強力に推進するために、「町民の町民による町民のための町政」を行政手法として、さらに、これらのことを具現化するために「いつでもどこでもミニ集会」等を開催することにより、町民の皆様の意見を集約することを全力で行ってまいります。

この基本理念と行政手法により、1、人や企業に選ばれる町、2、人々が住みたくなる町、3、大切な人に住んでほしい町、4、情報を発信し続けることができる町、5、町民の皆様（あなた）と共に協働して造る町、6、町民の皆様（あなた）も自治体職員も新たな挑戦をする人材を育てていく町、このようなまちづくりを推進したいと考えております。

具体的な施策といたしましては、1、石廊崎ジャングルパーク跡地の観光開発。

平成15年9月末閉園から10年、平成19年3月提訴から6年が経過し、昨年1月和解案が提示されました。

議会の承認のもとに昨年6月に売買予定でありましたが、就任後、土地賃貸借問題が浮上し、この問題の解決のために売買契約が9月24日までずれ込みました。

売買契約の完了後、自然を生かした観光のメッカとしての新生石廊崎の開発計画を策定すべく、本年2月11日までに4回のワークショップを開催いたしました。

今後も、ワークショップを継続していきながら、参観灯台、ゆうすげ公園、愛逢岬、池之原等石廊崎の広域的な利用計画を検討していただくとともに、パブリックコメント等町内外から幅広いご意見、ご提言をいただきながら利用計画を策定してまいります。

さらに、今回、ワークショップの運営についてご指導をいただいた千葉大学大学院木下勇教授のご尽力をいただきながら、今後、千葉大学園芸学研究科との域学連携を視野に、町政の運営をしていくことを考えております。

2、杉並区の特別養護老人ホームの建設。

国は、都市部の高齢者対策のため、厚生労働省が主導し「都市部の高齢者対策に関する検討会」を立ち上げ、杉並区が南伊豆町に整備を検討している特別養護老人ホーム問題についても検討して下さいました。

概ね、杉並区と南伊豆町及び静岡県が進める特養整備については容認の方向であります。

諸問題が解決次第、施設の完成に向けて鋭意努力してまいりますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

3、地熱資源の活用＝再生可能エネルギー。

3・11東日本大震災に起因します福島原子力発電所の事故以来、原子力発電に対する見直しの機運があります。

細川元首相・小泉元首相は都知事選挙において、即脱原発を唱えましたが、政府は少なくとも原発依存度を減らす方向と思われれます。舛添新都知事も同様の考えであると思えます。

そのような中、地熱発電・風力発電・小水力発電・メガソーラー、いわゆる太陽光発電・バイオマス発電等の再生可能エネルギーを開発する方向が推進されるものと考えられます。

当町では、平成22年度から総務省の「緑の分権改革」調査事業を活用して、地熱資源を生かしたまちづくりを模索してまいりました。「緑の分権改革」調査事業では、文献調査、地科学調査、物理探査などにより調査を行ったところ、下賀茂温泉は、加納地区から青野川に

沿って下流方向に天水が混入しながら流動していることが判明しました。

その後、平成23年度から24年度にかけて、環境省からの委託を受けた独立行政法人産業技術総合研究所が「温泉共生型地熱貯留層管理システム実証研究」により、加納地区を中心に調査を進め、下賀茂温泉の熱源は南野山の深部に中心があると推定されると調査結果を発表いたしました。この調査結果により、南野山の深部の地熱構造の調査が課題として残りました。

こうしたことを背景に、町では、昨年7月27日に町民全体を対象とした報告会を開催いたしました。

これまでの調査結果報告を踏まえて、今後の方向性として、ジョグメックと通称されている、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構の「地熱資源開発調査事業費助成金交付事業」及び資源エネルギー庁の「地熱開発理解促進関連事業支援補助金」制度を活用して、本町の人口減少や少子高齢化対策として、農林水産業、観光業等、新たな産業や雇用の創出など、地熱資源を生かしたまちづくりを提案いたしました。

町民の皆様からは、地熱資源を生かした地域活性化については、新たな産業の創出や雇用の確保につながるなどの理由からの賛意を示すご意見をいただきましたが、地下深部の掘削や地熱発電所の建設による温泉への影響を危惧され、事業実施については否定的なご意見もありました。

また、現状の下賀茂温泉について、温泉のスケール対策や温泉の一元管理に関するご提案もいただきました。

地熱は、石油やシェールガス等と同じ大切なエネルギー資源であり、南伊豆町の宝と言っても過言ではないと思います。

直木賞作家真山仁氏の著書である「地熱は日本を救う」、九州大学名誉教授・理学博士・地熱情報研究所代表の江原幸雄氏の著書である「地熱エネルギー＝地球からの贈りもの」を読みました。

江原名誉教授の著書には「終戦直前の1944年には、静岡県賀茂郡南中村で、九州帝国大学の山口修一博士、小田二三男博士が地熱研究のため掘削を計画しましたが、掘削機械を軍に接収され、実験はおこなわれなかったとの記録があります。」と記載されていました。昔から、南伊豆町は地熱利用の先進地であることを示すものです。

今後は、地熱資源を生かした地域活性化策における課題や問題点を十分検討しながら、熱電併給等を中心にしたスマートコミュニティ・スマートタウンの建設を目指して、町民の皆様

様のご理解を得るべく、特に温泉への影響に関する説明会等の開催を計画するなど、町民の皆様との対話を続けてまいりたいと考えております。

4、ワープステイ＝夢を語りあうことのできる町。

団塊世代が75歳に達する2025年問題をはじめとして、人口減少社会・少子高齢化社会が現在より社会的に、より深刻な問題として到来する20年、30年後また、さらに100年、1,000年後の未来を考えた持続可能な社会を構築することが必要であると考えております。

ワープステイは、都市部のアクティブシニアに一定期間、南伊豆町に移住していただく構想です。

昨年7月11日、移住・交流推進機構通称ジョインで講演の機会を得ました。そのような流れで、ジョインからワープステイの経済効果を調査してくれるとの話がありました。

ワープステイは、ドイツのクラインガルテンの発想と類似します。そのような方法で南伊豆町の居住者を増やす施策であり、いずれ、町民の皆様の理解を得ながら、ワープタウン・プラチナタウンを建設していきたいと考えております。

5、観光振興。

2月のみなみの桜と菜の花まつり期間中の菜の花結婚式・夜桜流れ星や夜桜マラソン、5月のつつじ祭り、6月、9月、11月のオープンウォータースイムレース、7月・11月の参観灯台、10月の伊勢海老まつりの期間中の貸切団体列車「伊勢海老号」等色々なイベントを繋ぎ、観光の活性化に努めてまいりたいと考えております。

6、防災対策。

防災訓練や備蓄品調達をしながら、防災・減災意識の高揚と現状に即した防災・減災対策の推進を図ることを目的に、地域防災計画の策定を推進してまいります。

7、健康福祉センターの建設。

高齢化社会の中で健康福祉センターの必要性は論を待ちません。公約でもあり、任期中に建設する決意です。

町民の皆様とワークショップ等を通じ議論をしながら、使いやすい健康福祉センターを建設いたします。

8、その他。

1月16日に、防災・医療・伊豆縦貫道へのアクセス等命の道としての役割のある、一條稲梓線道路建設期成同盟会を設立しました。

今後、国や県への陳情活動等を通じ、早期事業開始にこぎつけるよう鋭意、努力してまい

ります。

また、これら以外にも鳥獣被害対策、里山の整備等の政策課題が山積しておりますが、議会や町民の皆様のご理解とご協力により、一つ一つ課題解決に真摯に取り組み、町の活性化に努めてまいる考えですので、今後とも皆様方のご理解とご協力をお願い致します。

次に、予算編成方針について説明申し上げます。

政府は、昨年12月24日の閣議において、経済再生、デフレ脱却と財政健全化の両立を目指すとともに、社会保障、税一体改革の実現に向けた、総額95兆円を超える2014年度予算を閣議決定いたしました。

これに、消費税増税に伴う需要の反動減を緩和するための平成25年度補正予算 5兆4,654億円を加えた予算規模は、101兆円を超えるものとなりました。

また、静岡県平成26年度予算案においては、「富国有徳の理想郷“ふじのくに”づくりの総仕上げを掲げ、総合計画の新しい基本計画を着実に推進する」と発表しております。

同予算案は、地震・津波対策、雇用・経済対策の機動的な実施、少子化対策の充実など8項目では、重点的に施策・事業を展開することとし、2年連続増となる平成26年度一般会計の予算規模は1兆1,802億円で、前年度当初比3.6%の増となっております。

このような状況下、本町の財政状況は、主要産業である観光業等の不振が続く、税収の伸びが期待できません。

加えて、歳入の7割近くを依存財源で占める本町では、補助金などの制度改正等の影響を受けやすい体質となっており、財政状況は依然として厳しいことに変わりありません。

このため、事業量や町債発行の平準化を図りつつも、これまで以上に、国・県の動向に十分留意し、情報収集に努めるとともに、将来を見据えた財政運営が求められます。一般会計の歳入では、一部の交付金及び地方交付税に若干の減少はありますが、町税の微増に加え、地方消費税交付金の増により、全体では前年度並みに確保できるものと見込んでおります。

しかし、特別会計繰出金や増加を続ける社会保障費等による財源不足を補うため、財政調整基金から2億1,833万4,000円の繰り入れを行うとともに、道路改良等の普通建設事業に充当する町債の総額は2億4,250万円に上っております。

そのような中、自主財源である町税の確保は最重要課題であることから、コンビニ収納などにより一層の徴収強化に努めてまいる考えであります。

平成26年度の予算編成に当たりましては、第5次南伊豆町総合計画の基本理念及び将来像を具現化すべく、1、安心・元気・温かさがあふれるまちづくり、2、優美な自然を生かし

た観光と交流のまちづくり、3、地域・自然の恩恵を生かしたまちづくり、4、地域を担う人づくりと町の歴史・文化を継承するまちづくり、5、人、町、自然が共生する快適でぬくもりのあるまちづくりの5つの基本目標と「自らが創り、守る南伊豆の未来」の共通目標、以上、6項目の重点目標を掲げ予算編成を行いました。

さらに、石廊崎の再生と健康福祉センターの建設なども進めたいと考え、石廊崎ジャングルパーク跡地利用計画策定審議会委員報酬及び健康福祉センター建設検討委員会報酬など、計上いたしました。

平成26年度の一般会計、11特別会計及び水道事業会計の予算総額は、前年度対比3.7%減の79億3,639万円となりました。

なお、各会計別の予算総額、前年度比較は次のとおりでございます。ご参照ください。
次に、各会計別予算の概要についてご説明を申し上げます。

一般会計予算。

一般会計予算についてであります。財源確保は、財政運営の基盤をなすものであり、継続的かつ安定した住民サービスを行っていくために、必要不可欠なものであります。

国は、1月の月例経済報告において、景気の基調判断を「景気は、緩やかに回復している」と判断し、東海財務局も「景気は4期連続で持ち直しつつある。東海地区全体では、回復している」と判断しました。

しかし、本町及び周辺自治体を取り巻く環境は依然として厳しく、景気回復基調は見えて来ない状況の中、平成26年度は、財源不足を補うために、昨年度に引き続き、財政調整基金から繰入金を用いて予算編成を行ったところであります。

まず、歳出予算の概要について申し上げます。

第1款議会費につきましては、町議会の運営活動に要する経費として、前年度対比489万4,000円減額の6,187万2,000円を計上いたしました。

第2款総務費につきましては、総務管理費、徴税费、戸籍住民基本台帳費及び各種選挙費等で、前年度対比2億7,875万1,000円減額の6億2,996万4,000円を計上いたしました。

その主なものは、18団体への各種補助金5,000万円、基幹業務電算事務経費4,200万6,000円、情報系業務電算事務経費912万2,000円、路線バス維持事業補助金6,435万9,000円、コミュニティ施設整備補助金400万円、土地開発基金繰出金1,692万4,000円などです。

第3款民生費につきましては、前年度対比4,230万円増額の11億7,314万円を計上いたしました。

その主なものは、重度障害者（児）医療扶助費2,292万円、自立支援介護給付費1億4,400万円、障害者（児）地域生活支援事業2,064万円、臨時福祉給付金給付事業4,187万9,000円、老人福祉施設事業2,970万1,000円、国民健康保険特別会計繰出金5,103万3,000円、保険基盤安定繰出金5,577万2,000円、後期高齢者医療費事務1億4,608万3,000円、児童福祉施設費2億2,530万円、児童手当事務1億2,170万7,000円、子育て支援事業2,701万4,000円、放課後児童クラブ運営委託料577万9,000円、介護保険特別会計繰出金1億4,681万2,000円などあります。

第4款衛生費につきましては、前年度対比453万4,000円増額の5億5,288万7,000円を計上いたしました。

その主なものは、第2次・小児救急医療運営費負担金456万円、各種ワクチン医薬材料費・予防接種委託料等の感染症予防事務1,332万5,000円、不妊治療助成金等の母子衛生事業1,266万6,000円、浄化槽設置整備事業費補助金592万2,000円、住宅用太陽光発電システム設置費補助金200万円、老人保健ヘルス事業2,870万5,000円、下田メディカルセンター負担金及び出資金6,837万7,000円、ごみ収集事務6,910万8,000円、焼却施設維持事業1億1,216万5,000円、最終処分場事業2,823万6,000円、南豆衛生プラント組合負担金6,356万6,000円、水道事業会計繰出金4,642万9,000円、簡易水道補助金50万円などあります。

第5款農林水産業費につきましては、前年度対比1,113万1,000円減額の1億2,963万7,000円を計上いたしました。

その主なものは、遊休農地美化業務委託324万円、農業振興地域整備計画策定業務委託料348万1,000円、成年就農給付金600万円、有害鳥獣対策事業788万5,000円、林道青野・八木山線用地測量業務委託料260万円、森林整備事業1,905万円、松くい虫防除事業481万1,000円、稚貝稚魚放流事業補助金130万円、漁業集落排水事業特別会計繰出金2,713万9,000円、入間漁業集落排水事業392万5,000円などあります。

第6款商工費につきましては、前年度対比3,042万6,000円減額の1億4,845万4,000円を計上いたしました。

その主なものは、小口資金等の利子補給330万円、ブランド特産品開発事業費補助金300万円、宣伝委託料3,441万8,000円、湯の花観光交流館指定管理委託料557万円、体験型プログラム人材育成事業委託料829万5,000円、伊豆半島ジオパーク構想推進事業費補助金240万円、青野川利活用観光活性化事業補助金300万円、公共交通機関等利活用観光活性化事業補助金500万円、町営温泉施設指定管理委託料400万円、銀の湯会館長寿命化計画策定委託料394万

2,000円などであります。

第7款土木費につきましては、前年度対比1億2,406万1,000円増額の4億5,969万3,000円を計上いたしました。

その主なものは、住宅リフォーム振興事業補助金400万円、道路維持事業2,693万4,000円、道路長寿命化修繕事業3,100万円、道路改良事業9,519万9,000円、橋梁長寿命化修繕事業4,320万円、河川維持事業587万9,000円、青野川ふるさとの川関連整備事業851万5,000円、港湾管理事務1,013万5,000円、公共下水道事業特別会計繰出金1億6,806万2,000円、町営住宅管理費277万8,000円、急傾斜地崩壊防止事業691万円などであります。

第8款消防費につきましては、前年度対比1億4,578万2,000円減額の3億711万2,000円を計上いたしました。

その主なものは、常備消防事務1億7,987万1,000円、非常備消防事務2,753万3,000円、可搬ポンプつき積載車購入等の消防施設管理事務4,452万円、災害対策事務875万7,000円、防災施設管理事務1,333万2,000円、防災備品や津波避難ビル機能整備等事業費補助金等の大規模地震対策事業3,227万4,000円などであります。

第9款教育費につきましては、前年度対比4,127万6,000円減額の3億1,756万4,000円を計上いたしました。

その主なものは、学校統合審議会委員報酬や各種補助金等を含む事務局費5,255万9,000円、英語教育事業348万3,000円、小学校管理費8,699万1,000円、小学校教育振興費4,473万5,000円、中学校管理費3,690万5,000円、中学校教育振興費3,339万4,000円、社会教育総務事務2,823万円、文化財管理事務600万3,000円、図書館費1,220万1,000円などであります。

第10款災害復旧費につきましては、ほぼ前年と同額の2,071万円を計上いたしました。

その主なものは、公共土木施設災害復旧費1,589万3,000円であります。

第11款公債費は、前年度対比64万5,000円減額の4億7,196万7,000円を計上いたしました。

第12款予備費は、前年度と同額の1,000万円を計上いたしました。

次に、歳入予算の概要について申し上げます。

自主財源は、14億6,373万2,000円で、前年度対比1億6,595万9,000円の減額で、構成比は34.2%となりました。

本町歳入の根幹であります町税収入につきましては、平成25年度の調定額等を勘案し、573万4,000円増額の9億781万円を計上いたしました。

そのほか、自主財源の主なものは、分担金及び負担金4,498万5,000円、使用料及び手数料

4,259万9,000円、財政調整基金等からの繰入金として2億4,016万2,000円、繰越金1億7,000万円、諸収入5,200万6,000円であります。

一方、依存財源につきましては、28億1,926万8,000円で、前年度対比1億7,604万1,000円の減額で、構成比は65.8%となりました。本町の歳入で最大のウエートを占める地方交付税につきましては、ほぼ昨年度並みの総額18億2,700万円を計上し、構成比は42.7%となりました。

このほかにも、地方譲与税は200万円減額の6,200万円、地方消費税交付金は1,700万円増額の1億500万円、自動車取得税交付金は1,150万円減額の1,050万円、国庫支出金は7,352万3,000円増額の3億2,592万3,000円、県支出金は7,906万4,000円減額の2億3,064万5,000円を計上いたしました。

また、町債では、地方財政計画通常収支不足に対する臨時財政対策債1億7,000万円、単独道路改良事業等の土木債5,340万円、緊急防災・減災事業等の消防債1,650万円など、前年度対比1億5,950万円の減額、構成比5.7%の2億4,250万円を計上いたしました。

国民健康保険特別会計。

国民健康保険特別会計予算につきましては、最近における医療費の動向に対応する予算を国の予算編成通知に基づき編成し、歳入歳出予算総額は前年度対比3,966万7,000円の増額で、それぞれ16億1,378万7,000円を計上いたしました。

歳出の主なものは、保険給付費11億1,005万8,000円、後期高齢者支援金等1億9,008万8,000円、介護納付金9,567万7,000円、共同事業拠出金1億9,538万3,000円及び保健事業費1,275万円であります。

歳入の主なものは、国保会計の主要財源であります国民健康保険税が3億37万7,000円、国庫支出金3億5,529万6,000円、退職者医療に対する療養給付費交付金9,539万9,000円、前期高齢者交付金4億2,817万9,000円、県支出金7,821万7,000円、共同事業交付金2億900万円及び繰入金1億680万6,000円であります。

近年では、医療保険制度が複雑化しておりますが、医療費等の動向を見極め、適切に対処してまいります。

介護保険特別会計。

介護保険特別会計予算につきましては、平成24年度から平成26年度までの3年間の計画期間とする第5期介護保険事業計画に基づき、介護サービスを見込み、地域包括支援センターが行う介護予防事業等の状況を踏まえて予算を編成いたしました。

歳入歳出予算総額は、前年度対比7,614万1,000円の増額で、それぞれ10億5,556万5,000円を計上いたしました。

歳出の主なものは、要介護・要支援者が利用する各種サービス等の保険給付費10億899万6,000円、地域包括支援センターが行う地域支援事業費3,364万6,000円であります。

歳入の主なものは、第1号被保険者保険料1億7,876万4,000円、国庫支出金2億6,692万9,000円、支払基金交付金2億9,554万6,000円、県支出金1億5,551万3,000円及び繰入金1億4,681万1,000円であります。

後期高齢者医療特別会計。

後期高齢者医療特別会計予算につきましては、保険料の徴収事務並びに広域連合への保険料納付の事務に係る予算を編成し、前年度対比805万7,000円の増額で、歳入歳出それぞれ1億1,718万3,000円を計上いたしました。

歳出の主なものは、広域連合納付金のうち、保険料負担金が1億950万1,000円、事務費負担金が522万5,000円であります。

歳入の主なものは、後期高齢者医療保険料7,585万4,000円、繰入金4,101万2,000円であります。

後期高齢者医療制度の運営主体である静岡県後期高齢者医療広域連合と密接に連携し、適切に対処してまいります。

南上財産区特別会計。

南上財産区特別会計予算につきましては、歳入歳出それぞれ19万2,000円を計上いたしました。

歳出につきましては、総務管理費19万2,000円で財産区管理運営事務費であります。

歳入につきましては、財産運用収入3,000円、繰越金18万8,000円が主なものであります。

南崎財産区特別会計。

南崎財産区特別会計予算につきましては、歳入歳出それぞれ45万2,000円を計上いたしました。

歳出につきましては、総務管理費45万2,000円で、財産区管理運営事務費であります。

歳入につきましては、繰越金11万2,000円及び財産運用収入34万円であります。

三坂財産区特別会計。

三坂財産区特別会計予算につきましては、歳入歳出それぞれ906万8,000円を計上いたしました。

歳出につきましては、総務管理費906万8,000円で、主なものは、財政調整基金積立金736万円、地方自治法に規定する不均一課税を行わない見返りとして、三坂地区の公共事業等に対応するための一般会計繰出金155万円などであります。

歳入につきましては、財産運用収入896万6,000円、繰越金10万円が主なものであります。

土地取得特別会計。

土地取得特別会計予算につきましては、歳入歳出それぞれ1,752万4,000円を計上いたしました。

歳出の主なものは、差田地内の差田グラウンド周辺敷地取得のための公共用地取得費1,692万4,000円、土地開発基金繰出金60万円であります。

歳入の主なものは、土地開発基金からの基金繰入金1,692万4,000円、財産貸付収入60万円であります。

公共下水道事業特別会計。

公共下水道整備事業につきましては、供用開始から既に14年が経過しており、事業認可計画に基づき平成28年度の事業完了を目途に、下賀茂処理分区の管渠整備事業を推進しております。本事業に係る歳入歳出予算総額は、前年度対比4,913万1,000円の増額の3億6,062万5,000円を計上いたしました。

歳出の主なものは、クリーンセンター改築更新実施設計業務委託料1,300万円、湊手石下賀茂処理分区管渠工事1億2,000万円、上水道等移設補償費3,354万円のほか、下水道管渠維持管理工事2,145万円、南伊豆町クリーンセンター等の下水道施設維持管理事業に1,396万2,000円及び公債費1億579万9,000円であります。

歳入の主なものは、受益者負担金803万9,000円、下水道使用料3,960万2,000円、国庫支出金6,650万円のほか、一般会計繰入金1億6,806万2,000円、下水道施設移設補償費1,500万円及び下水道債6,340万円であります。

子浦漁業集落排水事業特別会計。

子浦漁業集落排水事業特別会計につきましては、平成8年4月の供用開始から19年目を迎えますが、前年度対比708万4,000円の減額の1,324万2,000円を計上いたしました。

歳出の主なものは、管理委託料447万6,000円、町債元金償還金550万3,000円及び利子償還金267万8,000円であります。

歳入の主なものは、一般会計繰入金846万7,000円及び使用料収入の447万6,000円であります。

中木漁業集落排水事業特別会計。

中木漁業集落排水事業特別会計につきましては、平成14年4月の供用開始から13年目を迎えますが、前年度対比82万9,000円の減額の900万4,000円を計上いたしました。

歳出の主なものは、管理委託料486万円、町債元金償還金272万5,000円及び利子償還金87万2,000円であります。

歳入の主なものは、一般会計繰入金384万8,000円及び使用料収入486万円であります。

妻良漁業集落排水事業特別会計。

妻良漁業集落排水事業特別会計につきましては、平成21年4月の供用開始から6年目を迎えますが、前年度対比65万2,000円増額の1,928万円を計上いたしました。

歳出の主なものは、管理委託料412万8,000円、町債元金償還金1,189万1,000円及び利子償還金268万6,000円であります。

歳入の主なものは、一般会計繰入金1,482万4,000円及び使用料収入412万8,000円です。

水道事業会計。

水道事業会計につきましては、業務の予定量を総配水量174万^m₃、給水戸数5,296戸、建設改良事業1億9,981万1,000円のほか、受託工事540万円を見込み、予算編成をいたしました。

収益的収支予算では、事業収入として3億2,415万3,000円を見込み、このうち給水収益では2億3,460万8,000円、他会計補助金で4,243万4,000円を計上いたしました。

事業費用では、減価償却費及び企業債支払利息以外の支出として、上水道14施設、簡易水道31施設の施設管理及び料金事務等に係る業務委託費を計上いたしました。

また、地方公営企業会計基準の見直しにより、有形固定資産減価償却費等が増額となり、費用総額3億1,050万4,000円を計上いたしました。

このことから、本年度の予定損益は542万5,000円の純利益を計上できる見込みです。

また、資本的収支予算では、支出の予定額を2億6,523万1,000円といたしました。主なものは、国県補助事業による簡易水道等施設整備事業（南上・蛇石・毛倉野）、町単独事業の天神原専用水道施設整備事業のほか、下水道事業に伴う配水管布設替工事及び企業債償還金であります。

これに対する収入予定額は、1億4,403万5,000円を見込んでおります。

主なものは、簡易水道等施設整備事業補助金3,700万円のほか、企業債4,960万円及び建設改良工事負担金5,344万円です。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額1億2,119万6,000円は、過年度損益勘定留保資金と当年度消費税及び地方消費税資本的収支調整額で補填する予定であります。

水道事業における健全経営に向けての取り組みといたしましては、地方公営企業に求められる独立採算性を旨として、極めて厳しい経営環境にあることを認識しつつ、より一層の経済性を追及し、経営の合理化と安定給水に努めてまいります。

以上で、平成26年度における施政方針及び予算編成方針の説明を終了いたします。

次に、行政報告を申し上げます。

平成26年南伊豆町議会3月定例会の開会に当たり、次の10項目について行政報告を申し上げます。

1、石廊崎ジャングルパーク跡地利用計画について。

町では、岩崎産業株式会社との訴訟が終了し、平成25年9月24日に取得した石廊崎ジャングルパーク跡地の利用計画を策定するため、公募を含めた町内外36人のメンバーにより、11月22日から町民参加型町政の手法として、毎月ワークショップを開催しております。

ワークショップでは、石廊崎地区の自然や歴史、文化等を検証し、課題や問題点等を分析するとともに、石廊崎を訪れた観光客や石廊崎区民からの意見聴取を実施するなど、毎回、趣向を凝らして検討を重ね、本年3月末までには基本構想案として提案をいただきたいと考えております。

そのような中、ワークショップにアドバイザーとして参画いただいている千葉大学大学院木下教授のご尽力により、千葉大学園芸学研究科と地域・町が連携して、地域の活性化を図ることを目的として、域学連携に関する相互協力協定を締結するよう準備を進めております。

域学連携とは、過疎地等における地域づくりの手法のひとつとして総務省が推奨するもので、大学生や大学教員が地域の現場に入り、地域の住民等とともに、地域の課題解決または地域づくりに継続的に取り組み、地域の活性化及び人材育成に資する活動をいいます。

地域にとっては、大学に集積する知識、情報、ノウハウが活かされること、地域で不足する若い人材力を活用できること、地域の活性化が図られることなどのメリットがあり、また大学にとっては、実践の場が得られること、教育・研究活動へのフィードバックが図られることなど、双方にとって大きなメリットが見込めます。

今後、ワークショップでご提案いただいた利用計画の基本構想案を基に、域学連携により、新生石廊崎の構築に向けて利用計画を策定してまいりたいと考えております。

2、地熱資源の活用について。

町では、これまで経済産業省の「地熱資源開発調査事業費助成金交付事業」及び「地熱開発理解促進関連事業支援補助金」制度を活用して、人口減少や少子高齢化対策として、地熱資源を活用して農林水産業、観光業等新たな産業や雇用の創出を図るまちづくりを提案し、町民の皆様には報告会や座談会を開催してまいりました。

町民の皆様からは、賛意を示すご意見もいただきましたが、地下深部の掘削や地熱発電所の建設による温泉への影響を危惧される声がありましたので、平成25年度の補助金申請は断念し、町民のご理解を得るため、本年1月9日に「地熱資源活用によるまちづくり勉強会」を役場湯けむりホールで開催いたしました。

勉強会では、地熱資源調査と周辺地域への影響について、地熱開発事業に実際に携わっている専門家による講演をいただき、地熱資源調査の方法等の説明のほか、国内の地熱発電所では、これまで発電所設置や地下資源の活用によって周辺温泉に影響を与えたことがないことや、平成23年3月11日の東日本大震災では、震災の翌日から地熱発電所が活躍したことなどの事例が紹介され、周辺温泉への影響に対する不安の払拭のためには、調査の段階から、温泉組合との共同によるモニタリングの提案などをいただきました。

参加者からは、地熱開発による町の活性化に関するご質問、人口減少による将来への不安の声、周辺温泉への影響を危惧するご意見、バイナリー発電の提案、温泉組合の同意の必要性のご意見、温泉の一元化の可能性に関するご質問、地熱資源を町民の財産として利活用すべきとのご意見などがありました。

その後、さらに町民のご理解を得るべく、特に源泉所有者の方を中心に町民との対話を続けつつ、事業推進のためには南伊豆町温泉組合のご理解が不可欠であることから、本年2月17日に南伊豆町温泉組合理事会においてご説明をさせていただき、事業の趣旨についてご理解を深めていただいたところであります。

今後は、経済産業省の補助金申請に向けて準備を進めつつ、南伊豆町温泉組合としての意思決定は総会において決することになるため、組合員の皆様にご理解を得られるよう尽力してまいりたいと考えます。

3、一條稻梓線道路建設促進期成同盟会設立について。

本年1月16日、休暇村南伊豆において、会員の全会一致で一線稲梓線道路建設促進期成同盟会が設立されたことを、まずは報告いたします。

平成23年に起きた東日本大震災における津波被害を受けて、海からの災害を避け、現在建設中の命の道である「伊豆縦貫道」にアクセスできる道路建設を促進していく目的で設立し

ましたが、緊急支援・援助のための「道」としての活用はもとより、観光業が主な産業の伊豆全体で考えた場合、観光客誘致にも大きな役割を果たすことも期待される大事な「道」であるとも考えております。

また、2月11日には「東駿河湾環状道路」の三島塚原から函南塚本までが開通し、東名・新東名沼津インターチェンジから修善寺インターチェンジまでが全線開通し、さらに東名・海老名ジャンクションと中央道・八王子を結ぶ圏央道が6月中には全線開通する予定であり、これにより北関東方面から修善寺までが4時間程度で結ばれることとなります。

そのような中、一條稲梓線道路の早期開通が伊豆半島の観光活性化に大きく期待されるものと考えております。

今後は、住民の皆様、関係団体の皆様に賛同・ご協力をいただき、会を大きくしながら、この期成同盟会を盛り上げ、道路建設が一日も早く事業化できるように努力してまいります。

4、防災対策について。

(1) 湊地区津波避難タワー。

本年2月26日に、湊地区弓ヶ浜海岸隣接区有地に建設中の津波避難タワーの完成検査を実施する予定です。

この津波避難タワーは、南海トラフ巨大地震に伴い発生する大津波を想定し、高さ12メートル、1,000人の収容ができる施設です。

想定津波浸水域の皆様や海水浴客の皆様の命を守るタワーとして、本年度、防災の最重要課題として取り組みました。

今後も、津波に対する恐怖を払拭する、安全・安心な施設として、町民の皆様には普段から慣れ親しんでいただき、防災訓練等での活用をお願いいたします。

(2) 平成25年度事業実績。

本年度における防災対策事業といたしまして、津波避難タワーのほか、様々な事業を展開してまいりました。

静岡県第4次地震被害想定に伴う、地域防災計画の見直しや、災害時の情報伝達網の強化を目指し、静岡県との共同利用による移動系防災行政無線のデジタル化整備を図るとともに、孤立予想集落9地区への衛星携帯電話の配備を実施し、昨年度と合わせ、町内17の孤立予想集落に配備が完了いたしました。

また、ライフライン対策として、上水道施設の手石中継ポンプ場非常用自家発電機整備、継続実施している備蓄食料1万1,000食及び非常用飲料水として2リットルペットボトル1

万1,000本を新たに購入いたしました。

このほか、自主防災事業費補助金を活用し10地区の自主防災会が避難地・避難路整備、資機材整備を図り、1件の津波避難ビル協定事業者が津波避難ビル機能整備等事業費補助金を活用し、転落防止のための手すりのかさ上げ等の機能整備を図りました。

今後も、安全・安心のまちを目指し、防災・減災対策を推進してまいります。

5、イベントの開催状況について。

(1) 第16回みなみの桜と菜の花まつり。

「第16回みなみの桜と菜の花まつり」が、本年も2月5日から3月10日までの間、道の駅「下賀茂温泉湯の花」をメイン会場に開催されております。

まつりの開催に先立ち、2月5日には菜の花畑ステージにおいて神事がとり行われ、「第16回みなみの桜と菜の花まつり」の成功と期間内の安全を祈願いたしました。

また、2月9日には菜の花まつりのメインイベントの一つでもある菜の花結婚式が、下田高校吹奏楽部の奏でるメロディーにのせ、執り行われました。

今回の新郎新婦は、南伊豆町在住の井上様ご夫妻で、黄色い絨毯を敷き詰めたような菜の花畑で、皆様に祝福されながら結婚式が挙げられたことを大変喜んでおられました。

さらに、昨年実施いたしました「夜桜流れ星」が皆様より大変な好評をいただき、5日間で1万2,000人の観光客で賑わい賑わいました。

本年は、昨年より2日間延長した7日間開催とし、あわせて「夜桜流れ星見学ツアー」と銘打った宿泊商品を旅行代理店に依頼し、宿泊者の増大に向けた誘客宣伝に努めているところであります。

そのような中、2回目となります台湾エージェントを招聘したFamiliarization Trip - 通称ファミトリップ（現地に招いて下見を目的とする旅行）を3月4日に開催し、海外からの誘客にも努めてまいりたいと考えております。

(2) 南伊豆・下賀茂温泉夜桜マラソン。

本年2月22日、町営温泉銀の湯会館をスタート・ゴールに、青野川河川敷道路において、第1回南伊豆・下賀茂温泉夜桜マラソンが開催されました。

昨年まで事業主体でありました南伊豆夜桜ナイトラン実行委員会が、今大会より南伊豆・下賀茂温泉夜桜マラソン実行委員会に変更され、あわせて名称も「南伊豆夜桜ナイトラン」から「南伊豆・下賀茂温泉夜桜マラソン」に変更しての開催となりました。

当日は、関東圏を中心に450人の選手が、5キロメートル、10キロメートル、20キロメー

トルの各コースにエントリーをしていただき、元気に青野川の特設コースを駆け抜けました。

競技中は、観光協会や銀の湯会館指定管理者による「おもてなしコーナー」が設けられ、遠方からの参加選手に対して、町を揚げてのおもてなしをすることができました。

6、観光客入り込み状況について。

4月から12月までの観光客等の入り込み状況がまとまりましたので、報告いたします。

下記のとおりでございます。ご参照ください。

分野別に見てみますと、宿泊施設は16万942人で前年度対比96.44%、観光施設は10万5,606人で前年度対比104.31%、銀の湯会館・みなと湯の町営温泉施設は8万2,040人で前年度対比102.14%と、宿泊施設を除くと前年度を上回る入込数となりました。

今回、宿泊施設につきましては、民宿宿泊者数が昨年度とほぼ同数の宿泊数でありましたが、旅館・ホテルにおきましては、昭和初期から営業しておりました老舗旅館が11月から休館状態に入り、現在も営業が再開できない状態にあります。このようなことにより、宿泊客数が減少したものと推定しております。

7、三浜小学校統合について。

三浜小学校と南中小学校の統合につきましては、本年度9月定例会におきまして、「南伊豆町立小、中学校及び幼稚園設置条例」の一部改正を行い、平成26年4月1日から施行することについてご同意いただきました。

また、本年1月10日には、学校教育法施行令第25条第1号の規定に基づきまして、静岡県教育委員会に対し、平成26年3月31日をもって三浜小学校を廃止する旨の届け出を行いました。

これにより、三浜小学校と南中小学校の統合に係る書類上の手続は完了したところであります。

三浜小学校におきましては、閉校に向けた準備作業としまして、閉校記念誌を約500部作成し、地元地域、関係者への配布を予定しているほか、3月28日には閉校記念式典を行うことを予定しております。

統合後の南中小学校につきましては、三浜小学校からの児童9人、三浜地区からの新入学児童3人を迎え、全校児童数は204人となる見込みです。

なお、三浜小学校の跡地につきましては、庁内の検討委員会を中心に引き続き検討してまいります。グラウンド及び屋内運動場につきましては、これまで同様に社会体育施設として貸し出しを行っていくこととしております。

8、マスコットキャラクター「いろう男爵」について。

町では、このたび「いろう男爵」を南伊豆町の宣伝部長に任命し、「広報みなみいず」1月号で紹介するとともに、本年1月10日に行われた南伊豆町産業団体連絡協議会主催の「賀詞交歓会」や1月12日に行われた「成人式」においてお披露目いたしました。

「いろう男爵」は、当初は町建設課のツイッターで情報提供する際のマスコットキャラクターとして職員が作成し、庁舎内に配置していたところ、来庁者から好評価をいただいていたものであります。

そのような中、長年の懸案事項であった岩崎産業株式会社と町との訴訟が決着し、石廊崎の新生に向けて、ジャングルパーク跡地の利用計画を策定するため、ワークショップ等により町民の皆様が積極的に町政に参加いただいている時期において、「いろう男爵」は応援キャラクターとして最適であると判断しました。

町建設課のツイッターから飛び出て、町の宣伝部長として活躍し、さらに町民の皆様のご支援に支えられながら、町の公認キャラクターとして活躍する「いろう男爵」のサクセスストーリー・出世物語に期待しているところであります。

今後は、町でも様々な場面で登場させますが、何より町民の皆様に積極的にご活用いただき、町の活性化に貢献できるよう尽力してまいりますので、町民や議員の皆様方のご支援、ご協力をお願いいたします。

9、地域おこし協力隊について。

総務省が創設した「地域おこし協力隊」の静岡県版である「ふじのくに暮らし推進隊」として、静岡県から2人の隊員が、平成23年1月16日から平成25年3月31日までの任期により、本町に派遣され、南上地区を活動拠点として、地域の維持、強化を図ることを目的として、様々な地域活動を実践してまいりました。

任期満了後に1人の隊員は帰郷しましたが、ほかの隊員は、平成25年4月1日から本年度末まで南伊豆町の地域おこし協力隊員として委嘱して、活動を継続してまいりました。

隊員のこれまでの活動につきましては、町の移住セミナーへの参加協力、南上新聞やフリーペーパー・ミナミイズムの発行、ブログによる広報活動、農林漁家民宿の開設支援、地元の住民や高校生と協働して休耕地に大豆を植え、地場産品として商品化する大豆プロジェクトの創設、道路や休耕地の草刈り、道路側溝の清掃等各区の自主行事への参加、地域の祭典参加等により、地域の維持、強化を図ってまいりました。

町では、こうした隊員の受け入れは初めてのことで、試行錯誤を重ねながら、特に区長様

を初めとした南上地区の皆様のご支援、ご協力をいただきながら活動をしてまいりました。

隊員導入の評価につきましては、地域の皆様のご判断にもよりますが、町といたしましては、南上地区における地域の維持、強化、活性化のきっかけの一つにはなったと考えており、今年度まで委嘱している隊員は、今後も町民として地域おこしの活動に参加するとのことですので、まちづくりに対する貢献を期待しているところであります。

町では、南上地区の地域おこし協力隊員の受け入れ経験を生かして、平成26年度は三浜地区を拠点として、観光資源の活用やPR及び誘客活動を中心に同地区の活性化を図るため、新たに2人を地域おこし協力隊員として委嘱したいと考えております。

三浜地区の方はもとより、町民の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

10、無医地区への取り組みについて。

平成23年3月に策定された静岡県第11次へき地保健医療計画では、南伊豆町全域を「へき地」に指定し、伊浜・天神原地区を「無医地区」として指定しております。

同計画による派遣医師等の確保は困難を極め、県内の無医地区解消には至っておりません。

また、同計画には指定地区の医療確保及び診療支援対策の推進が掲げられ、町が実施する定期患者輸送事業には補助金が交付されております。

そのような中、町でも独自に「無医地区」の医療確保を模索してまいりましたが、今般、伊豆今井浜病院のご理解、ご協力によりまして、伊浜・天神原地区での巡回診療室を開設する運びとなりました。

これは、本年4月から毎月1回、医師・看護師が指定地区に出向き、公民館等施設を活用し診療業務を実施するもので、2月19日付により同病院長から提出された巡回診療実施計画届を受理したところであります。

伊豆今井浜病院のご厚意に感謝の意を表するとともに、今後も「へき地」医療事業の充実に努めてまいります。

以上で、平成26年3月定例会の行政報告を終わります。

○議長（稲葉勝男君） これにて、施政方針、予算編成方針並びに行政報告を終わります。

ここで10時50分まで休憩します。

休憩 午前10時40分

再開 午前10時50分

○議長（稲葉勝男君） 休憩を閉じ、会議を再開します。

◎一般質問

○議長（稲葉勝男君） 日程第5、これより一般質問を行います。

◇ 加 畑 毅 君

○議長（稲葉勝男君） 1番議員、加畑毅君の質問を許可します。

加畑毅君。

〔1番 加畑 毅君登壇〕

○1番（加畑 毅君） 通告に従って質問をさせていただきます。

冒頭で議長のほうからも挨拶があったように、菜の花まつり真っ最中ということで、この時期の質問というのは観光に関することが非常に多くなる傾向にあると思っております。ただ、雪の影響とかありまして、せっかく2月11日に開通した東駿河湾環状道路を通じてのお客様がたくさん来てくれるのではないかなというような期待があったんですけども、雪の影響で、実際には雪には余り縁のない南伊豆も影響を受けてしまうというようなこともありまして、観光の問題と並行して様々な諸問題を解決しながら、景気回復を待つのがこの町のスタンスなのかなと思う中で、質問を始めさせていただきます。

まず、今日の質問は3つあります。一番最初が、温泉地熱調査の継続と地域活性化座談会の進め方ということでありまして、2番目が町の災害対策への取り組み、3番目に今まで行った質問について、その後の経過を教えてくださいというような形で進めさせていただきます。

まず、一番初めです。地熱資源活用についての現在の状況についての質問をさせていただきます。

先ほどの町長の報告の中でもありましたけれども、1月9日に南伊豆町役場湯けむりホールにて行われた「地熱資源活用によるまちづくり勉強会」、これが開催されたときのその後

の進行というのは先ほどもありましたけれども、詳細もしゃべるところがあれば、報告以上に内容をちょっと教えていただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

1月9日の勉強会で、地熱資源調査等、周辺地域への影響について、地熱開発事業に実際に携わっている専門家から講演をいただきました。

先ほども述べましたように、参加者からは依然として周辺温泉への影響を危惧する意見がありますが、私はもっと大きな意味で、町自体の存続、人口減少等、そういうことを考えたときに、どうしてもこの地熱資源を活かしたまちづくりをやっていきたいなど、このように決意をしております。

そして、町民の皆さんのご理解を得るべく、先ほども説明しましたが、温泉組合理事会においていろいろとこちらからの説明をし、ある程度の一定の理解を得ることができたなど、私は思っております。

これは、もう議員もご承知のように、この補助金が非常に、100%の補助金でありまして、そして高額の補助金が出るということを考えたときに、ぜひこの補助金を受け取って、そしてまちづくりの活性化に私は資したいと、役立てたいと、このように思っており決意しております。

ぜひ議会の皆様、議員は当然、この地熱開発に関して、ご理解とご協力のほうお願い申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 加畑毅君。

〔1番 加畑 毅君登壇〕

○1番（加畑 毅君） ありがとうございます。

1月9日のこの説明会ですけれども、私も参加させていただきました。町長の非常に強い説得といいますか決意といいますか、聞くことができまして、十分浸透しているのではないかなという感触は受けたんですけれども、やはりどうしても心配される方々の意見というのもありまして、進み方というのもブレーキがかかってしまうのかなというところもあります。

ただ、今年度の補助金申請を見送ったという報告を先ほど受けましたけれども、いつまでも国のほうもこれを出してくれるというわけでもないと思うんです。期限も迫ってくるんだと思います。多分、ほかの自治体との競合という話にもなってくるでしょうし、近隣市町

でも自然再生エネルギーには積極的な姿勢を出しております、もう補助金申請を行っているところも数多く見つかっています。例えば、松崎町の川ノリとか天草等の乾燥や災害非常時の電源確保のための温泉熱利用という記事も新聞で読みましたし、河津町では、小水力発電で街灯や非常用コンセントの電源を確保するための再生エネルギーということで、活動は行っております。プラス熱海市では、熱海青年会議所、熱海J Cのほうから温泉熱活用の提言ということで、齊藤市長に提出と。最近の新聞紙上、まあ原発のこともあるんですけども、自然再生エネルギーに関しての記事もありますし、どこの自治体も取り組んでいるということがあります。

我が町が目指している地熱を利用してというところは、非常に調査段階も難しいということとは承知しておるんですけども、乗りおくれられないように何とか活動していけないかなというところを思っております。これが町の将来の活性化に繋がるはずだと思うんですけども、その点、町長、いかがでしょうか。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 本年度という言い方をしましたけれども、本年度というのは暦年のあれで、間違いでした。昨年度というか。

それで、今、町で考えているのは、この3月末ぐらいまでには何とか申請にこぎつけたいなどは思っていますけれども、これはやはり町民の皆さんのご理解を得ないで進めるわけにいかない事業ですので。

それと、議員がおっしゃるように、利用再生可能エネルギーというか自然エネルギー、これに関する考え方というのは物すごく進んできております。そして、エネルギーの地産地消、そういうことを考えたときに、どうしてもこの事業は進めるべきであろうということと、それと常々議員もおっしゃっているように、南伊豆の宝であると、地熱資源は。私もそのように思っています。そして、いわゆる石油やシェールガスに匹敵するようなこの宝を逃すことはないだろうと、南伊豆町が。この機会を逃すと、多分南伊豆町の独自の力では、この地熱開発はまずできません。そのことをぜひご理解いただいて、国が今援助してくれる、補助してくれる、補助金を出してくれる、これも100%出してくれるということの中で、この事業が成り立つのかなと、このように考えております。

そのようなかたい決意でありますが、町民の皆さんのご理解が得られるかどうか、そこに今、正念場に来ているのかなと、このように思っております。

○議長（稲葉勝男君） 加畑毅君。

〔1番 加畑 毅君登壇〕

○1番（加畑 毅君） 町長の思いがずっと変わっていないということは確認できました。ぜひとも私も、それは推進していただきたいと思います。今、我々世代が、40代なんですけれども、今後やっぱりこの町の問題を抱えるところをどう解決していこうかというところを考えたときに、やはり高齢化率も上がっていくというところで、現在が37.4%なんですけれども、2040年には6,000人台になってしまうということです。

この間、新聞で松崎町が県内で最も小さな町ということで、6,000人台ということで載っていましたけれども、やはりそうすると本当に逼迫した問題になって、背水の陣になっていくんだなということを感じております。今現在は何とかやってこられても、今後を考えた場合に、やはり町の資源をきちっと生かした状況をつくっていかなければ、その状況になってからだ手遅れということもあると思いますので、ここは慎重にはあるんですけども、大きな決断で進めていただきたいと思います。

最初の質問はそれで終わります。

2番目です。町の災害対策への取り組みということで、質問させていただきます。

1月24日に、「土砂災害防止法による区域の指定」に関する説明会が下賀茂の公会堂で開催されました。下田土木事務所の担当者から詳細説明があったのですが、説明の中で、窓口は各市町の防災担当になるということですので、議会定例会で質問させていただきます。

町内に数多くある崖崩れ注意、それから土石流危険渓流の看板については、議会の一般質問の中でも過去に何度か聞いております。ただ、結局は予算づけの予算はないという回答で終わっておりまして、これは県のことですからということで、どうしてもそういう回答になってしまうんですけれども、今回やっと動き出したという思いで説明会に臨んだんですけれども、その土木事務所の説明者から、まずは工事を行うための説明会ではありませんということから始まったわけです。

警戒区域、特別警戒区域を指定することで、災害に対する住民意識を高めること、それぞれの日ごろの準備を怠らないように注意を促す意味での効果はあると思うんですけれども、そもそも危険ですよとおきながら工事を行うつもりはありませんという説明では、これはちょっと無責任ではないかなと、これは県に対してなんですけれども、そういうふうに感じました。

自治会としても、防災訓練の方法、津波と地震等の内容、内容を実際は変える必要がある

と思うんです。津波のための防災訓練と、地震のための防災訓練と、これは方法が違うと思うので変える必要があると思うんですけれども、結果的には地震発生と同時に津波が起きて、土砂崩れが起きた場合に、どうすればいいのかということになるわけです。あの西伊豆の災害が起きたときに、津波から逃げるために山の斜面に避難地をつくったら、そこが最初に崩れてしまったと。これでは、どうしようもないという状況なわけですよ。その辺まで含めて、本来は防災の対策を進めるべきではないかなというふうに思ったんです。

これは、前の町への質問の中でも言ったんですけれども、県のほうで危険な地域ですという指定をする意味での説明会であれば、もちろん予算をつけてくれますよねという要望をしたんですけれども、やはり県のほうからは、工事をするための説明会ではありませんということに終わっています。実際にやっぱり、参加した人の中には、工事しないのに何で説明会を行って、危険だという不安をあおったのかなという意見も実際ありました。

山林の整備についても重要だという質問も何度もさせてもらっていますし、それにプラスして津波対策のための高台の設置、それから山崩れを防止するための整備、非常にこれは重要なことなんではないかと思うんですけれども、県のほうとしては、一応着手したけれども工事はしません、危険だから気をつけてねと、話にならないと思うんですよね。これは、町のほうから働きかけることはできないんでしょうか。どうしても山林の面積が多い町でもありますので、ここはもう県の動きを待っている場合ではないかなと思うんですけれども、その点は担当者の方、どう考えているんでしょうか。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

現在、下田土木事務所が各地区で開催している、「土砂災害防止法による区域の指定」に関する説明会ではありますが、「土砂災害防止法」に基づき、土砂災害の発生するおそれのある土地を明らかにし、町民の避難体制や整備や、住宅建築の抑制を図ることにより、安全な地域づくりを進めるソフト事業として行われております。議員のおっしゃるとおりでございます。

ただ、そこにハード事業に対する予算がつかないというのは非常に問題があるかなとは思いますが、町としましても、「土砂災害防止法」による区域指定をもとに、自らが住んでいる場所の土砂災害に対する危険度を理解していただき、緊急避難に活用していきたい。この事業で指定されたところに対しては、そういう利用をしていきたい、このように思

っております。

また、ハード事業としては砂防・地すべり・急傾斜地がありますが、いずれも要望による事業となるため、その促進を図るべく町民に対して啓発していき、ソフト・ハード両面から安全面の確保に努めてまいります。

また、指定が終了した地域には、ハザードマップの配布を予定しておりますし、砂防・地すべり・急傾斜地対策事業は、町民の要望に対する受付窓口を設け、県に対し早急に事業化していただくよう要望しているところでもあります。具体的には、今、石廊崎の砂防に関しては、事業を進めているところでもあります。ただ、これはこのとおりで、あくまでも住民のほうはその事業に賛成してくれないと事業開始ができないというか、土地所有者の理解を得なければならないという大きな問題がございます。今、町として具体的にやっているのは、その石廊崎の事業は進めている、何とか進めようとして努力しております。

具体的には課長から答弁を。

○議長（稲葉勝男君） 建設課長。

○建設課長（鈴木重光君） お答えします。

今、砂防事業は、加納の加納北沢というのが事業を進めております。用地がほぼ終わりました、来年度ぐらいから事業を進められると思います。あと、今、町長が言いましたように、石廊崎区からの要望を集約して事業化をしようとしている状況です。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 加畑毅君。

〔1番 加畑 毅君登壇〕

○1番（加畑 毅君） 今、町長からの答弁と建設課長のほうからの答弁で、石廊崎についての、要望のあったところについての対策というところは非常にわかりやすくわかったんですけども、私はそもそも疑問に思っていることは、例えば商店街の中、役場の周辺にも小さい看板がついているんですね。それには、崖が崩れて家が潰される絵が描いてあるわけですよ。これを観光客の人が見たときに、ここって崖崩れするんですねというふうに言われました。実際言われました。では、ここは住めないということですかという話なんですけれども、いや、住んでいますと、私が小さいころからありますけれども、崩れたことはありません。ただ、県のほうは、崩れる危険性があるから気をつけてくださいねというところにしてしまっているわけです。

例えば、これを何年までに県のほうで予算をつけてやりますから、その間気をつけてねと

いうならわかります。でも、工事する予定はありません、気をつけてね、崩れますと、何でもそんなことするんでしょうねということ、これは町に聞いてもしょうがないんですけれども、どうしてこんなことを県がするのかなど。これは私、6年も前からずっと言っていて、県にも聞いているんですけれども、県のほうは予算がありませんと、町のほうとしては県のことですということで堂々めぐり、だけれども看板は立ってしまうと。この現状をどうにかしてほしいんですけれども、いかがでしょうか。

○議長（稲葉勝男君） 建設課長。

○建設課長（鈴木重光君） お答えします。

もともと国が「土砂災害防止法」という法をつくったやっぱり大もとのソフトでありまして、ソフト事業でありまして、第4次津波の二次想定ですと、もう避難をなささいという、多分そこに該当するのではないかなという考えにあります。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 加畑毅君。

〔1番 加畑 毅君登壇〕

○1番（加畑 毅君） 看板によって、危険ですよという注意は促されて、住民の意識は高まります。それはすごくわかります。それで、自主的に避難訓練しなければいけない、対策しなければいけない、これはわかります。ただ、法律によって例えば、用途地域の指定によって、例えば都市計画区域内に該当していないところは、例えば接道義務を果たさなくても家が建つよとかという抜け道があるわけですよ、抜け道と言ったら変ですけども。結局、それによって資産の価値も変わってきてしまうんだろうなということがあるんです。そうすると、これは町民の生活にとって大きく影響するのではないかなと。

簡単に、県のほうで警戒地域ですと、特別警戒地域ですと、来年からはこの土地には家が建たなくなりましたというのはちょっとどうなのかなと。既存の建物について壊せとは言わないまでも、今後そこには家が建ちませんとなれば当然資産も減ります。そうすると、そこは例えば商売をしたときに、その土地を担保に入れて商売をされたときに、それだけの影響は出てくるはずなんです。その辺までも、県のほうは承知してやっているのか、予算がなくて整備できないけれども、一応着手しているから認めてくださいよということをやっているのかということが非常に追及しづらいところなんです。

私は町議でありまして、県議ではないですから、県のほうに追究することはできないわけですし、では、どのルートを使ってということですから前から思っていたんですけれども、

この下賀茂の公会堂で行われた説明会の中で、一応県のほうの人にも同じ質問をしました。困っていました。多分担当者もおかしいと思っていたと思うんです。ただ、これはやはり声を大にして言っていけないと直っていけないんだろうなど。先ほど、報告書の中でへき地指定されている地域でもありますので、簡単に見切られたら困るよというところは訴え続けていかなければならないなと思ひまして、ぜひとも町のほうから、この辺に関しては県にどんどん要望を突きつけたらいいのではないかなと思うんですけれども、その点いかがですか。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 議員のおっしゃるとおりだと思います。

私も、何年前に、家の前を急傾斜地なんてあれを貼られて、何でこんなのをやるんだということを言った、20年ぐらい前の話ですかね。だけれども、現実に関、議員がおっしゃるように土地の価値とか資産価値とかいろんなものに影響してくると、こういうことをぜひ機会あるごとに、国の国会議員とか担当部署に訴えられる機会があれば訴えていくようにいたします。

議員が言うように、やはり声を大にしていけなとなかなか国のほうは理解をしてくれなかなという気はします。行政というのは、やはりそういう部分があるのかなと思っております。努力いたします。

○議長（稲葉勝男君） 加畑毅君。

〔1番 加畑 毅君登壇〕

○1番（加畑 毅君） 町長からの言葉をいただきましたので、その方向で進めていただきたいと思ひます。観光地でもありますので、やはりその看板が一つあるだけでお客さんは引いてしまうと思うんですよね。この時期、商店街を歩いていて、これだけ中心地のところにその看板があると、真ん中でも崩れるんですねと、これは非常にイメージが悪いです、はっきり言って。本当に崩れかけているところへ、注意してくださいという警告看板だったらわかるんですけれども、要するに商店街の真ん中、一番栄えているべきところに看板があつて、気をつけてくださいねということは、これはちょっと方法を何とか考えられなかったのかなということがあります。それをやるんだつたら、どんどん山林を整備してくださいよと、崩れると思ったところは直してくださいよということは言わなければいけないのではないかなと思ひます。

山林整備というのは、防災だけではなくて、いろんな効果をもたらすのではないかなと思

うんです。例えば、極端に言って、今の時期桜まつりをやっていますけれども、山の整備を行わないことによって、その山影が影をつくって、花を見る時間が少なくなって、お客さんの滞在時間が少なくなる、これは回り回って経済効果には影響してきますよね。だとしたら、その点も考えて、山林整備が二重三重の効果があるということはやはり認識すべきだと思っています。

先ほど、町長の報告の中で、例えば縦貫道の話なんかも、災害用道路という位置づけであってもやはり、最初に効果をもたらすのはやっぱり観光なんだろうなと私は思うんです。東駿河湾環状道路ができて、本当に2月11日以降、桜まつりに合わせてくれて、ここにたくさんのお客さんが来るのではないかなという期待があったからこそ、ちょっとしたイメージだけで変わってきてしまうのが現状です。半島の先端に位置する我が町としては、これは大きな問題ですので、言い方は悪いですが、県のほうから見たらそんなことはと思うことが、この町にとっては重要なんだということはきちっと提言して行っていただきたいと思えますので、その点よろしくをお願いします。

もう一つ、災害対策に関しまして質問をさせていただきます。

1月31日に下田市中央公民館大会議室で開催されました、小林テレビさんの主催の「放送通信活用研究会」、その中で話題になった、防災マップの作成からNHKのウェブサイトへの公開というところを、小・中学校で取り組んでいるところもあるという話を聞いております。これを各自治会で行うという形はできないものかということをお聞きしたいんですけれども、当日、町長も副町長も積極的に参加しておられまして、すごいなと思ったんですけれども、あの会に参加してどんな感触を持ったのでしょうか。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

非常に有意義な会合であると感じております。それで、このICT勉強会ということで、私も副町長も、そして企画調整課、総務課、防災室、産業観光課の職員と参加したわけであります。

どちらにしても、今後、ICTというか、世の中の動きはそういう形の中で社会構成というか、いろんな形が行くんだろうなと、このように思っておりますので、非常に重要な会合だと思いました。それで、勉強会の講師としてNHK、日本マイクロソフト、ドコモ、NTT等から職員を招いて開催されたわけですが、その中でNHKのほうから防災マップをつく

ろうというコーナーについての説明があったと思います。

そのような中で、有事に備える、皆さんと作成する防災マップという意味では、非常に有効なツールになるだろうと。町では、危機管理局と連携して、小・中学校ではDIG訓練を実施し、自主防災会においても防災室として出前講座を開催していただき、防災マップ等の取り組みを実施しているところでもあります。また、新聞報道でありましたが、千葉大の木下先生がよく出てくるわけですが、二次逃げ地図をつくっていただけるという、こういう形も一つの、自分たちでやることによって、逃げるとかということに対する意識が醸成されると、そのように思っております。

そういうことを考えて、地域防災計画の全面見直し事業を実施しておりますので、この防災計画との整合性を保ちながら、防災マップ等への取り組みをより一層充実させていきたい、このように考えております。

○議長（稲葉勝男君） 加畑毅君。

〔1番 加畑 毅君登壇〕

○1番（加畑 毅君） 当日参加しておられた松本副町長、どのように感じておられましたでしょうか。

○議長（稲葉勝男君） 副町長。

○副町長（松本恒明君） お答えいたします。

町長が申し上げたとおりでございますが、後段で千葉大の木下教授の話が出ました。今回、住民の参画協働条例というものを出しておることの一連の考えの中で、千葉大の木下先生のご教授により、今度、域学連携という行動を起こします。

そういった中で、千葉大の教授、学生、我々職員、地区、町民総参加のような形に最終的には持っていければいいなと思うんですが、そういったことの中で防災を捉えていきたいというふうに考えました。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 加畑毅君。

〔1番 加畑 毅君登壇〕

○1番（加畑 毅君） ありがとうございます。

防災訓練、先ほどもちょっと言ったんですけども、やはりここをもうちょっと細かく方法を変えたほうがいいんじゃないかなというのは、私は前から思っています。私は、議会に入る前に防災委員として下賀茂のほうでやっていたこともあるんですけども、例えば、今

では考えられないですね、無線が使えなくてそこで連絡がとれなくて、携帯電話で連絡をとって、そっちは何人いるというような情報交換をしたとか、しゃれにならないような状況も実際ありました。これは何年も前の話なので、今これを責めるつもりはないんですけれども。

あと、方法についても、例えば津波の警報のテストの放送があるのに、高台に逃げないで、みんなで平場に集まって消火器を用意していると。何をしているんですかという話ですよ。例えば、下賀茂にしてみれば公民館に集まるのに、津波警報が出ているのに川を越えて公民館に集まると。これでは、練習になりませんよね。

ここはやっぱり地域の問題になってしまうんですけれども、そもそも防災訓練というと、集まってタイヤに火をつけて消火器で消せばいいんでしょというようなイメージがまだ強いんです。これは、目的によって変えなければいけないので、なあなあでと言うっては変ですけども、やはりこれは意識を一回変えないとまずいだろうなと思います。これは、各地区にいる防災委員を中心にするのか、区長さんたちを中心にするのか、まず一回、区長会のほうできちっと話をまとめてもらったほうがいいんじゃないかなと。以前、手石で、杉本さんが自ら山に道路をつくって、いわゆる杉本方式という形で自分たちの地域で何とかしのぎましようという方式を出したんですけれども、そこが結局、3.11から時間がたつにつれて薄らいでいっているんじゃないかなというのがあります。

ですから、もう一度そこは、これは本当は自分でやらなければいけないことなんですけれども、行政のほうから、てこ入れを一回したほうがいいんじゃないかなと思いますけれども、その点、少し意見を聞かせてください。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 言われるとおりでと思います。

それで、自主防災会、これは区長が会長になっているわけなんですけれども、これに関しては私も考えていきたいなとは思っておりました。新しくしっかりした防災会をつくって、やはり形式的な訓練でなくて、実際問題、自分たちでワークショップなり何かをやりながら、どこへ逃げればいいのかとか、そういう認識をもっともっと深くしていきたいと、このように思っております。そのような形で、職員と相談しながら、そういう方向性を考えていきたいと思っております。

○議長（稲葉勝男君） 加畑毅君。

〔1番 加畑 毅君登壇〕

○1番（加畑 毅君） ありがとうございます。

今後、防災に関しては、いつ来るかわからないことですので、そのように進めていただきたいと思います。

最後の質問に入ります。

今まで行った質問についての経過報告をいただきたいということで、3つ聞きます。

まず、伊豆半島ジオパーク世界認定に向けての町の取り組みということで、これは6月議会定例会のほうで質問したんですけれども、2015年の世界認定に向けて近隣市町が活動しているということなんですけれども、現在の我が町はどんな形で進んでいるんでしょうか。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

平成24年9月24日に、伊豆半島全域は「伊豆半島ジオパーク」として、日本ジオパークネットワークへの加盟を承認されたわけであります。

現在は、当町も含めた伊豆7市7町及び静岡県で構成する「伊豆半島ジオパーク推進協議会」が中心となって、2年後の平成27年度中の世界ジオパークネットワーク加盟申請に向けた活動を展開していることはご承知だと思います。

このジオパーク構想推進の大きな目的の一つは「観光誘客」ですが、当町では、その核となる「ジオパークビジターセンター」を平成24年7月には稼働させるとともに、ジオガシ旅行団にあるジオをまねたジオ菓子の販売や、海から見るジオカヤック体験ツアー、そしてまた、いち女性の方が本を出していますね、そういう形でいろいろと機運は高まってきているのかなと、このように思っております。

また、町内の主なジオサイト7カ所には説明看板の設置が完了しており、推進協議会の講習を受けたジオガイドの皆さん等による活躍も期待されるところであります。特に、先ほど言ったジオカヤック体験ツアーですけれども、カヤックの人たち、カヌーの人たちが非常にその辺のところをまた大きく推進しようという形で動いてくれております。

また、本年度につきましては、ジオサイトの「ゆうすげ公園」の再整備やジオサイト「弓ヶ浜の砂嘴（さし）」のトイレの再整備を実施しました。また、加えて2月11日には、先ほどから出ております東駿河湾環状道路の開通により、東名・新東名沼津インターチェンジから修善寺インターチェンジまでが全線開通し、さらに東名・海老名ジャンクションと中央道八王子を結ぶ圏央道が6月中には全線開通する予定であり、こうした高速道路の開通とあわ

せながら、誘客にも努めてまいりたいと思います。

また、当町で取り組んでいる観光の国際化につきましては、3月4日に台湾旅行代理店エージェントを対象としたモニターツアーを実施する予定であります。エージェントには、「桜」、「温泉」、そして「自然の景観」等、当町の観光拠点を見出して、見ていただく予定であります。

今後は、ジオパーク構想の止まらず観光全体の国際化を目指して、台湾からオーストラリアにも販路を拡大しながら環太平洋に目を向けた観光施策に取り組んでまいりたい、このように思っております。

どちらにしても、ジオパークの認定に関しては、伊豆半島全体でそのような取り組みを行っております。確実に、2年後には世界認定に向けた形になってくるのかなと、このように期待しております。

○議長（稲葉勝男君） 加畑毅君。

〔1番 加畑 毅君登壇〕

○1番（加畑 毅君） ありがとうございます。

これは、2015年ということで期限つきのことですので、その間にきちっと答えを出さなければいけないことですので、今後も取り組んでいただきたいと思います。

それに関連したようなことなんですけれども、2番目に入ります。

南伊豆町のPR映像の作成について、これは9月議会の定例会で聞いたんですけれども、例えば今の時期、桜の並木の中を歩いているお客さんの映像とか、もっと言うと、例えば流れ星の映像なんかをPRには使えないものなんでしょうか。

先ほどから私は言っているんですけれども、イメージというのはすごく大事だと思うんですね。この時期、本当にこの町は輝いている時期ですから、夏だけのイメージではなくて、この春先がすごく過ごしやすんだよというようなイメージ映像か何かをつくれないうのかなと思うんですけれども、その辺というのは予定はないんでしょうか。それとも、何か法的に規制がかかっていてできないということがあるんでしょうか。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

南伊豆町のPR映像につきましては、昨年9月の定例議会で議員からの提案をヒントにさせていただき、来年度、町制施行60周年記念事業としてDVDを作成する予定であります。

南伊豆町は、平成27年度に町制施行60周年を迎え、人間で言えばちょうど還暦の年になることから、記念事業として、1年をかけて町の四季折々の自然、祭り、各種行事、イベント等をDVDとして映像化することを考えています。

そして、成果品は60周年記念イベント等に活用するほか、文化的、歴史的資料として活用、観光PR、会議での活用等、幅広く活用できるように内容や時間等を考慮したものを幾つかつくり、各所における町の紹介の手段として活用していきたい、このように思っております。

また、昨年12月18日に、南伊豆町マスコットキャラクターの「いろいろ男爵」の使用に関する要綱を策定いたしました。また、本年2月17日には、南伊豆町公式フェイスブックを立ち上げました。映像や視覚から訴えて町のイメージをPRしてまいりたいと思います。また、公式フェイスブックのほうは、今、3,000まではいかないですか、2千七、八百のアクセスがあったと思います。一応、そういうことで進めていきたいと思っております。

○議長（稲葉勝男君） 加畑毅君。

〔1番 加畑 毅君登壇〕

○1番（加畑 毅君） ありがとうございます。

9月議会に言ったことを着々と進めてもらっているということで、SNSも含めて、PR活動を今後も続けていってほしいと思います。

これは、最後の質問になります。

森林・山村の多面的機能発揮のための林野庁の補助金内容、これに対しては12月の議会定例会の中で質問させていただきました。この補助金を、南伊豆町の5つの業者に交付されるという記事を新聞で見たわけです。これは、下田、賀茂地区の中で9つの中の5つをこの町の業者が占めたということで、非常に積極的だなということで期待しておったんですけども、その後どうなったかというところが、もしわかれば。というのは、これは半分は自前で資金を用意しなくてはならないということなので、成功したかしないかということが大きく今後に影響してくるのではないかなと思いますので、もしもこの半分補助で成功する業者が多いのであれば、これは非常に期待できるなと思うんですけども、その点、どんな感じになっているか答えてもらえますでしょうか。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

12月定例会においてご説明申し上げましたが、林野庁では、「森林・山村多面的機能発揮

対策交付金」として、居住地近くに広がっている里山林の維持や管理が希薄となり、侵入竹などによる荒廃が進んでいる現状の解消と有効な利活用を図るため、地域住民が森林所有者やNPO法人、民間団体等と一緒に活動組織を設立し、荒廃解消活動を展開していく事業について、本年度より3年間支援を行っていくというものであります。

対象活動メニューとしましては、荒廃している里山林や竹林の手入れをする【地域環境保全タイプ】や、薪など地域資源を活用して山村を活性化する【森林資源利用タイプ】、そして子供たちに森林の中で自然体験をさせる【森林空間利用タイプ】の3区分をされております。

静岡県におきましては、21市町で48の活動団体が8,600万円を超える各種事業を展開しておりますが、本町では5団体、1,700万円を超える事業を展開しております。

町といたしましては、地域協議会としても活動団体の指導を行い、森林の荒廃解消活動事業を円滑に展開するように努めてまいりたいと思います。詳しいことは担当課長から説明させていただきます。

○議長（稲葉勝男君） 産業観光課長。

○産業観光課長（大野 寛君） お答えいたします。

この事業は、3年間実施いたします。今年度の事業につきましては、ほとんどが機械整備に充てております。ほとんどもう8割程度が、今年度の事業については終了したというふう聞いております。この後、26年、27年と2年間ございまして、こちらのほうが間伐であったり、いろいろな整備がなされる予定になっておりますので、町としましても、この事業の完結に向けて指導していきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 加畑毅君。

〔1番 加畑 毅君登壇〕

○1番（加畑 毅君） ありがとうございます。

これは、ぜひとも途中で失敗しないように、せっかくの補助金をいただいての事業ですから、行政だけではなくて民間のほうも元気だという町をつくっていくのがやはり復活するための近道ではないかなと思いますので、ぜひともこの点も力を入れていただきたいと思っております。

ちょうど時間にもなりましたので、以上で質問を終わりますけれども、全てにおいて丁寧な回答をいただきまして、ありがとうございました。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 加畑毅君の質問を終わります。

◇ 宮 田 和 彦 君

○議長（稲葉勝男君） 2番議員、宮田和彦君の質問を許可します。

〔2番 宮田和彦君登壇〕

○2番（宮田和彦君） 通告どおり、一般質問させていただきます。

まず初めに、災害時における医療ということで、医療救護計画の見直しということでお聞きしたいと思います。

災害時における医療確保のあり方の基本的な考えとして、被災地内の医療機関は自らも被災者となります。被災現場において最も早く医療救護を実施できることから、その役割は大変重要なものであると考えております。さらに、地域の医療機関を支援するための災害拠点の整備、災害時に迅速かつ的確に救援、救助を行うための広域災害救急医療情報システムの整備、災害利用にかかわる保健所機能の強化、搬送機関との連携が大変重要になってきます。

そこで、県の第4次地震被害想定を受け、平成21年3月作成の医療救護計画の早急な見直しが必要と考え、質問させていただきます。

この平成21年3月作成の医療救護計画は、東海地震を想定して作成されたものと認識しております。予想される南海トラフ巨大地震等の大規模災害には対応していないと、こう理解しておりますが、県は、平成25年5月に医療救護計画を見直しておりますが、町の医療救護計画の見直しの予定、また進捗状況はどのようになっておるのでしょうか。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

議員のおっしゃるとおり、本町の医療救護計画は「東海地震に対する南伊豆町医療救護計画」となっており、見直しは行っておりません。

しかし、静岡県は平成25年5月、東日本大震災における災害救助の状況を踏まえ「東海地震に対する静岡県医療救護計画」の全面的な見直しを行うとともに、南海トラフ巨大地震を初めとする様々な規模の災害や県外大規模災害等に対応するため「静岡県医療救護計画」に

改称しましたので、本町におきましても、静岡県医療救護計画及び南伊豆町地域防災計画との整合性を図りながら、南伊豆町医療救護計画の見直しを進めていきたい、このように考えております。

○議長（稲葉勝男君） 宮田和彦君。

〔2番 宮田和彦君登壇〕

○2番（宮田和彦君） 町長が言われた静岡県医療救護計画、ずっと読ませていただきました。これも、当局も去年の5月にはもう入手されていると思うんですけども、この県の医療救護計画、これをたたき台にしていると思うんですけども、大まかな構成はできているんでしょうか。

○議長（稲葉勝男君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（黒田三千弥君） お答えいたします。

まだ、着手には及んでおりません。町の地域防災計画との整合性を図ることが町長の答弁したとおりでございまして、26年度中の見直しを今のところ計画しております。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 宮田和彦君。

〔2番 宮田和彦君登壇〕

○2番（宮田和彦君） 26年度中ということは来年3月ということですが、できるだけ早急に見直しのほうをよろしくお願いいたします。

続きまして、医療救護施設、救護体制についてお聞きします。

平成21年3月作成の医療計画では、南伊豆町に住んでいる医師数が、この中では3名ということで、医療救護施設の設置場所、これも3カ所と理解しているんですけども、その考えでよろしいでしょうか。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

地域防災計画に基づき、医療救護活動を実施する必要がある場合には、医療救護施設として救護病院、救護所を設置いたします。

救護病院につきましては、医療救護活動の万全を期するため、救護病院指定に関する覚書を、二次医療圏域内の下田メディカルセンター、伊豆今井浜病院、伊豆東部総合病院、熱川温泉病院、西伊豆病院の5カ所の病院と結び、救護所等につきましては、避難所として指定

した学校等の内から救護所として3カ所を指定してあります。

また、災害時に医療救護活動に対する協力を得るため、災害時の医療救護活動に関する協定を賀茂医師会と結び、十分に連携を図り、救護体制の整備に努めてまいりたいつもりでございます。

○議長（稲葉勝男君） 宮田和彦君。

〔2番 宮田和彦君登壇〕

○2番（宮田和彦君） 私の聞きたいのは、これに載っかっている町内在住の開業医が、この21年の中で3名いらっしゃると。今度の改定になりますけれども、医師数が3名だから要は設置場所が3カ所である、その理解でよろしいでしょうか、そういうことです。

○議長（稲葉勝男君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（黒田三千弥君） お答えいたします。

医師数3名だから、3カ所ということではございません。今後、考える方向としてはそういう考えを持つことは考えておりません。いかに必要な救護所が、どこに必要なかということを検討してまいります。それは当然、県の第4次の被害想定、津波浸水域等も考慮しながら一点、2点目は、そこに支援する行政職員も必要になります。恐らく3カ所を賄えないのではないかというふうに自分は考えています。それも防災担当と協議しながら、必要な箇所に設置していく考えでいます。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 宮田和彦君。

〔2番 宮田和彦君登壇〕

○2番（宮田和彦君） 開業医ばかりではないですよ、南伊豆にいらっしゃるの。在住している医師もいらっしゃいます。その方々との連携というのは考えていませんか。

○議長（稲葉勝男君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（黒田三千弥君） 町長の答弁にもございましたけれども、基本的には賀茂医師会と協議して連携、協定等を結ぶ格好になっております。ただ、在住のお医者さんが何人いらっしゃるかとも思いますが、自分の病院に行く方もいらっしゃると思いますので、一応、在宅医等につきましては、賀茂医師会と連携をするということで考えてまいります。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 宮田和彦君。

〔2番 宮田和彦君登壇〕

○2番（宮田和彦君） 先ほど、2カ所云々とおっしゃっていますけれども、この県の第4次地震被害想定、これは東海地震よりもかなり被害想定が大きい、その救護体制なんですけれども、看護師さんとか補助者、さっきおっしゃった事務系とか、この増員というのは、被害想定が大きいというのは、けが人もそれなりに比例して多くなるのではないかと、こう考えられるんですよ。そういう看護師、また補助者の増員というんですか、そういうことに対しては考えていらっしゃいますでしょうか。

○議長（稲葉勝男君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（黒田三千弥君） 救護所の設置につきましては、その管理は医師が基本的には管理を行います。設置者は、要は防災の本部長、町長でございます。基本的には、医師、看護師にそこに来ていただきまして、町の職員がそこに補助的に運営に当たります。そこで、先ほど申しましたように、非常に人的に不足することが懸念されます。看護師、医師等に関する応援、保健師の応援等につきましては、県との連携システムで、静岡県の場合にはF U J I S A Nというシステムで、それで応援要請をしていくという体制で、今訓練をしているところでございます。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 宮田和彦君。

〔2番 宮田和彦君登壇〕

○2番（宮田和彦君） その訓練なんですけれども、計画に基づいて医療体制に沿った防災訓練、先ほどからおっしゃっています医療関係団体及び医療機関と定期的実施されていると思うんですけれども、今までに、21年3月から今までに何回ぐらい行っておるんでしょうか。

○議長（稲葉勝男君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（黒田三千弥君） お答えいたします。

救護病院、湊に病院があったときでございますが、拠点病院でございましたが、なくなってしまったものですから、今は下田メディカルが一番の拠点病院になっております。うちのほうの救護所の開設とか県との連絡連携、連絡連携につきましては、今、年3回実施しているはずですが、これはあくまでも机上のものでございます。さっき言ったF U J I S A Nを利用したもの、多分3回というふうに、もし間違っていましたら訂正させていただきますが、今、私のところでは3回です。ただ、救護所開設等につきましては、必要性は感じておりますが、まだ実施で訓練をやったと、例えばお医者さんがそこに来たとか、要はそういうことでやってはおりません。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 宮田和彦君。

〔2番 宮田和彦君登壇〕

○2番（宮田和彦君） ここに書いておるんですけども、医療機関と定期的実施することにより、実践的能力を高め、災害時における迅速かつ円滑な医療救護活動の実現を図るものとしてうたっているんですけども、5年たっても、実際的に連絡だけで1回も行っていないということなんですけれども、いかがなものかと思うんですよ。できるだけ関係機関と連絡をとって、今年の8月ですか、大規模にやると思うんですけども、町民の命を守るために、ひとつ努力していただきたいと、こう思っております。

それでは、次に、災害拠点病院指定の必要性についてお尋ねします。

先ほどから言っていますように、県は2013年5月、南海トラフ巨大地震に備え医療救護計画を改定したわけですけども、発災48時間まで救命医療を要する重篤患者は県が指定する災害拠点病院に運ばれると。伊東市民病院が指定されますと、21カ所になるというんですかね。

県内には8つの二次医療圏がありますが、唯一南伊豆町を含む賀茂医療圏は、先ほど課長がおっしゃったように、災害拠点病院の目途がいまだに立っておりません。賀茂地区では、地域の中核病院として一昨年5月、二次救急を担う公立病院が開院しましたが、懸案の医師不足は今も解消されないままであります。

そこで、一つお聞きしたいんですけども、災害拠点病院の役割というのはどのようなものでございましょうか。

○議長（稲葉勝男君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（黒田三千弥君） 災害拠点病院については、今、議員がおっしゃったとおりの数でございます。おっしゃるように、二次医療圏の賀茂医療圏につきましては、指定された病院がございません。

ご質問の役割でございますが、5つほど、これはすみません、読み上げで失礼いたします。災害拠点病院の役割というのは、医療救護対象者の重症度、緊急度の判定、選別、トリアージというふうになっております。2点目、他の医療救護施設で対応困難な重症患者の受け入れ及び処置。3点目、重症患者の広域搬送拠点への搬送手配。4点目、DMAT等、医療チームの受け入れ及び派遣。5点目、地域医療機関への応急用資器材の貸し出し。これが役割として、県のほうで計画に入っております。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 宮田和彦君。

〔2番 宮田和彦君登壇〕

○2番（宮田和彦君） もう一つお聞きしたいんですが、この公立病院が私はなぜ災害拠点病院に指定されないのか、何か原因をご存じだったら。

○議長（稲葉勝男君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（黒田三千弥君） 指定の要件があろうかと思います。ちょっと資料全てを持ってはないので、全てはお答えできませんが、非常に整備的なもの、先ほど申し上げたDMATという略語でございますが、ご承知の方は多いと思います。そちらが基本的には必要になってくるということで、この辺の近くですと、ご承知かと思えますけれども順天堂静岡病院が災害拠点病院ということでなっております。もろもろ非常に大きな設備等が必要になってくると、そういうものが一つの、指定されないというか指定できないというか、そこまで至っていないのが現状ではないかと思えますけれども。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 宮田和彦君。

〔2番 宮田和彦君登壇〕

○2番（宮田和彦君） これの静岡県健康福祉部、25年5月に静岡県が出したものの後ろから3枚目に書いてあるんですけども、この中で、先ほど言われたDMAT、災害派遣医療チーム、確かにこれも載っているんですけども、ここに、救命救急センターもしくは第二次救急医療機関であることという文が載っているんですよ。ということは、この中にこの公立病院が拠点病院にならない理由というのは、これは6項目あるんですが、何項目ぐらい入っているというんですかね。

○議長（稲葉勝男君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（黒田三千弥君） すみません、県指定なものですから、私のほうでこれだということでお答えするのはちょっと控えさせてもらいたいと思えますけれども。

おっしゃるとおり、私も持っておりますが、宮田議員の言われるとおり6項目ございます。例えば、宮田議員がおっしゃるのは、下田メディカルさんをもし想定するとすれば、その病院がここに当たらないかというところのご質問だと思うんですけども、実際、おっしゃるとおり、4番目には救急救命センター、これはございませんと思えますけれども、第二次救急医療機関であることもしくはなっておりますので、そこは確かに第二次救急医療機関で

ありますので、それは該当になるろうかと思いますが、先ほど申し上げたように、災害のDMATを保有していませんとか、もろもろの条件で指定されていないというふうに私は捉えています。どこがどうだからということとはちょっと、ごめんなさい。失礼いたします。

○議長（稲葉勝男君） 宮田和彦君。

〔2番 宮田和彦君登壇〕

○2番（宮田和彦君） 県の第4次地震被害想定では、南伊豆は陸の孤島になる可能性が非常に高く、けが人も多数と予想されます。重篤患者の命の確保は、時間との戦いとも言えるわけです。賀茂圏内で最大約1,800人の患者に対応ができない恐れがあると、そう報道がありました。ほかの医療圏に、要は町内の重篤患者を受け入れていただけるのかどうか、その辺の調整はついておるのでしょうか。

○議長（稲葉勝男君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（黒田三千弥君） 広域圏についての受け入れについては、県のほうで恐らく計画してやっていると思います。被害想定も出た11月でしたか、数字が出てきたと思います。当然その受け入れというのは、広域での受け入れになりますものですから、ちょっと私のほうで理解していない部分が多いものですから、詳しい話は差し控えさせていただきますが、県のほうでの計画というのを当然詰めていると思います。

○議長（稲葉勝男君） 宮田和彦君。

〔2番 宮田和彦君登壇〕

○2番（宮田和彦君） 私が思いますに、災害拠点病院、これは賀茂医療圏内では大変必要不可欠かと、こう思っております。なぜならば、ほかの8つの地域、ないのは賀茂医療圏だけなんですけれども、これも南伊豆の、先ほど町長がおっしゃっていましたが、このたび伊浜・天神原のほうへ今井浜の病院が行かれると、月1回ですか、行かれるということで、大変ありがたいことなんですけれども、医療に対して大変恵まれていないというか、そういう感じがしているわけなんですよ。

ですから、これから少子高齢化になります。年をとれば、やっぱりどこか痛み、病気、そのようなことが多くなってくると思うんですよ。ぜひとも町長に1市5町の首長の方々と連携して、管理者または指定管理者に訴え続けていただきたいと、こう思っております。お約束していただけますでしょうか。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

今の指定管理者に対しては、第二次救急をしっかりとできるような体制、いわゆる麻酔医も常勤するような、そういう体制をしっかりとつくりなさいということを常々首長会では訴えております。

それと、もう一点、先ほどの無医地区の話なんですけれども、でき得るならあちらのほうに、財政とかいろんなことが許せば、診療所をつくっていきたいとは今考えております。ただ、これはやはり財政的な部分で、医師の問題もあります。医師が十分用意できるのかとか、そういう問題がありますもので、短期間ではちょっと難しいですけれども、何とか南伊豆の地域医療というものをもう少ししっかりしたものにしていきたいなど。

そして、今、一番心配なのは、南伊豆町にはベッドがないんですよ、第二次救急的なベッドが。これに関しても、何とかそういう意味で解消できればとは思うんですけれども、これは非常に難しいと、このように思っております。今後、その辺一生懸命頑張ってください、よろしくお願ひ申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 宮田和彦君。

〔2番 宮田和彦君登壇〕

○2番（宮田和彦君） 大変丁寧なご答弁ありがとうございました。

以上をもちまして、私の一般質問を終了させていただきます。

○議長（稲葉勝男君） 宮田和彦君の質問を終わります。

ここで、昼食のため1時まで休憩します。

休憩 午前11時56分

再開 午後 1時00分

○議長（稲葉勝男君） 休憩を閉じ、会議を再開します。

◇ 谷 正 君

○議長（稲葉勝男君） 4番議員、谷正君の質問を許可します。

〔4番 谷 正君登壇〕

○4番（谷 正君） 通告書を提出してありますとおり、大きな項目で社会資本整備の推進に係る環境整備と、それから、午前中の町長のいわゆる所信とか行政報告の中にもございましたが、一條稲梓線の今後の考え方、方向性という形で質問をいたします。答弁のほうを、報告にもありますが、もうちょっと詳しく私も聞くものですから、よろしくをお願いします。

まず最初に、社会資本、これは災害等を含めたハード、ソフトの関係ですが、その整備の推進の南伊豆町における環境の整備、これは環境というのは、いろんな事業執行等を含めた中での環境の整備ということでお願いします。

理事者側、町長は日ごろ、南伊豆町における現状を踏まえて、もろもろいろんな課題や案件につきまして、機会あるごとに国や県、それから地元の選出の県会議員の方々に要望や陳情等を行っていると思いますが、それらを含めた中で、いわゆる南海トラフ、それから昨今の、南伊豆は直接は関係なかったんですが、いわゆる東関東、それから甲信越における豪雪災害の関係で、一部のマスコミですと、あれは地域力が試されるものだというようなこともありました。それらを含めまして、今後の要望や陳情、それから事業執行に関する整備の方向や取り組みの考えをお伺いします。

まず、前にもこれをお聞きしましたが、南伊豆町における社会資本整備の現状認識、これにつきましてお伺いします。平成24年でしたか、8月29日に総務省が、いわゆる俗にいう南海トラフの巨大地震の被害想定を発表して、その後、国や静岡県は被害想定地域の中の公共団体、これは主に関東地方、千葉県から九州の宮崎県までの広範囲にわたっての太平洋沿岸地域のいわゆる被害想定であります。そのソフトやハード面のさまざまな防災や減災対策の構想計画を打ち出して、それに沿って静岡県等も第4次の被害想定を昨年の6月27日に策定していますと。

その中で、本年の2月6日には、平成14年度から進めています県内の3沿岸の海岸保全区域の変更ということで、第2回の海岸保全基本計画検討委員会というのを2月6日に開いたと。これは、一部マスコミ等でもあらわされているものですから、町長もご存じだと思うんですが、神奈川県と県境の伊豆半島沿岸から沼津の大瀬崎まで273キロの海岸線で、78カ所に護岸や防潮堤、胸壁の整備を計画しているというようなことも載っていました。そういう中で、南伊豆は日ごろ言われていましたように海岸線が57キロですと。そうしますと、273キロの海岸線のうち、南伊豆町1町で21%を単純に占めるというようなことになります。南伊豆町におきましても、防災、減災を含む社会資本のあるべき姿というのが当然、昨年の

6月27日の第4次被害想定の中で、それから、それ以降のいろんな計画、それから構想の中で浮き彫りにされてきていると思います。

町長は、以前の議会の答弁の中で、静岡県が打ち出しておりますアクションプログラム2013を基本として、その南伊豆版も策定していくよというような答弁がありました。それらを踏まえた中で、想定されます南海トラフ巨大地震、それから昨年12月にも私がお話をしましたが、大島の大雨等の関係で、社会資本の南伊豆町における、いわゆる社会資本の水準というところとちょっと言葉があれかもしれないですけども、社会資本のインフラ整備、現状をどのように現在認識しているのか、お考えとかそういうものがありましたら答弁をお伺いしたいと思います。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

災害を加味した社会資本整備の現状ですが、道路を中心とした各種インフラの整備計画を現在進めております。詳細なところでは、橋梁・トンネル・道路舗装・道路法面・下水道・海岸施設などの長寿命化や機能保全の計画策定などになります。

また、静岡県地震・津波アクションプログラム2013が発表され、それに伴い、当町もアクションプログラムを策定し、地震・津波対策をハード・ソフトの面から、両面から組み合わせ、充実、強化を目指すため、社会資本整備事業など各種事業を活用してまいりたいと思っております。

先ほどの豪雪の話の中で、豪雪対策として佐久市の市長がツイッターを利用して情報をかき集めたという話があります。それが非常に豪雪対策になったというようなことがありまして、こういうIT面でもソフト面の充実を図っていききたいと、このように思っております。

今後も、財政状況を鑑みながら、ハード面に関しましては支出の平準化を図りながら、災害から強いまちづくりを進めてまいりたいと思っております。

現状につきましては、担当課から説明させます。

○議長（稲葉勝男君） 谷正君。

〔4番 谷 正君登壇〕

○4番（谷 正君） 従来、町長は県のアクションプログラム2013の南伊豆版をとうことですが、それがどの程度、これは後からの質問にも別の項目で関係するんですが、その2013の南伊豆町版がどの程度まで進んでいるのかというのが、現状で策定中なら策定中で結構です

が、それをちょっとお伺いします。

○議長（稲葉勝男君） 防災室長。

○防災室長（大年美文君） お答えします。

うちのほうのアクションプログラム2013についてでございますけれども、現在、地域防災計画の全面見直しの作業を実施中でございます。昨年25年11月29日に発表された第2次報告が、今、最終チェックをさせてもらっております。

アクションプログラム2013については、防災室はもとより、健康福祉課ですとかあと建設課、多方面にわたっておりますので、各課から問題点、今後進めるべき事業を吸い上げて、それぞれ検討していきたいと思っています。現在は策定中でございます。

以上でございます。

○議長（稲葉勝男君） 谷正君。

〔4番 谷 正君登壇〕

○4番（谷 正君） それで、もう一つ、これは町長ということでお伺いしたいんですが、現在の町長だけではなく歴代の町長も、南伊豆町は観光が基幹産業だよという形の中で、社会資本の整備の推進、当然観光ということは、先ほどの同僚議員の中にもありましたように、崖崩れの看板をとっても、観光客に不安を与えるような形の中で、そういう社会資本の整備の、再三使うんですがレベルというんですか、ある程度当然、防災から減災へという形になると思うんですが、観光客等に不安を与えないような施策をするのが、地元の行政の担当責任者として当然のお考えを持っていると思うんですが、それらについての現状認識というのは、町長、お持ちでしたらお伺いしたいと思います。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 観光客はもとより、町民の安心・安全なまちづくりというのは当然必要なことだとは思っております。ただ、財政の問題がありまして、そして先ほどの急傾斜とか、砂防とか、そういう問題というのは非常に広範囲にわたって、財政的に非常に厳しい問題があろうかと思えます。

それで、ある首長さんがこのようなことを申しておりました。「国は津波の発表をして、実際問題、沿岸部の人たちが例えば何か施設をつくろうとした場合に、それに対する国の支援がないと、全然。そういうことに対して、国に対して強く訴えていきたい」というような話もあります。そういうことを考えながら、私も1町で安心・安全な、今の状況の中のまち

づくりというのは非常に難しいと思いますので、県、国に対してもっともっと強力で訴えていきたいなと思っております。

○議長（稲葉勝男君） 谷正君。

〔4番 谷 正君登壇〕

○4番（谷 正君） 昨年の6月27日の第4次被害想定の中の第1次報告の中では、南伊豆町は震度6で、津波についてはいろいろ、6メートルから十何メートルというような、相当、伊豆半島の最南端で大きく被害想定が考えられるというような中で、今、町長の答弁の中にありましたように、広域的にというようなお話があるんですが、先ほどの同僚議員の中にも、いわゆる南伊豆町が陸の孤島にというような可能性も十分あるよという形。

これは具体的な、私が聞いたところですと、南海トラフの津波が起きたときには、何回も言っていますように、伊豆急の駅前が津波、それから液状化で全然通れないよと。それから、西海岸の道路につきましては、震度6以上ですと崖崩れで全然通れないという中で、いわゆる当然陸の孤島というのが考えられるという中で、これはちょっと安心し過ぎ、私の考えが甘いのかなという形があるんですが、比較的南伊豆の人たちというのは食料とか野菜等については、自分で自分のある程度の手当ては、井戸もありますし、できるというような形も考えられると。

その中で、やはり何回も言っていますように観光客の対策というのが、右も左もわからないよと、そういう中で、これも一つの、観光客に来てくださいという中で、防災なり何なりやもろもろのものは南伊豆は、そういうものは大丈夫ですよというような表現もしておけば、観光客も安心して来れるというような考えもあるというようなことを聞いているものですか、それは先ほど町長に答弁いただきましたから、ある程度広域で考えるというような形があるものですか、それは答弁は結構ですが、それはぜひ進めていただきたいと思います。

それから、2番目の社会資本に関する法令等の関係ですが、これは災害等に限らず、南伊豆町につきましては、平成12年3月31日に改正で成立した「過疎地域自立促進特別措置法」と、それから昭和60年6月14日に成立しました時限立法、これは平成27年が次の期限だということですが「半島振興法」、それから昨年の10月22日に国会を通りました「南海トラフ巨大地震対策特別措置法」、それから同じく12月4日に成立しました国土強靱化基本法、この4つの法律を当てはめれば、いろんな関係で社会資本の整備というのがある程度、町単とかそういうことではなくて、補助金なり交付金なり、そういうものを活用して、ある程度それがスムーズにいくんではないかというような考えがあるんですが、例としまして、南海トラ

フ巨大地震対策特別措置法の7条で、学校、病院、社会福祉施設等の整備に関する国の負担割合の特例、これが南海トラフの特別措置法に割り増しの規定があるそうです。それで、施工後3年間はさらに負担割合を嵩上げするという事も、規定というんですか、そういう内容もあるものですから、これはやり方一つ、それから南伊豆町が声を大きく上げる必要があると思うんですが、町長の町長選のときの公約のように、健康福祉センターを社会福祉施設等の整備というような形で、ひっかけというような形で事業執行は可能なのちよっとわかりませんが、そういう可能性も出てくると。

国土強靱化基本法についてもしかりだと。半島振興法についてもいわゆる代行事業という形で、原則地元の市町村の負担はないよというような原則があるものですから、本町が事業を進めるために、これらの法令等を十分検証して考えるべきではないのかと。補助金とか負担金とか交付金では、先ほど言いましたようにこれは当然有利になりますし、その補助残度とかいろんな形でいきますと、翌年度、後年度負担で特交とかいろんな関係で手当てができるというような道もあると思うんですが、こういうものの適用の研究を、先ほど室長がアクションプログラム2013の答弁の中で言いましたように、庁内の横断的な組織の中でもいろんな問題を洗い出して計画をつくるというような答弁もありましたものですから、そういう庁内のプロジェクトチームをつくって進めるという考えはありませんか。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

確かに、議員が言われるように一つのプロジェクトチームというものをつくって進めていくというのは非常にいいことかと思えます。検討させていただきます。

それと、国土強靱化基本法の内容に基づいた社会資本整備総合交付金は、主に道路関係のインフラ整備を行っているわけでありまして。

そのほかインフラ整備は災害対策や道路新設に関しては、先ほど言われました「過疎地域自立促進特別措置法」、「半島振興法」、そして「南海トラフ巨大地震対策特別措置法」等を検討材料にしながら事業化を進めてまいりたいと思っております。非常に有効な補助金、これをまず担当課とかいろんな職員に研究させ、検討してまいりたいなと思っております。何しろ財政力の弱い町です。国の力、県の力を借りながら、できる限りできる事業は進めていきたい、このように考えております。

先ほど申しました石廊崎の砂防ダム事業の関係も県の事業でありますし、やはり、これは

やっておくべき事業だなと私は思っていますが、地元の同意が得られるかどうか、地権者の同意が得られるかどうかというところで、今、ちょっと足踏みをしている状態であります。

今後もいろいろと検討し、そして今、プロジェクトと言われましたけれども、SNSに關しましては課をまたいで若手の職員、企画課長がリーダーでやっていますけれども、若手の職員を集めて進めています。そういう考え方で、この補助金等に関してもまた新しい研究を進めてまいりたいと思っております。

○議長（稲葉勝男君） 谷正君。

〔4番 谷 正君登壇〕

○4番（谷 正君） それについてですが、先ほど後年度負担という形であれしましたが、最終的にそういうものをうまく使えば、いわゆる地元の負担が5%とか6%で、これは机上の計算ですが、そういう事業にもなるのではないかなというような、南伊豆のものがちょっと見受けられるのではないかなというような形があるものですから、それはぜひ検討していただきたいと。

それから、もう一つは国土強靱化基本法の中で、これは国や県の計画を基本として、市町村国土強靱化計画を定めようということになっているんですが、それらについて、現在どのような形になっているのか、当然国が昨年12月4日ですから、いろんなひな形というんですか、それがまだおりてきていないのかなという危惧はあるんですが、県のほうの南海トラフの地震対策のものを見ますと、もう総務省が前の年に出しますと10カ月で6月27日の第4次想定を公表したというような実績が静岡県はありますよね。そうしますと、当然その情報を県はとっていて、ああいう第4次被害想定をやったではないかというような考えがあるものから、その辺の市町村の国土強靱化計画は今どのような形になっているか、お答えできれば結構ですが、お願いします。

○議長（稲葉勝男君） 防災室長。

○防災室長（大年美文君） お答えいたします。

議員のおっしゃるとおりでございます。被害想定が発表された後、当然今は地域防災計画を全面見直しという形でやっております。それにまして国土強靱化基本法、これに沿ったものを市町村の国土強靱化計画、これを策定することになっておりますので、先ほど申し上げましたように防災室が中心になって、各課からいろんな問題点を吸い上げて組織していきたいなど、計画していきたいなど、今のところはそのように考えております。

以上でございます。

○議長（稲葉勝男君） 谷正君。

〔4番 谷 正君登壇〕

○4番（谷 正君） そうしますと、今の室長の答弁をもう一度確認させていただきますけれども、防災計画の変更と、それから国土強靱化市町村計画、これが大体内容は同じような形になって、大体同時期にこの計画をつくるという認識でよろしいですか。

○議長（稲葉勝男君） 防災室長。

○防災室長（大年美文君） お答えします。

まずは、我が町の防災計画を整備した後に、スピード感を持って強靱化のほうも進めていくというスタンスで、今のところ입니다。

以上でございます。

○議長（稲葉勝男君） 谷正君。

〔4番 谷 正君登壇〕

○4番（谷 正君） ありがとうございます。

次に、3番目の建設関連3法案の改正についての、南伊豆町の姿勢とか方向性について伺います。

これにつきましては、政府、国土交通省、主に国土交通省、農林水産省もいろいろなもろもろ関係してくるんですが、主に国土交通省の関係で、公共事業の品質向上、それから優良な建設業者、会社を増やすために、公共工物品質確保促進法、俗にいう品確法、それから入札契約適正化法、俗にいう入契法、それから建設業に関係します建設業法の3法というのを、1月24日から開催されています通常国会に提出して改正を図るというようなことであります。

この改正の目的というのは、公共事業を極端な安値で受注するダンピングや下請への工事の丸投げ等の防止、これは今までもあれしていたんですが、所によってはいわゆる工事の丸投げをやったり、先日の記事ですと、指名停止の業者を雪かきの業者にまた再度頼んだとかというような余り好ましくないような記事もありましたが、そういう面で、地震等で一番問題になります道路だとか橋等の品質向上を図るというような形の中で、入札契約適正化法の改正ですと、その公共事業の入札時に建設業者に工事費の内訳書の提出を義務づけて、単なる、とればいいよというような不適格な業者を排除するとか、そういう形でいきますと、これらの改正が南伊豆町の公共事業入札執行等について、影響があるのかないのか。ある場合は、どのような影響があるのかというのがおわかりになりましたら答弁をお願いします。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

[町長 梅本和熙君登壇]

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

2月7日付国土交通省から各都道府県宛てに、「公共工事の円滑な施工確保について」という内容の文書がありました。それを踏まえて、町に対して県より同文の通知文書の連絡がありました。

内容は、「適正な価格による契約について」、「技術者、技能者の効率的活用」、「入札契約手続の効率化等」、「地域の建設業者の受注機会の確保について」、「建設業者の資金調達円滑化のための取り組みについて」、「就労環境の改善について」の6項目に分類されております。内容を精査し、国に合わせた、制度の検討をしていきたい、このように考えております。

現在、町では、県に合わせたチェックリストによる書類等の確認や、職員による現場立ち会い、小規模工事でも必要であると思われる書類を提出させるなど、適正な施工がなされるよう監理、監督をしております。

今後も、なお一層の品質の確保や優良業者の育成に努めてまいりたいと思っております。

○議長（稲葉勝男君） 谷正君。

[4番 谷 正君登壇]

○4番（谷 正君） 今の町長の答弁と現状を踏まえた中で、2月7日に国のほうからいろいろ来たというような答弁をいただいたんですが、国、県との連携や協議、これも国は具体的に昨年の4月に労務単価を15.1%ですか、アップさせて、それから今年の2月でしたよね、2月1日から7.1%の労務単価のアップというような具体的な数字を挙げて、太田国土交通大臣が記者会見で発表されたと。これは一つの例として、東日本大震災の復興のための中で、入札不調が非常に多かったというような反省を踏まえた中での行動だと思うんですが、その関係を、当然国のほうですと通達という形で済むと思うんですが、具体的に静岡県、県の本店と出先の土木事務所等の協議とか指導とか、そういうものについてのいわゆる状態は現在どのようになっているかお伺いしたいと思います。

○議長（稲葉勝男君） 副町長。

○副町長（松本恒明君） お答えいたします。

労務単価につきましては、新聞等で私も知りまして、すぐ情報を入手したところであります。それで、入札制度につきましては、町の入札及び契約制度の検討委員会の設置要領がありまして、委員長は副町長ですので関係の課長等で話し合います。ただ、これが2月1日か

らという通知が1月30日に土地・建設産業局から発せられているわけですが、では明日からいきなり適用というわけにもいかないものですから、総務課長ですとか建設課長にちょっと情報を収集してくれというようなことで伝えてはあります。当然、土木事務所等とは連携をとりながら、変えるべきものは変えるということを基本として対応しているつもりです。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 谷正君。

〔4番 谷 正君登壇〕

○4番（谷 正君） 次に、入札等の改革等の認識、考え方ということで、先ほどもちょっと触れましたけれども、最近の我が国の公共事業に関しましては、ハードはだめだとかいろんな形の中で、それとさきの政権の中で、コンクリートから人へというのが一つの要因、原因となって、先ほど町長の答弁にもありましたけれども、熟練の施工監理技術者や現場の技能労働者の不足、それから高齢化が顕著になりまして、そこへ東日本大震災、それからいろんな橋の長寿命化だとかいろんな要因が重なり、それから南海トラフの関係だとか東京オリンピックの工事だとかと建設事業の高まりの中で、入札がなかなかうまくいかないよというような現象が出てきたと。

その中で、入札制度の国のほうの改革案として、若手技術者の確保とかその育成だとか、いわゆる公募で民間業者を募って手伝わせるというか、そういうものをやらせるとか、単年度契約から複数年度契約とか、それから一つの業者が複数の業務を一括でこちらが発注して一括受注とか共同受注とかという、いろんな改革をというような方向で国は進んでいるということですが、それらについて前に建設課長に聞きましたら、南伊豆町のこういう入札制度をやっているのは、県内35市町のうちいわゆる公共団体は南伊豆町を含めて2つか3つだと、そういう答弁がありました。これについても先ほど副町長は、改革というんですか、すぐにはやらないが、改革ということが具体的には、国、県の建設関連3法の改正を踏まえた中で、どのようにするのか、もうそういうものの内容を入手、把握しているから独自に進めるのか、それから2月に通達があったということですが、その通達とか県との、先ほどの質問の中の協議を踏まえた中で、当然改革というか、そういうことをやらないと、いわゆる関連3法の改正ということになると、それに合致しないと法律違反の恐れも出てくると思うんですが、その辺の考えというのはどういうふうな形を考えていますか。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

現在の公共土木工事に関しましては、静岡県積算基準・単価を使い設計して、人件費・資材単価などの価格アップに随時、対応しており、適正な設計額での工事発注を実施しております。また、今後、品質の確保のためには監理、監督の充実を図ってまいります。

土木工事の入札結果に関しましては、東北での現状は把握していますが、町では設計価格での不調や技術者不足による不調は、本年度はありませんでしたが、先ほど答弁しましたように、国からの通知文書、「公共工事の円滑な施工確保について」の内容や「入札や契約制度検討委員会」に精査させて、入札制度の改革を図っていきたいと思って、今、指示しております。

○議長（稲葉勝男君） 谷正君。

〔4番 谷 正君登壇〕

○4番（谷 正君） 今回の町長の答弁を踏まえて、指名委員会の委員長は副町長ということによろしいわけですね。そういう中で、前の議会でもちょっとそういう話が出たんですが、災害関連、これは地震とかそういうことではなくて崖崩れ等の関係で、緊急の場合、昔は南伊豆も建設業組合があったものですから、そこに電話一本で災害の応急手当てをしてくれというような形であれば、事は済んだと思うんですが、現在建設業組合がないという、隣の下田市は何かあるんですが、そういう形の中で、いわゆる途中の町道なり何なりが落石とかそういうものがあつたときに、すぐ応対というようなものが、やっぱり重機を持っていないとなかなかそれがスムーズにできないわけですね。

そういうものを含めた中で、経審とか何かの中で可能なかというのは、静岡県はそれを何かある程度考えるようなこともちょっと聞いて、今のところはっきりしていないんですが、そういうものを点数なり何なりで上乘せというような考えをできればある程度いいと思うんですが、これも業者さんが十何社いたのが今8社ですか、になった中で、先ほど来から言っていますように、大規模な災害があつたときに、陸の孤島になったときに町内の業者さんなり関係者では当然対応できないものですから、そういう業者の育成というのが、当然国のほうではそういう方向性を出すというような形も見えておるものですから、その辺の考えがありましたら伺いたしたいと思います。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 緊急時の、例えば陸の孤島になる道路警戒の問題等を考えたときに、重機が必要だということは私もいろいろ感じております。そのような中で、自民党の会合があったときに岩井参議院議員に、重機に対する国の補助等、買い上げに対して出してくれないかと、そういう制度をつくってくれないかということは訴えておきました。

また、単価に関しましては非常に難しい部分があるかと思いますが、なるべく町が重機を保持できるとかそういう方向性を考えていければいいな、建設業者でもいいですし、何しろ国からの補助が欲しいなど、このように考えております。

○議長（稲葉勝男君） 谷正君。

〔4番 谷 正君登壇〕

○4番（谷 正君） それで、今後いろんな関係で公共事業というか、社会資本の整備というのが必要だと思うんですが、ご存じのように南伊豆で砂利だとか生コン等について、ここで生産というのができないわけですね。細かい話なんですけど、時間の都合もあるんですが、砂利を一つとっても、いわゆる港湾だとか漁港に使う砂利というのは、比重が重い砂利ではなくてはだめだよとか、それで変な話なんですけど、普通の建物をやる時の砂利というのは、俗にいう普通の砂利でいいよというような形が何かあるみたいなんです。

そういうものを含めた中で、先ほど町長が言いましたように労務単価については、私もいわゆる都会の東京、横浜だとか大都会の労務単価とこちらの単価というのは違って当然だと思うんですが、そういうものに、建設資材、骨材について、何かうわさですと、4月1日になるのかな、4トン未満の生コン車については1 m³当たり1,300円だか1,400円だか上げてほしいというような業者のほうの動きもあるということなんですけど、そういう全体を含めた中で、賀茂郡の市町の首長で会議等を開いて対応するというような考えがございましたらお願いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 現段階では、首長会で特別そういう意見が出ておりませんが、今言われた建設単価、いろんな資材の単価が上がってくるということに関しましては、公共事業をやっていく上で非常にゆゆしき問題ですので、この件に関しまして、また首長会で話していきたいと思っております。

○議長（稲葉勝男君） 谷正君。

〔4番 谷 正君登壇〕

○4番（谷 正君） それでは、2番目の質問に移らせていただきます。

一條稲梓線の今後の考え方、方向性ということなんですが、一條加増野線は町長ご存じのように、一條箕作線確保には、一條加増野線と呼ばれて実現に向けて二十数年前ですか、もう30年近くになりますか、協議会をたしか立ち上げて検討されていた経過があります。

先ほどの町長の行政報告等の中にもありましたように、伊豆縦貫道がいよいよ、途中までですが、国道1号から函南まで通じた中で修善寺のインターまで来たという中で、当然町長は観光面にも災害面にも、それから今議会ではお話しにならなかったんですが、救急等の関係の命の道だというようなお話をされて、それは同感だと思うんですが、そういう面を含めて、南伊豆にとって河津、下田間の道路と比べて、ちょっとまだ何も姿が見えないんですが、一條稲梓線のほうが南伊豆としては非常に重要な道路だと。一條から行きますと、いわゆる箕作の3差路まで8分とか9分ぐらいで行くとかというような時間等のうわさもあるんですが、そういうものを含めた中で、重要性は両方とも重要だと思うんですが、難しい答弁になるかと思いますが、その辺のお考えがありましたらちょっとお伺いします。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

伊豆縦貫道、河津、箕作間ですか、これができたとしても、南伊豆町にとっては余りプラスにならない部分があるかなと、全然ゼロというわけではないんです。それで、そういうことを含めまして、やはり一條稲梓線というのは大事な道路になってくるなと思います。

それで、平成25年度の事業計画として3月下旬に、下田土木事務所、賀茂農林事務所の職員と、建設に向けた事業採択の調査研究会合と、平成26年度事業計画の策定を予定しております。

また、平成26年度の事業計画としては、下田市と協議が必要となりますが、南伊豆町の計画提案としては、総会開催と同日に決起集会を予定しており、今後、あらゆる機会において事業採択関連機関への要望活動をして、南伊豆町にとってこの道の必要性を訴えていきたい、このように考えています。

具体的には、平成27年度からの県の次期半島振興計画に、一條稲梓線の道路整備が位置づけられるように活動していきたいと、このように考えておりますので、議員各位にもご協力のほど、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 谷正君。

〔4番 谷 正君登壇〕

○4番（谷 正君） 地元の南伊豆の町長として、伊豆縦貫道の一期工事区間よりは重要だということ、なかなか外へ出ては、発言はできないと思うんですが、そういう中で、半島振興法の関係で、先ほど私も質問の中で触れました、出ました。これは、私も役場にいるときに担当した中で、紀伊半島だとか、それから鹿児島なんかには視察に行く機会があったものですから、いろいろ見てきたんですが、それと国土交通省のホームページの中で、半島振興法の関連のホームページを見ますと、伊豆半島中南部の半島振興地域だけがほかの地域と何か違うような形で、点線であったりというような形があるわけです。これは、過去の計画の経過の中で、一部事務組合から普通の連絡会みたいな形になったというような経過もあるらしいんですが、非常に鹿児島だとか能登半島とか、それから北海道のほうの半島振興地域の方々というのは、非常に熱心だと。陳情なり行動が熱心だというようなことを聞いているものですから、町長もご理解していると思うんですが、地元負担がないよということがあるものですから、それはぜひ半島振興法の研究を検討するというような答弁をいただいたんですが、対下田ということになりますと、過疎自立促進法はちょっと首をかしげるようなことがあるものですから、先ほどの半島振興法を含めた3法を十分頭に入れて、これはぜひ進めていただきたいということです。これは答弁要らないです。

そうすれば、先ほど言いましたように、防災だとかいろんな関係で非常に町にとっては重要な道路というような形になろうかと思えます。これは、町長も私も認識は同じだと思うものですから、それはぜひ進めていただきたいと。

それから、もう一つ、それに絡みまして今年の1月16日に、先ほど来の町長の答弁の中にもありましたように、一條稲梓線の道路建設促進期成同盟会が発足したんですが、これは地元の選出の県議員が初めに問題提起されてから1年以上たった中で、私の感覚ですと、ようやく期成同盟の発会になったのかなというようなものがあるんですが、その中で、先ほどちょっと昔の協議会にも触れたんですが、南伊豆町にも促進の協議会があったんですが、これはやり方によるとまた前の協議会と同じような形になって、途中でおかしくなるというような危惧も、対下田とも当然温度差があるものですから、そういう中で、町で期成同盟の中に、今後当然、発展、加入というような方向にもなろうかと思うんですが、区長さんなり経済団体等を入れた中での支援組織として、期成同盟の応援組織みたいなものをつくる考えがあるのか。これは、一つの例として、商工会とか観光協会とか農協とか漁協とか区長会、老人会等を網羅した中で、そういうものをつくる用意があるのか。

これは、具体的には1月29日に、南伊豆商工会の役員を対象に土木事務所さんとの意見交換の中で「みち～満ち・充ちミーティング」というのが南伊豆町で開催された中で、南伊豆町商工会が一條稲梓線の道路整備の要望をしたというようなことがあるものですから、その辺の支援組織の考えがありましたらお聞きしたいと思います。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

先ほど地元県議の話が出ました。平成27年度からの半島振興計画への採択に関しましても、地元県議のほうから紹介をいただきました。そして、何しろ県の半島振興計画に県のほうでの採択をいただいた後に、国での採択というか、そういう形になっていけばいいなど、強力に進めていきたいなと思っています。

そしてまた、今、議員がおっしゃられた組織の問題ですけれども、これは下田市との調整が当然必要となってまいります。温度差があります。そして、南伊豆町としてはご支援いただく団体は、当然町議会の皆様を初めとして各地区、経済団体、観光協会、商工会等もいろいろ考えております。平成26年度に予定している決起集会、静岡県への要望活動においても、この団体の方々にも協力をお願いしながら強力に進めてまいりたいと、このように考えております。

○議長（稲葉勝男君） 谷正君。

〔4番 谷 正君登壇〕

○4番（谷 正君） それで、今、当然下田市との温度差があるというようなことがあるんですが、これは災害が起きたときに、町長もご存じのように下田の駅前というのは津波と液状化でだめだよと。それから、西伊豆のほうの国道についても、崖崩れで伊豆半島南部は陸の孤島になるよというようなことが再三質問でもありますし、答弁でもあるんですが、その中で一つの、下田市との関係が当然出てくると思うんですが、下田市についても駅前がだめだということになりますと、それから南部については当然陸の孤島になるわけですね。

ですから、この一條稲梓線のアクセス道路として、大賀茂から一條稲梓線にアクセスするような道路も当然考えられるものですから、そういうものを踏まえた中で、今後下田市と協議をしていただきたいと。これは結構です。

それから、最後になりますけれども、この一條稲梓線だけではなくて社会資本の整備等を踏まえた中で、先ほど言いましたように、過疎法だとか、それから南海トラフ巨大地震対策

特別措置法だとか国土強靱化基本法というのは、財政力の弱い南伊豆町にとっては非常に有利な、事業執行のための法令だと考えられます。そういうものを踏まえた中で、先ほど室長が答弁されていましたが、市内横断的な組織というんですか、プロジェクトチームでも何でも結構ですから、そういうものを踏まえた中で行政を進めていただきたいということを要望して、少し早いですが、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（稲葉勝男君） 谷正君の質問を終わります。

ここで、2時まで休憩します。

休憩 午後 1時53分

再開 午後 2時00分

○議長（稲葉勝男君） 休憩を閉じ、会議を再開します。

◇ 横 嶋 隆 二 君

○議長（稲葉勝男君） 11番議員、横嶋隆二君の質問を許可します。

〔11番 横嶋隆二君登壇〕

○11番（横嶋隆二君） それでは、通告に従って私は南伊豆の住民と日本共産党を代表して一般質問を行います。

まず、今日の情勢ですが、町民の皆さんの声、日常の生活の状況で今話題に上がっているのが、4月からの消費税の増税への対応です。消費者の立場であっても、消費税増税の前に一定の大きい買い物をする、そういう声、深刻なのは中小零細業者、自営業者が多いわけですが、そこは死活問題だという声があります。商店では、多くの地域でその集落に一つしかない商店が閉店を決める、そういう声も上がって地域の閉塞感が広まるという感じもあります。アベノミクスが叫ばれている一方で、この状態であります。消費税が社会保障充実という一方で、介護保険の中身が大幅に費用負担を求められる、中身が切り捨てられる、こういうことも報道されております。

国民、住民が安心して暮らせる社会、経済生活をしっかりと築いていかなければならない

ということを肝に銘じて、一般質問を行いたいと思います。

まず、1番目の質問は、土砂災害防止法施行における課題ということであります。

竹麻地区、湊地区あるいは南中地区でも、2月に入って土砂災害防止法に伴う区域指定のお知らせ、土砂災害防止法の説明会の開催という回覧が回りました。まず、この取り組みそのものは県の土木事務所が主催してきたものであります。これをさかのぼること三、四カ月前から住民の皆さんの間で、知らない間に家の庭に測量棒を持った人が来て、立ち入ってやっているという報告を受けて、話を聞いて中身を知ったと。ただ、その際はこの法律に基づいて県の仕事でやっているということで、その後、指定をされてどうなるんだという詳しい説明は後からだという、そういうことで、一つは疑問に思うことと、物事を進める上での手続上、段取りに対する厳しいご指摘を受けました。

そうしたことを踏まえて質問ですが、改めてこれは県が進めたことですから町がどうこうということではありませんが、土砂災害防止法に伴う今回の区域指定は、平成13年に施行された土砂災害防止法、これはこの間、気象変動にもよって大量の降水によって予想もし得ない、深層崩壊も含めて土砂災害で、とうとい人命が各地で失われてきた、これに基づく法律ができてきたわけでありますが、取り組みに関して、まず、町の認識を伺いたいと思います。よろしいでしょうか。この質問の一環ですが。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

先ほども加畑議員から質問がありましたとおり、やはり観光に影響が出たりとか土地の評価に問題が起こったりということ考えた場合は、非常に大きな問題だなどは考えております。

しかしながら、町民の安心・安全ということ考えたときに、このような周知をしていくことも必要かと思えます。土砂災害特別警戒区域に指定された土地に関しましては、建築物の構造規制や特定の開発行為に対する制限等が発生しますことから、その影響を考慮し、近隣市町の状況も参照にしながら、平成27年度の評価替えに向けて所要の補正を検討していくつもりでございます。

また、土砂災害警戒区域に指定された土地につきましては、建築等の制限がないことから、所要の補正が必要ないと今は考えております。

○議長（稲葉勝男君） 横嶋隆二君。

〔11番 横嶋隆二君登壇〕

○11番（横嶋隆二君） 答弁書、先に進んでしまったようであれですけども、通告の一環ではあるんですが、いわゆる法律が決まったから、住民に承諾や説明なしに測量、私有地に入ってやると。それで、疑問に思って聞くところだという、こうしたことは今後も想定されると思うんですが、あらかじめ法律の施行のことでやるということを、事前に住民の皆さんに周知させた上で測量に入るということが、そういう手法をとるべきではないかというふうに思います。

これは、先ほど答弁していただきましたので、県に対してこういうことは、町が仮にやるにしても趣旨を説明して、それから結果を出すというか、指定するわけですから、こういうことをすべきではないかと。

続けた後の答弁でもよろしいですので、もう一度この土砂法制定に関する認識を伺いたいと思いますが、私は、指定された、あるいは指定することに関して、不安とかあるいは観光客への影響とか、住んでいる住民の感情の問題以前に、やはり昨年10月の大島の局地的な土砂災害、これまでも和歌山県紀伊半島や山口県等々、全国各地で局地的豪雨によってとうとう人命が失われていると。これが、これまでの「砂防三法」、「砂防法」、「地すべり等防止法」、「急傾斜地法」という、いわゆるハード対策中心の法律だけでは、住民に対して、国民に対して啓発し切れないということで、今回の土砂災害防止法がソフトの面で限定されて国民、住民に認識をさせるということと、危険区域の明定、開発行為の許可制の導入、建築物の構造基準設定、一定の場合の建築物等の移転勧告制度の設定を規定したということで、砂防3法をいわゆる補完するものであって、非常に重要だというふうに思うんですね。

確かに、説明を受けた当初では、私も湊で聞いて非常に動揺の声を聞きました。しかしながら、この間、50年も前の列島改造論から、こういう住んでいる地域がどういう状況かということを知らないで開発がされたりする中で、人命が失われてきている。しかし、しっかりとした認識を持つことで、いわゆる知らない土地に行ってもその危険性を知って、未然に、事前に危険性を認識しているという、この周知は、まさに崖地、急傾斜地だけではなく、沿岸地域で海水浴客とか海のお客さんを呼ぶ地域では当然と言われるほど当然のことであって、それから考えれば非常に重要な内容だというふうに思います。そういう認識で捉えてよろしいのかどうか、町長あるいは担当にご答弁を願います。

○議長（稲葉勝男君） 建設課長。

○建設課長（鈴木重光君） お答えします。

今、議員がおっしゃるとおりで、土砂災害防止法はソフト、避難への資料としてそれを使っていたきたいということです。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 横嶋隆二君。

〔11番 横嶋隆二君登壇〕

○11番（横嶋隆二君） その上で、そうしたことを前提にして警戒区域、特別警戒区域指定地域の土地評価という質問に入るわけですが、改めて町長に、先ほど答弁されてしまったんですが、お願いしたいと思いますが、いわゆるこれまでは急傾斜地法とか漠然とした概念であったけれども、今回は明確に区域が赤い線と黄色い線で囲まれて指定されたと。こうしたことが、説明会で瞬時に説明されて動揺が走ったわけですが、当然この開発等々の規制、あるいは取引に対して、これの告知義務が生じるということになれば、その評価に対してしっかりと査定の見直しをすべき内容であるし、既にこうしたことをやっている地域があります。固定資産税を特別警戒区域に当たったところは、レッドゾーンのところは30%の減額等々、減額評価に対してもいろいろな試算がありますけれども、そういうことがもう実際に実施をされております。これに対して、南伊豆町でそうした箇所にかかっているところに対する対応、どのように検討されるのかご答弁をお願いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

先ほどもお答えしましたがけれども、何しろ保安林等、評価ゼロというところもございます。そういうことを踏まえて、今回の土砂災害特別警戒区域に指定された土地に関しましては、平成27年度の評価替えに向けていろいろ補正を検討していきたい、これがどういう形で評価が出てくるのか検討していきたいと思います。近隣市町と当然情報交換をしながら、決定していくということになろうかと思えます。

また、今の段階では、先ほども言いましたように、特別警戒区域でない土砂災害警戒区域に指定された土地については、建築等の制限が特別今のところないもので、この補正はしないというような考えでおります。

○議長（稲葉勝男君） 横嶋隆二君。

〔11番 横嶋隆二君登壇〕

○11番（横嶋隆二君） ぜひ評価に関しては、しっかりと、全国の例ももう出ておりますの

で、対応していただきたいと。

1番目の②の問題ですが、これは12月にも第2次被害想定、これは津波に対する第2次被害想定が出た段階で質問も行いましたが、今回、この土砂災害防止法施行において指定された中に、警戒区域でいわゆる避難地域等々が、例えば南伊豆東中学校等々も、土石流に一部ひっかかる、特別警戒区域が脇にあると。

いわゆる状況設定、シチュエーションでいえば、瞬時の大量の降雨と、それと津波での避難時の対応と、それぞれ違うと思うし、また場合によって、万が一津波と降水、降雨が重なる、そういう可能性も全くないとは言えないと。そうした場合に、広域避難地の設定といわゆるあり方に関してはどのように捉えたらいいのか。これは、この説明会が行われた会場でも、雨が事前に降っていなければ、津波のときは高台に、急傾斜地あるいは特別警戒区域でも高いところに逃げるのが原則だという、そういう話でありましたが、場合によっては雨が降って危険な場合、どこに逃げたらいいのかと、いわゆる公のところを指定する難しさというのはあると思うんですが、この点のご認識はどのように、様々なシチュエーションで対応が異なると思うんですが、どのように捉えたらよろしいと考えておられますか。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

土砂災害防止法では、崩れ出た土石等によって、生活している方々の命や身体に危険が及ぶ恐れのある場所を、危険性に応じて警戒区域と特別警戒区域に指定しているわけでございます。

各地域に一時避難所として指定してある公民館などの避難所、及び各小・中学校などの広域避難所も、所により区域内に位置することが想定されています。

現状では、静岡県による町内の調査が始まったばかりで、町内全域の詳細が正確には出ておりませんが、避難所については検討してまいりたいと思います。

この区域設定に関しましては、木造家屋を基準とした強度で換算しており、小中学校などの広域避難所については、特別警戒区域でなければ、建物の構造上、警戒区域内であっても土石流等による倒壊の恐れがないと判断して、自主避難、避難勧告等時には避難場所として開設していきたい、このように考えております。

いずれにいたしましても、詳細が明らかになった地域から確認、検討してまいります。

○議長（稲葉勝男君） 横嶋隆二君。

〔11番 横嶋隆二君登壇〕

○11番（横嶋隆二君） 全体が出て検討した際には、改めてそうした結果の、あるいは避難地域のあり方に関する周知をぜひ行っていただきたいと思います。

3つ目に、指定された区域の対策について、土砂災害防止法そのものはハードの事業ではないんですが、あえてこれに対する対策等々を考えておられれば、これに対するご答弁をお願いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えします。

土砂災害防止法では、対策工事などハード事業はなく、あくまでもソフト事業を主とするものであります。

対策工事につきましては、「砂防法」、「地すべり等防止法」、「急傾斜地法」のいわゆる「砂防三法」によるハード対策であります。

この事業につきましては、現行のとおり町と当該地区、地権者と相談調整を持って推進していきます。

また、ソフト事業といたしましては、ハザードマップ作成、配布を行います。各地区の自主防災会等の要望に応じた防災出前講座、防災訓練の充実など積極的に推進し、町民の防災意識の向上を図ってまいりたいと思います。

先ほども加畑議員の質問に対して答えましたとおり、いわゆるワークショップ等、逃げ地図とかそういう形で、各自が認識できるような防災訓練、地図上のDIG、そういう訓練も行っていければと、このように考えております。

○議長（稲葉勝男君） 横嶋隆二君。

〔11番 横嶋隆二君登壇〕

○11番（横嶋隆二君） ぜひ、高齢者が多い地域での問題もありますし、実際に説明会をやってもなかなか来られない方もおられます、高齢の方が。いわゆる自分で動けて自分で逃げることができる、判断できる場合はいいんですが、介助、援助が必要な人の場合には、やはりそれなりの対応が必要だということで、こうしたことも考慮した対応を、今後ぜひ含蓄をしてやっていただきたいというふうに思います。

次に、高齢者・子育て世代の支援についてであります。

少子高齢化という言葉、ずっと枕言葉で十数年、もっと長いこと続いております。日本が

急激な高齢化を経験しているというのは、欧米に例がないということでありましてけれども、現状、いわゆる一つの町だけで全て解決できるとは思っておりませんが、一つ一つの施策、政策、制度なりを積み上げて、この地域、半島先端の交通が不便な地域でも生活ができる、人口を維持していける、この取り組みを進める気概は持たないといけないと思います。

これまでも、10年来、合併問題のときの、四国の2,000人、1,000人の町の例、村の例をこの場でも挙げましたが、こうしたところが葉っぱビジネスの上勝町とか、徳島県の神山町とか、依然頑張っているものの、ここから脱していくことはなかなか難しい状況にあります。

こうした市井に、私は単なる現象というよりは、社会、政治的、施策的な問題、地元の身近に歩いて行ける商店がなくなってしまう、これは大資本の規制緩和で大手資本が均一の商品を全国、この半島にまでもコンビニ等々がいっぱい出てきておりますけれども、こうして消費者の嗜好を、言葉でいうと奪って行って、足で通えるところの商店が経営が成り立たない状況をつくっていくと。また、地域で生産するものそのものも、大手資本には太刀打ちできないということがあります。規制緩和の影響の一端がこういうところにもあらわれているというふうに思います。

この高齢者・子育て世代の支援、全て網羅している質問ではありませんが、まず、冒頭に述べた買い物難民、いわゆる地域にもう一つしか残っていない小売商店がこの3月で閉めると、消費税等々の対応も含めて持ちこたえられないという声があります。それだけではなくて、商店があるようなところでも買い物に行くのが困難、あるいは医療の問題でもそうです。こうした買い物困難者に対してどのように見ているのか、あるいはアンケート等々、健康福祉の分野でとられているのか、対応策について検討されているのかどうか、この点をお答えしていただけますか。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

議員がおっしゃるとおり、行き過ぎた経済効率性の追求が、コミュニティの崩壊に繋がっているのではないかと考えております。その中で、町では高齢者や身体的理由により自家用車を運転できない方や、経済的理由、さらには地理的理由等から公共交通を利用しがたい交通弱者・買い物困難者と考えられる方が存在することは認識しております。

買い物困難者が買い物をする方法としては、親類・知人の方に依頼する方法や、民間事業者が実施している、注文品を自宅まで配送する宅配システムを利用することも考えられます。

これは、もう今、議員もご承知のようにコンビニ等もこういうことをやっているみたいです。

また、町では65歳以上の調理困難な高齢者や身体障害者の方などについて、自宅への宅配サービスを行っております。

交通弱者や買い物困難者への対応策としては、一つには路線バスでの対応が考えられますが、バス会社が運行している路線バスの増便は利用者が少ないことから困難であり、また、町が実施している自主運行バス事業の増便も、経費がかかるため難しいと考えております。

そのため、町では、需要に応じて運行するデマンド方式をバス会社に検討するよう依頼しておりますが、今後、さらにバス会社と協議を重ねるとともに、国の動向や全国の事例等の情報収集に努め、運輸局や静岡県等関係機関や、地域の代表者の方が構成員となっている地域公共交通会議で検討してまいりたいと思っております。この地域公共交通会議であります、でき得るなら住民を巻き込んだ形での一つのワークショップ的なものができればなど、今、考えているところであります。

○議長（稲葉勝男君） 横嶋隆二君。

〔11番 横嶋隆二君登壇〕

○11番（横嶋隆二君） 様々なパターンで取り組みもされているということは承知をしておりますが、バス会社へのデマンド方式の対応、これにも期待するし、町長が言われた住民を巻き込んだという点では、かつて、今、浜松市になっていますけれども、北遠の佐久間町では、地域が全体となっていていわゆる交通移動手段を含めたNPOをつくって対応して、足の確保ということもされております。

また、行政報告で、地域支援隊の報告がありました。2名を三浜地域ということでありまして、こうした地域支援隊の役割こそ、まず現状窮しているところに総務省がこうした対応を進めているわけで、こうした役割を位置づける必要もあるんじゃないかというふうには、位置づけたらよいのではないかというふうに思いますが、いかがでしょうかね。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

当然、地域おこし協力隊の方々は、住民を巻き込んだ一つの運動をしていただくわけでありまして、できればそういうことに関しての一つの輪というか会議というか、そういうものをその方たちが立ち上げていくような指導はしていきたいと思っております。

○議長（稲葉勝男君） 横嶋隆二君。

〔 1 1 番 横嶋隆二君登壇〕

○ 1 1 番（横嶋隆二君） ぜひそれを採用された暁には、ご相談をしてやっていただきたいと。

それで、改めての確認ですけれども、町長もご答弁されたように、行き過ぎた経済効率が現状を引き起こしているという、これは規制緩和の影響でやっているというのは、もう国民誰も承知をして、こうしたことは、制度をまた戻せばもとに戻って、いわゆる小売商店も元気に営業ができる、住民の雇用もそこでできるということなんですね、雇用というか中小商店の維持ということも含めて。こうしたことを展望しながらも、現状では穴埋めをしなければならぬということでの対応であります。それでも、いわゆる親戚、知人だけ頼れない方もおられますし、ぜひ検討して、安心して住みなれたところで生活できる保障を進めていただきたいというふうに思います。

次に、若者定住促進のための町営住宅建設の考えについて、そして子供医療費、高校生までの無料化の考え、保育料引き下げに対する考え。

これは、どこの自治体も少子高齢化の枕言葉で進んでいるんですが、全国で、これは合併問題のころも例に挙げた、長野県の南部の下條村が全国からの視察が引きも切らないということで、合計特殊出生率が2.04で、これは全国でもトップのほうであります。年少人口率が16.4%、非常に高い状態です。子育て広場無料で、保育料も半額に5割を引き下げて、給食費は3割補助、高校生までの医療費は全額免除で、住宅は2LDK駐車場2台分がついて3万4,000円、やはり地方、過疎地と言われているところは収入、所得が低いわけですから、こうしたことで子育て世代向けの村営住宅の建設をしたことで、先ほど話した出生率がうんと上がってきて、全国の模範になっていると。テレビでも紹介されておりますけれども、負担のように感じると思うんですが、この南伊豆町が、鉄道がない地域で現在でも9,000人弱いる。いろんなお祭りとか観光で盛んなところでも、鉄道が通っていても7,000人をもう少し割るといふ自治体も郡下にもあります。

南伊豆町の場合は、いわゆる先人の知恵でもって保育所が各地区にあって共働きの環境がつくられて、その保障がされてきたこと、もう一つは海軍病院が誘致されてここであって、国立病院でもあって雇用もされてきたと。これは、やはりこういう人たちから輩出された人たちの努力、知恵もあって、この地域が鉄道から10キロも離れていても9,000人いまだにあると。重立った産業は歴史的な関係からなかなか構築できなかったけれどもあると。ここを重視するべきだと思うんですね。

保育環境が充実しているということで、この賀茂郡下の他町からも移住している若者がお

ります。仕事もして、病院は下田に移ったけれども雇用もまだあるということで、安定した職場ということで移住している方もあります。さらにこれを、別に町長が言うワープステイとかを否定するわけではないんですが、この地で生まれてこの地に帰ってきたい、こうした人たちを大変だけれども今の経済制度、社会制度の中で、難しいんだけど、そこを決して離さない、移住者定住促進で受け入れもちろん、Iターンも受け入れるんだけど、この地で代をつないでいく取り組みは諦めないでやっていきたいと、そういう点でこうした取り組みは必要ではないかというふうに思うんですね。

伊豆半島を普通の地図の見方と逆さにすれば、首都圏から本当に遠い環境にあります。ここで生活をしていく、この状態をやはり、また若い人にとっては必ずしも満足を得られる状態では今の時代ないかもしれないんだけど、それでもこの地を守っていく取り組みをしっかりと離さない、この点で制度の充実をすべきであるというふうに思いますが、町長のご見解を伺います。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

今、議員の質問は、2の②から⑤までと考えてよろしいですか。②だけですか。

〔「②、③、④まで」と言う人あり〕

○町長（梅本和熙君） ④までですか。

まず、定住促進のための町営住宅の建設という考え方ですけれども、町営住宅は現在5カ所に40戸ありますが、これらの住宅は全て国庫補助事業により建設したもので、公営住宅法に基づき南伊豆町町営住宅条例の規定により、収入や住宅困窮者などの入居の要件が定められており、若者に限定されたものでないことであります。

現在、町では本年度末を目途に町営住宅長寿命化計画の策定を行う中で、町営住宅の必要性について検討しているところでありますので、その中で総合的に検討しているところであります。

また、若者定住促進のための町営住宅については、国庫補助事業が対象にならないことから、ほかの補助事業との研究とともに、全国の事例等の情報収集に努めてまいりたいと考えております。

私も、いわゆる高齢者対策も当然必要ですけれども、人口減のためには子育て世代への支援というのが非常に大事なことだと思っております。そして、移住者の中にも、もっと町

営住宅が欲しいという話もあります。そういうことを考えたときに、この施策は進めていきたい。空き家対策等を含めながら、この町営住宅のことについてはもっともっと進めていきたいなど、このように考えております。

そして、子供の医療費の高校までの無料化の考え方でございますが、医療費の助成については、子供の保護者の経済的負担の軽減を図ることを目的として実施しておるわけでありませぬ。

本町におきましては、平成22年の改正により、現在の事業内容等になっており、入院、通院にかかわらず、対象年齢は中学3年まで、自己負担金及び所得制限は設けておりませぬ。また、入院時の食事助成については、助成対象としておりませぬ。

静岡県こども医療費助成事業費補助金交付要領が改定され、平成24年10月から補助対象年齢が中学3年まで引き上げられましたが、自己負担金500円が条件となっており、ほかの福祉医療事業に比べ自主財源割合が高い事業となっております。

また、平成25年10月1日現在、県下35市町で入院、通院とも対象年齢を高校3年までとしているのは2市町であり、中学3年までとしている市町がほとんどでございます。

現在、対象年齢の引き上げについては考えてはおりませぬが、県下市町の動向を参考に検討してまいりたいと思っております。つい最近、新聞報道された西伊豆町の22歳というのもありますので、いろいろまた検討していきたい、このように考えております。

そして、保育料の値下げの考えにつきましてですけれども、幼稚園の保育料は園児一人につき月額4,000円です。保育所については一人当たり最低3,000円から最高3万8,000円までの12段階に分かれており、内容はおおむね前年の所得税の区分により違っております。

ケースによっては幼稚園、保育園とも減額免除することもできます。

一人一人子供が健やかに成長することができる社会を目指して、平成24年8月に「子ども・子育て関連三法」が成立しました。この法律に基づき、平成27年4月から「子ども・子育て支援新制度」が全国的にスタートする予定です。

新制度では、乳幼児期の教育・保育の総合的な提供や、待機児童対策の推進、地域での子育ての支援の充実を図ることになっておりますが、現時点では、詳細が発表されていない状況です。

南伊豆町におきましても、「子ども・子育て関連三法」に対応した新制度が必要になると考えられ、当然、料金についても検討する必要があると考えております。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 横嶋隆二君。

〔11番 横嶋隆二君登壇〕

○11番（横嶋隆二君） これに関して、今の子供医療費の無料化、保育料の値下げに関しては、検討というか、そういうことでありましたけれども、この医療費の無料化、町長がご答弁されましたように、平成24年度から中学卒業までということになりましたけれども、私がこの議会で初めて言ったときは、こういう制度がなかったんですね。議会の1期目に、いわゆる社会福祉協議会もヘルパー制度も、家庭奉仕員制度という名前で一人、二人しかいない状態の中で、いわゆる高齢者介護ヘルパー制度の重要性の位置づけ、それとこの発展、充実を質問して、子育てに関しては医療費の無料化を訴えてきました。時間はかかりましたけれども、ようやくその後県が追いついて、国もそれを認めるようになってきたと。

私は、この議会でもいろいろの現場からの声ということ、ご答弁のほうでもあるようですが、まさにいわゆるここ静岡県でいうと東海道地域とは違う、首都圏とは違う地域でハンディを負った地域であります。だからこそ、ここがほかの地域を見て物事を判断するのではなくて、現状の、先人が今にある地域を残すに至った施策をベースに据えたように、思い切った英断をすべきであると。

この議会で、子供医療費の、乳幼児医療費の提案とか町営住宅とか言った時点では、まだ阪神の震災前で、町の小学校も含めて、小学校、保育園、幼稚園の耐震化はできておらず、庁舎の耐震化もできていない。その後、平成11年まで、財調も積み立ててこれをしてきたけれども、課題は多くあった時代であります。

しかし、現時点ではそうしたものを乗り越えて、やり遂げて財調も積んできた段階であります。次のステップに進めていく上で腹の据わった取り組みで、私も繰り返し言うように、これまでも移住者の受け入れ等々も提案もしてきましたけれども、定住促進でですね、やはりUターンをしてこの地域をつないでいく若者、Iターンもそうなんですけれども若者がしっかりと、なかなか民間で稼ぐのは大変なだけけれども、そうしたところでのバックアップをする、半島先端の地域だからこそ先陣を切る事例を、長野県の下條村は長野県で交通が不便な地域です。こうしたところが全国の視察が引きも切らないという、こうしたことをぜひ教訓にして検討を進めていただきたいと。

町営住宅に関しては、検討するということでもありますので、これもぜひ期待をしたいと思います。

次に、高校生バス通学費補助制度の導入、これも同じです。ハンディを負って、今、学校

は統合されましたけれども、地元の高校だけではなくて蓮台寺まで通う、あるいは松崎まで通わざるを得ない、こうしたところでやはり保護者の負担、学年が大きくなればなるほど大変になります。これに関するお考え、これは伊豆市がこの1月に臨時会を開いてやりましたけれども、その伊豆市、合併して今、菊地市長は、この交付税が10年間の期限を過ぎて来年度から大幅に減ってくるということで危機感を抱いている中で、子育て支援のためにこうした英断をしたということでもあります。これについて、ご見解があればご答弁を願います。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

本町から各高校に通学している方の中には、住居地から各高校が遠隔地であることからバス代が高額になるため、保護者の自家用車による送迎やバス以外の民間交通を利用されているケースがあることは承知しております。そして、また、ミニ集会等でもバス代が何とかならないかという訴えを受けております。

町では、生活交通のうち、特に通学を目的とした公共交通確保のため、自主運行バス事業を実施しておりますが、この事業は、運行による欠損額をバス会社に補助金として支出しているもので、国の特別交付税措置や県の補助制度を利用したもので、町の実質負担が少ないものであります。

高校生バス通学費補助制度の導入につきましては、バス代が高額であることから、補助率や補助額にもよりますが、相当の額が必要になることが予想され、現時点では補助制度も見当たりませんので、今後、全国の事例や補助制度の研究を行い、地域公共交通会議等において検討してまいりたいと思います。その中で、東海バスの社長に申したのは、奨学金制度をつくらないかと。将来大学へ行ったときに返済するとかという形でできないかというような提案はしましたけれども、回答は得ておりません。

○議長（稲葉勝男君） 横嶋隆二君。

〔11番 横嶋隆二君登壇〕

○11番（横嶋隆二君） ぜひ、この2番目の質問は高齢者対策、子育て世代の支援で、その対策全てを網羅したわけではないんですが、いわゆる少子高齢化という危機感を念頭に思ってもどうにもなりません。一步一步施策を積み上げて、そしてやっていくと。それで、人口が着実に足場を持つ中で、生産人口も増やしていくという考えをぜひ持っていただいて、将来に向けて力強い取り組みをする英断をぜひご検討していただきたいと思います。

次に、観光政策であります。

全般的に12月の議会でも、若干、道の駅関連で質問したときに、町長はいわゆる交流人口ではなく宿泊人口を増やすことが目的というか、それが重要だということを言われました。もちろんそれは間違っていないと思うんですが、交流人口を増やすということで、この地域に観光によってお金を落としていただく地域経済の増進、このために観光政策と地域経済の活性、これはどのように結びつけようと考えておられるのか。私は、宿泊人口はもちろん大事だし、交流人口をそれこそ数十倍に増やすということで、この地域の魅力を広げていくということ、さらに宿泊施設が土地の食材、物品の調達をすることで、これを地域の循環経済にしていく、こういうことを頭に描いておりますが、町長は観光施策の遂行、地域経済の活性化にどう結びつけようと考えておられるのか、ご答弁をお願いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えします。

議員は、今、交流人口を私が軽視したような発言をされましたけれども、そのようなことはございません。私が言っているのは、交流人口でも、いわゆる消費をしてくれる交流人口であるなら、これはどんどんふやしていきたい、このように思っております。その辺はちょっと間違えないでいただきたいと思います。

また、当町の主要産業であります観光産業につきましては、町内にある自然資源を最大限活用するとともに、町内に数多くある魅力的な観光資源を有効活用した観光振興を図っております。

平成22年度から、弓ヶ浜においては、年3回、6月、9月、10月にOWSレースを開催しておりますが、これは夏季シーズンの長期化を図り、安定した宿泊客の確保を目的とするものです。関東圏を初め、日本全国から、毎回100人を超す選手が参加していただいておりますが、26年度についても継続する予定であります。

また、国内だけでなく、海外にも目を向けたインバウンド事業にも取り組んでおり、特に台湾のスポーツ団体、旅行エージェントに、「南伊豆町」という観光スポットを覚えていただきつつあります。26年度については、環太平洋、オーストラリアにも目を向け、事業展開を図り、観光誘客から始めて東京オリンピックの選手団合宿誘致にもつなげていくことができると考えております。これらの中で、既に南伊豆町に在住しているシーカヤックの人たちから、具体的な提案もございました。できればそういうことを実現していければなど、こ

のように思っております。

加えて、2月11日に、「東駿河湾環状道路」の開通により東名・新東名沼津インターチェンジから修善寺インターチェンジまでが全線開通し、また、6月中には東名海老名ジャンクションと中央道八王子を結ぶ圏央道が全線開通する予定であります。そうした新たな高速道路の延伸と連携させながら、町内を周遊できるルートの再構築などを推進し、伊豆半島の世界ジオパーク認定に向けた活動とともに連携し、観光の多様化、国際化に努めて、雇用の増進、地域経済の活性化に繋げてまいりたいと考えております。

○議長（稲葉勝男君） 横嶋隆二君。

〔11番 横嶋隆二君登壇〕

○11番（横嶋隆二君） 様々な取り組みをしている報告、これは今後も続けていくということで、これはこれでいいと思うんですが、こうした中で昨年度と今年の比較が行政報告でも出されましたが、確かに一朝一夕にどうしたら伸びるかというのは難しい課題であります。そうした中でも、宿泊が伸び悩むとか、あるいは老舗旅館が閉鎖になるとかという厳しい状況があります。こうした状況を踏まえて、どういう戦略、今後持っていくのかということが課題になると思うんですね。

今の客観的な経済状態、町長は、アベノミクスの効果等々もありますけれども、実際そういうものがここまで反映するのか。そして、縦貫道の着々と進んでいるのは、それはそれでいいんだけど、そうしたもとで地域にお金が落ちる仕組み、観光も含めて地場の産業をどうやって救っていくのかと。誘客の問題では答弁いただきましたけれども、地場のほかの産業も含めて、どう地域の活性化をしていくのか、そういうお考えはございますか。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 今のは、観光についてでございますか。観光だけで。地場産業という。

〔「観光と産業」と言う人あり〕

○町長（梅本和熙君） どちらにしても、観光に関しては誘客をどのようにしていくかということが非常に大事になってこようかと思えます。そういう意味で、今回も夜桜マラソンをやったわけでございますが、420人の参加者がありました。そういう形で活性化していく、そして、やはり、今考えている観光に関しましては、ホテル、旅館だけでなく民宿に泊まるお客を増やしていきたいなど、このように考え、そのような施策を進めていきたいと、このように考えております。

それと、産業おこしですけれども、やはり、6次産業化が非常に重要になってこようかなと思っています。やはり、この地域でとれた農産物、今、具体的に進めたいと思っていますのはヤーコンです。ヤーコンを製品化していくと。これは、もうご存じのように下田高校南伊豆分校のほうでうどんをつくったと。まだ、ほかにも商品化しているヤーコンの製品がございます。そういうものをできれば使いながら、本格的な6次産業化していきたいと。そして、ヤーコン栽培が本格的になってくれば、耕作放棄地も減ってくるのではないかと、このように考えております。

○議長（稲葉勝男君） 横嶋隆二君。

〔11番 横嶋隆二君登壇〕

○11番（横嶋隆二君） 町長、その点、今のご答弁の中では一つお忘れになっていいやしないかというふうに思うんですが、土曜日に、身上起のイベントがございましたよね。愛国米を使ったお酒、私は暮れに仕入れて、2月の第3週に毎年10年来、来ている友人に初めて一緒に飲んだんですけれども、賀詞交歓会以来。この土地でつくった米でできたということで、桜以上に喜んでいただいたんです。それが、日本のコシヒカリ、ササニシキの源流である身上起が青市から出たと、ここをぜひ言ってほしいんですよ。

土地の者がこれをつくって、明治、江戸期ですよ。これは代々この日本で生活、生存する上で、いろんな環境の中で代をつないでいく、こういうものが町の中に各地あります。半島先端の中でも、代をつないで生存していく、これが日本のコシヒカリ、ササニシキの源流になったと。しかも、この愛国をつくった志太泉酒造、昔でいう等級、特級酒以外はつくらないということで、相当飲んだけれども朝何も残らないということで、本当にいい酒だという評価をいただいたんですね。

やはり、これは町長が先頭になって宣伝をすると。これは、私、初めて今日見た、地域観光の戦略とまちづくりという「地方議会人」の冊子ですけれども、この中に、観光庁観光地域振興課長の川瀧さんという方が書いている中で、神社、仏閣だけでなく商店街、農山村を訪れる中で、地域の人との交流を通じて地域の日常のよさを感じ、長く滞在してまた来たいと思えるような滞在交流型観光を実現することが重要、あの人にまた会いに行きたい、あの地域のよさ、奥深さをもっと知りたい、これが、愛国の種苗を取り寄せたことと同時に、経営が大変な中でもいわゆる量販の酒ではなくて、地酒を丹念に全国の酒蔵を回って、この南伊豆に集積している酒屋さんがあったということが、ああいうものをつくり出したと。そこは、南伊豆の誇りに思ってこれを宣伝して、あのお酒で南伊豆の伊勢エビ、海産物、農産物

を食べてもらう、その先頭に立つべきだと思いますよ。

私は、こうしたことを含めて、地域の耕作放棄地の対策は地域でとれるお米を食べることが、水田の耕作放棄地解消には一番です。いろんな団体がやっていますが、南伊豆町のお米の消費量、食料品の消費の総額は、厚生労働省の国民経済計算の概要で25億あるんです。米は大体2億です。これを町内で消費するようになれば、これが解消に向かうし、ましてお酒をここでつくったもの、委託醸造でありますけれども、これは誇りに思って宣伝をしていただきたいというふうに思います。

また、これはご答弁はまた後でいいですけども、②、③、④に関してですが、一つは、みなみの桜と菜の花まつりの駐車場有料化の効果と影響についてどのように捉えているか、3週間過ぎて、これまで天気が悪かったですけれども、私はガソリン代が高騰している中で、本当はおもてなしとしたら、駐車料金は取らないでその分消費していただきたいということをしるべきだというふうに思うのと、もう一つは南伊豆の河川の桜も、もう20年、30年近く前に植えられた先人の遺産であります。今後の展開としてこれをどのように考えているのか、将来展望等、将来の対策についてお答えしていただきたい。時間がないからその2つでいいです。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 愛国米の関係ですけども、サミットには私も出ております。その中で、身上起のお酒はおいしいということを言いました。ただ、問題は、愛国米自体はおいしくないという意見がありました。そして、丸森町から来た生産者の方も、よくそんなものを食べるねというような発言があったそうでございます。非常に、それは事実です。

そういう中で、私は、6次産業化と議員が言われますけれども、身上起をつくっても地元には生産場がない、5.5次にしかなっていないんですよ。そして、この身上起のために、ブランド品開発のために、町から300万円のお金が出ています。そして、それが回収できる見込みがあるんですか。そういう問題を考えたときに、私は、今何しろ身上起を大ブレイクさせろということをおっしゃいます。大ブレイクすれば、確かに愛国米の生産も増えてくる可能性があるかと思えます。

聞くとところによりますと、700本の身上起をつくるのに約1反歩の愛国米があればいいそうです。そのようなことを考えたときに、数字的に考えたときに、例えば7,000本の身上起をつくったとしても1町歩です。7,000本売るということは至難のわざではないかなと、私

は思っております。それはそれで結構です。

それで、駐車場に関してですけれども、現在、数字的には2月5日から23日の19日間で、乗用車が1,762台、観光バス27台が駐車場を利用し、駐車料金及び環境保全料合わせて9万3,767円ということになっております。そして、環境保全料は乗用車が800台、観光バスが27台分で46万8,367円の協力を得られました。今、消費をしてくださればいいという話がありましたけれども、消費をしないで帰っていく、なぜ南伊豆町でトイレをつくり、皆さんにそういうことを提供してあげなくてはいけないのか。私は、先ほど言った交流人口というのは、十分消費してくれる人であるならそれはいいんでしょうけれども、消費をしないでただ桜を見て帰る人、こういう人に対しては、私は、特別それほど南伊豆町が何をしてあげるんだろうという感じはしております。そんなに税金を使う必要があるかということ。

そして、また、みなみの桜と菜の花まつりの将来と展望ですけれども、各地でこの河津桜が増えてきております。そういうことを考えたときに、これからどのようなイベントとして育てていくか、非常に重要な問題がそこにあるかと思えます。その中で、若手の人たちが「夜桜流れ星」をやってくれている、そして「夜桜マラソン」をやる、そういう形の中で新しい桜まつりというものを考えてきたいなど、このように思っております。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 横嶋隆二君。

〔11番 横嶋隆二君登壇〕

○11番（横嶋隆二君） 認識がちょっと違うんです。酒米で飯米になっているものはないんですね。酒蔵の一般的な認識では、お酒をつくるお米は飯米として炊いておいしいお米ではない、それがいいお酒になるということなんで、ぜひそこら辺はご認識を改めて、「夜桜流れ星」も何も含めて、コストの問題もご検討されて成功を祈っております。

以上で私の質問を終わります。

○議長（稲葉勝男君） 横嶋隆二君の質問を終わります。

ここで、3時10分まで休憩します。

休憩 午後 3時03分

再開 午後 3時10分

○議長（稲葉勝男君） 休憩を閉じ、会議を再開します。

◇ 清 水 清 一 君

○議長（稲葉勝男君） 7番議員、清水清一君の質問を許可します。

〔7番 清水清一君登壇〕

○7番（清水清一君） それでは、清水清一、一般質問をさせていただきます。通告書に従いまして質問させていただきます。

まず、1つ目といたしまして、地域産業の活性化ということで質問させていただきます。

どこの町も、地元の産業が発展しないことには町の経済も成り立っていかないという形がございます。そう考えたときに、各産業、1次産業、2次産業、3次産業等ございますけれども、それも今後、1次産業はどんな形、あるいは2次産業はどんな形、3次産業はこんな形という形で発展させていかなければならないと考えます。

そうやって考えたときに、皆さん1次産業で生活しておられる、2次でも3次でも生活している人がいっぱいおられるわけですから、各産業が発展してもらわなければ困るということ考えたときに、当局としてはどういうふうにご質問させていただきます。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

今日の農林水産業を取り巻く環境は、高齢化、人口減少及び後継者不足などにより、農林水産物の生産量及び販売額とも減少傾向にあります。本町では、安全・安心な食材の確保や食育、さらには行政及び関係団体の支援による新規就業者が徐々に定着しつつあり、以前とは異なる状況があらわれつつあります。

まず、農業であります。高齢化や後継者不足、鳥獣被害などもあり、年々衰退の傾向にありましたが、農業振興会の地道な活動や農林水産物直売所の「湯の花」の隆盛などにより、生産、販売及び消費の地産地消が確立されつつあり、今後、さらに発展の兆しがうかがえます。

また、林業につきましては、近年、森林の機能が見直される中、町内では2事業体が起業

し、森林整備地域活動支援交付金事業などを活用した活動を行うなど、環境保全及び若者の雇用確保にも積極的に取り組んでいるところであります。

水産業につきましては、つくり育てる漁業の確立を目指し、アワビ、伊勢エビ、マダイ、稚貝、稚魚などの放流事業を継続することにより、安定した水揚げを維持し、漁業所得の向上を図るとともに、一部では漁港施設の拠点として遊漁やダイビング等の観光的な活用もされております。

このように、農林水産業は、これからも消費者ニーズの変化に対応しながら発展することができるものと認識しております。

今後も、関係団体などと連携し、後継者対策として新規就業者の受け入れ及び人材育成を支援するとともに、利子補給などの財政的支援も視野に入れながら、その振興を図ってまいりたいと思います。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君。

〔7番 清水清一君登壇〕

○7番（清水清一君） ありがとうございます。

1次産業、そういう形で消費者のニーズに合わせていけるのではないかなという話がございます。いろいろ生産の形態が変わってきて、露地栽培からハウス栽培になるとかという形もございます。そうやって考えたときに、これからも頑張ってもらって繁栄してもらいたいと思うわけです。

町長、それで、2次産業、3次産業につきましては、どういうふうにご考えられておられるのかお伺いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） まず、製造業で2次産業でございますが、特別南伊豆町はそれほど大きな製造業を行っているところがございません。これらについては、いわゆる6次産業化を目指すような形の中で、そういうものができていけばいいなと、このように思っております。

3次産業に関しましては、観光業、サービス業ですけれども、これは今まで答弁したように、力を入れてまいりたい、このように思っております。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君。

〔7番 清水清一君登壇〕

○7番（清水清一君） 答弁ありがとうございます。

その中で、2次産業といっても、俗にいう工事業者、建設業者等は、あれはたしか2次産業だと思うんですけども、その発展施策はどういうふうに考えておられますか。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 建設業に関しましては、やはり全体的な経済が活性化することによって建設業というのも活性化していく、このように考えますもので、周辺事業が活性化しないことには建設業というのは発展することはない、このように考えております。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君。

〔7番 清水清一君登壇〕

○7番（清水清一君） 町長の言うとおりの、3次産業、あるいは1次産業の方々、皆さん稼いでもうかってもらって、それで仕事を謳歌してもらえればそれが2次産業で、建設ものがあるという形があるという形だろうということをお願いしたいんだけれども、そういうふうにしてよろしいでしょうか。今、うなずいていただきましたので、そうだと思います。そんな形で2次産業、地元の業者を、なるべく地元の人には地元の業者を使ってやっていただければ経済が潤っていくんだけれども私は考えます。

それでは、（2）の遊休農地、耕作放棄地解消に向けた取り組みについて質問させていただきます。

農地を有効活用するためにも、有効活用という形、草を刈ってもらってそこに作物を植えてもらおうと。農協さんのほうでも、新規就農者等をまた入れたいという形で少し動いているという話も聞いております。そうやって考えたときに、先ほど町長が答弁で言いましたヤーコンという話もございましたけれども、そういうものをつくって、遊休農地あるいは耕作放棄地、今、畑になっているところでもつくってもヤーコンでもいいんですけども、そういうものについての取り組みをどういうふうに考えておられるのかをお伺いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

遊休農地、耕作放棄地解消に向けた取り組みについては、鳥獣被害対策の面からも、重要な施策でありますことから、新規就農者などの担い手育成や農地集積による産地化、景観作物の栽培などに取り組み、遊休農地の適正な活用及び耕作放棄地の解消を図ってまいりたいと考えております。

現在、耕作放棄地の解消及び発生防止を図るため、町では自走式の草刈り機の貸し出しについて、各地区及び各農業団体などを対象として行っており、今後も有効な活用に向けた周知に努めるとともに、昨年暮れに行った農地基本台帳の調査による農地バンクへの回答結果がまとまり次第、所有者から貸し出し意向のある農地については、借り受け希望農業者に対して情報の提供を行ってまいりたい、このように考えております。

また、町内では、耕作放棄地の解消に向けた取り組みとしては、農業生産法人によるナバナの栽培が耕作放棄地再生活動優秀賞として評価され、先ほど議員がおっしゃられましたヤーコンの問題ですが、県立下田高等学校南伊豆分校では、「耕作放棄地を活用したヤーコン6次産業化への取り組み」が、県、県教育委員会と県産業教育振興会共催の「高校生ひらめき・つなげるプロジェクト2013」において、アイデア実践部門の知事賞を受賞されました。

加えて、一部ではヤーコンを原料としたそばやうどんといった6次産業化に向けた取り組みも進められており、今後はこのような取り組みも支援してまいりたい、このように考えております。

今後とも、これらの取り組みにより、一層連携及び促進を図るとともに、耕作放棄地の解消を図り、有効な農地利用が行われていくように努めてまいりたい、このように考えております。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君。

〔7番 清水清一君登壇〕

○7番（清水清一君） 大変いい話でございます。その中で、下田南伊豆分校のテーマで、やっぱり3年ほど前に県知事賞をもらったものがございます。それは何かといいますと、リバイブ100のアワですね。アワで県知事賞をもらっていると。だから、今年ヤーコンで知事賞をもらっているんですけども、その前にはアワでもらっているという形もあるものですから、これはやっぱり伊浜から出ている種でございます。ですから、その種を考えたときに、そのアワでまたそういうものがないかということもまた考えていけば、いろんなものを全部組み合わせてやっていくことが町内の耕作放棄地の解消につながっていくと思うものですから、そういうことも考えてやっていただきたいなと思いますが、町長、いかがでしょうか。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 議員のおっしゃるリバイブ100につきましても、天神原の植栽地に行

って、私もたまたまミニ集会でいったら植えていたもので植えろという話、それで、下田高校の農芸祭へ行きました、やはりリバイブ100の菓子がありました。そういうものとか、リバイブ100のときにはつくったお菓子がありましたね、そういうものを本格的に6次産業化で本当に取り組む人材がいてくれるといいなど、今考えているところであります。

実際、今、ヤーコンに関しましては、個人的に6次産業化をしようという人がいまして、その人を支援していきたいという気持ちは持っております。そういう形で、何しろそういう新しい起業に取り組んでいく人たちに対して、町としてもいわゆる支援をしていく、このようなことは考えております。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君。

〔7番 清水清一君登壇〕

○7番（清水清一君） ありがとうございます。

次に、町内企業の育成、支援の取り組みと推進はと。町内の経営者、事業者の減少をどのように考えているかと。やっぱり企業の経営者等が減少してきていると。やっぱり高齢化もございませう。後継者がいないからという形で、その企業が閉めてくるという形もございませう。町内企業を育成していかないと、新しい町になったときに何かいろいろ問題が出てくるのではないかなと。

今も、国のほうでいろいろ、建設工事の人件費が上がってきたと、とび職が足りないとか職人が足りないとかという話がございませう。そういうことを考えたときに、町内の個人経営者、事業所が減らないように、あるいは職人が減らないようにしていかなければいけないと思うんですが、それについての考え等をお伺いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

当町の人口は、1月末現在いよいよ9,033人となり、内需に頼った経済サイクルを成立させることは非常に厳しい状況となってきております。

このような状況の中で、平成24年度には新規事業としてインターネットショッピングモールに参画する事業者を募る、かかる経費について事業主体である商工会に補助金として支援を行いました。全ての消費者がインターネットを利用して買い物をするという時代が来るのは、まだもう少し先のことではあると思いますが、道路事情、その他立地条件の悪い当町域にあって、物を売り続けること、顧客を獲得することに対してインターネットショッピング

モールへの参画は非常に有効であると考えております。

また、現在、商工会を中心に地域産品を活用した商品づくり、ブランド化に力を注いでいるところでありまして、吟醸酒身上起、議員もかかわっておりますが、さらに付加価値をつける試みの段階に入ってまいりました。中木でいわゆる海底ワインと同じように、この身上起を海底酒として育てていこうという試みがあります。この身上起が大ブレイクすることを私も願ってはおります。

また、商品として製品開発事業は産業の裾野を広げますので、町といたしましても積極的に支援していきたい、先ほど申したとおりでございます。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君。

〔7番 清水清一君登壇〕

○7番（清水清一君） ありがとうございます。

なかなか新しい取り組みの中で経営者、事業所の減少を増やすのはやっぱり難しいという、何か聞いているとそういうこともあるんですけども、なかなか答えにくいところを答えているなというふうにわかりますので、それも町長も気にしていただいて、あるいは当局の課長さんたちも気にしていただいて、町内企業の育成、民宿さんもやめないようにしていただきたいと。商店経営者もなかなか集落に1個もなくなって、南上には今、二、三軒しかない、そういう状況にもなってきたら。

それを考えたときに、そういう事業所、あるいはそこで生活している方がおられるわけですから、そういうものが維持されるように、町としても事あるごとに努力していただきたいなど。検討しているんですけども、なかなか落とせるところというか、ここに持っていけるということがないものですから、なかなか当局としてもしゃべれないと思うんですけども、地元の企業をなるべく育成したいし、そのまま経営していただいて、町としても相談にあれば応援するという形をやっていると思うんですが、そういうことに対してのご答弁をいただきたいんですが、いかがでしょうか。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 町といたしましては、きらりと光る補助金事業を知っていると思えますけれども、3年間、上限が50万円ということで、起業する方たちに対して支援をしております。ですが、なかなか起業というのは議員もおっしゃるとおり非常に難しい、その中でどのような形で新しい産業を興していくか、これはいろいろ試行錯誤はあろうかと思えます。

先ほどから何度も申しておりますように、私はヤーコンが、これは個人的に努力して下さっておるもので、非常にそういう意味ではありがたいなと。実際問題、ヤーコンを今事業化しようとしている方の話ですと、1反歩ヤーコンをつくっていただいたら、年間35万2,000円その人にお支払いすると。1町歩までは自分が引き受けるというようなお話もございました。実際、この方は最終的にヤーコンの製品化、事業化をしていこうと考えているのかなと思っております。そういう方たちに、南伊豆町の一つの産業を興していただくというようなことを今考えておるところでございます。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君。

〔7番 清水清一君登壇〕

○7番（清水清一君） ありがとうございます。

なかなか難しいなというところもあるし、1反歩35万円というと何か税金の農業関係の控除の金額がそのまま乗ったような数字で、何かそっくりな金額だなと思いながら今聞いていましたけれども、その中でいろいろ町長も大変ですけれども、取り組んでいただきたいなと思います。

次にまいります。5番目、みなみの桜と菜の花まつりは今年どのように盛り上がっているかと。

前半、10日前から雪が降り、また20日前に雪が降りという形で、天城峠も車が来れないと、あるいは箱根のほうも車が来ないという形があるときには、関東方面あるいは山梨方面から観光客等がなかなかこちらに来られなかったから、それは仕方ないのかなと考えますが、ことしはなるべく一生懸命そのためにも、役場としても「夜桜マラソン」とか「結婚式」とか等を行って、「ナイトラン」もございますけれども、どのように盛り上がってきているのかと。また、人数等はどうだったのかと、そういうことを聞きたいと思っておりますので。

また、中間時点で、もう中間を過ぎてしまったという形でございますけれども、交流人口の変化、今年は雪の関係で少ないんですけれども、これを見たときに、これからの取り組み、あとまだ半分近くあるわけです。夜桜流れ星で復活してもらいたいんですけれども、そういうものを見たときに、これからの取り組みをどういうふうにご検討されるのかをお伺いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

第16回のみなみの桜と菜の花まつりが2月5日にスタートいたしました。かつてごく限られた地域でしか咲いていなかった河津桜が、先ほども申しましたように、今や全国的なものとなりつつあるため、かつての40万、50万の集客が望める状況とはなっておりません。つい最近ですけれども、やっぱり函南に「かなみ桜」ができるそうです。そのようなことを考えたときに、非常に将来的には厳しくなってくるなど。

このような状況を踏まえながら、土壌改良により菜の花畑の改良を施したり、また昨年導入いたしました「夜桜流れ星」のイベント、そしてまた本年から改めました「夜桜マラソン」、いろいろとイベントを講じながら、ツーデーマーチ等もそうでございます。そういう形の中で誘客を図っていきたい、そして来た方たちができる限り宿泊してもらえるような、そういう状況をつくっていききたいなと思っています。

また、今後は石廊崎の開発等と連携しながら、経済効果に繋がるイベントの構築の仕方、宣伝の方法についても改めて検討してまいる所存でございます。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君。

〔7番 清水清一君登壇〕

○7番（清水清一君） 大分努力したようだというのがわかりましたけれども、人出はどのようになっている、先ほどもほかの人の一般質問で何かちょっとそういう話をしたと思うんですが、それについて人出はどのようになっているのかと。

それで、菜の花の駐車場が、私はなかなか行かないものですからわからないところもあるんですけども、何か駐車場の車がいつもから見ると少ないような気がするものですから、菜の花の人出状況等はどうなっておられるのか、そういうことを桜とあわせてお伺いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 産業観光課長。

○産業観光課長（大野 寛君） お答えいたします。

まつりが始まりまして2週間ぐらいが降雪によりまして大変少なかったです。2月23日現在で、6万4,400人の入り込み客だというふうに連絡をいただいております。

それから、今、議員が言われました菜の花畑のほうの関係ですけれども、人数的には大分少なくて約100人ぐらいのあれになっています。この報告では、そういうような形になっています。

バスについても、これから伸びるとは思うんですけれども、最初の5日から14日あたりまでは一切来ておりませんので、その後バスについても3台、2台というような形できている

というような報告にはなっています。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君。

〔7番 清水清一君登壇〕

○7番（清水清一君） 逆に言うと、静かで花が個人的にきれいに楽しめるからかえっていいよと、逆の宣伝の仕方もあるかなと考えますけれども、こうなったらそういう形で宣伝するしかないんだなと。人がいっぱい来て、きれいだから人も来ているから皆さん来てくださーいと言うのか、あるいは個人的に菜の花を占領できますよと、ぜひとも来てくださーいよという形によって人を呼んでいくしかないのかなと、パターンを逆に考えれば。そうやって逆に、この間のソチオリンピックではないですけども、五輪の輪が出なかったことを、また閉会式では五輪の輪を四輪のまま閉会式をやったという形で、逆手にとって宣伝していただいて、人が例年より少ないから、かえってひとり占めできるから来てくださーいという形を宣伝するしかないのかなと思いますが、それも何かあれですから、うまく考えて、ぜひとも残りあと約2週間、人がいっぱい来ていただくように、やっぱりそれで南伊豆はいいところだったと地元に戻ってもらって宣伝していただくように、当局等の皆さんもいろいろアドバイス等をしてやっていっていただきたいと思いますので、お願いいたします。

石廊崎の開発につきましては、今、町長に答弁していただきましたけれども、石廊崎、これから基本構想案等、先ほどの施政方針等で述べられておられました。構想案は3月末までに石廊崎ジャングルパーク跡地をつくりたいと。それで、利用計画の検討をしていくためにパブリックコメント等を募集していきたいと、施政方針及び行政報告の中で先ほどしゃべっておられましたけれども、3月末まで、また利用計画等の検討、パブリックコメントについてどのように考えておられるのかお伺いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

石廊崎ジャングルパーク跡地の利用計画につきましては、現在公募を含めて町内外36人のメンバーにより、毎月ワークショップを開催しております。

ワークショップの内容は、毎月「広報みなみいず」に「ワークショップ通信」として公表しております。

今後は、ワークショップで検討した結果について、本年3月末までに基本構想案として提

案していただき、来年度からは、ワークショップアドバイザーをお願いしている千葉大学大学院木下教授が在籍している千葉大学園芸学研究科と協働して、基本構想案を基に石廊崎を自然との調和を図りつつ観光のメッカとして、新生石廊崎の構築に向けて利用計画を策定してまいりたいと考えます。

パブリックコメントに関しましては、担当課長から答弁させます。

○議長（稲葉勝男君） 企画調整課長。

○企画調整課長（谷 半時君） お答えいたします。

まず、パブリックコメントの件なんですけれども、とりあえず今年の1月いっぱいまでに一度、第1弾といたしまして利用計画につきまして提案をいただきました。それで、4件の方から利用計画案の提案をいただきました。明日開催されますワークショップにおきまして、報告をするつもりでおります。4月以降につきましても、今年の3月までに提案された基本構想案について公表をして、それについてのパブリックコメントを求めながら、さらに4月以降については、木下教授と相談といたしますか、協議をしながら、どういう方法がいかを検討しながら、また4月以降もいわゆるパブリックコメントというものをしていきたいというふうに考えている次第であります。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君。

〔7番 清水清一君登壇〕

○7番（清水清一君） これからいろいろ手続というか、よりよい石廊崎をつくるために、ワークショップあるいはパブリックコメントを募集していくというふうに解釈しますので、これをうまく募集していいものができてくれればいいと思うんですが、今、初めて、1月の段階で4件しかなかったという話を聞いたときに、やっぱりなかなか興味を持っている人が少ないのかなと。やっぱり自分からあそこはどうなったほうがいいのかを町民の皆さんにまた言って、広報でも連絡してやっているんですけども、それをもう少し考えて、件数がやっぱり20件、30件と集まったという形の中であれば、町長もあるいは当局も助かると思うものですから、募集をもう少し考えていただけたらと思いますが、どうでしょうか。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） パブリックコメントでございますが、議員おっしゃいますけれど、具

体的な提案として出ています。インターネットを使って、これは下流出身の方ですけれども、画面を使いながらこういう形がいいとか、こういう方向性がいいとかというものを提案してきております。ただ石廊崎をどうしたい、こうしたいというだけの問題ではなくて、実際問題、石廊崎の具体的な形というものを皆さん提案されています。そして、庁内からも、職員からもそういう提案が出ております。たった4件と言いますけれども、物すごく貴重な4件だと私は思っています。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君。

〔7番 清水清一君登壇〕

○7番（清水清一君） その4件、そういう分厚いもので書類であるんでしたら大変貴重なものであって、私もその内容等がわからなかったものですから軽々しくしゃべってしまったんですけれども、4件が大分充実したすごいものが、4つともすごかったんだという中で、今の答弁だと思うんですけれども、そういうものがパブリックコメントであるという形で、よい石廊崎になってもらいたいものですから、そういう形、また4月1日以降にまた利用計画基本構想案ができた後に、計画をつくる前のまたもう一つ、構想からまたパブリックコメントをもう一回という形だと思うものですから、それについて新たにまたいいものを募集していただけるようお願いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 明日のワークショップでございますけれども、今、ワークショップを開放しております。そこへ参加はできないんですけれども、一応今どういう意見が闘われているのかという形で、そこへ入場することができますもので、ぜひ時間がある場合は参加していただきたいなど。そして、これは町民の方も当然同じでございます。よろしくお願ひ申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君。

〔7番 清水清一君登壇〕

○7番（清水清一君） ありがとうございます。

明日ワークショップがあると知らなかったものですから、私も明日見に行きたいなと思います。よろしくお願ひいたします。

続きまして、湯けむりの町としての温泉活用の考えはという形で質問させていただきます。湯けむりの町、下賀茂温泉が湯けむりがいっぱい出ているということで、各源泉から湯け

むりが上がっているという形で、町民憲章の中に湯けむりのように高く仰ぐ文化のまちをつくりましょと、町民憲章の一つに湯けむりの町という形がございます。

湯けむりの町として、この下賀茂温泉をどのように源泉等を、あるいは旅館さん、あるいは商店街等をどうやって活性化していくのかをお伺いたします。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

下賀茂温泉は、古くから湯けむりたなびく湯治場として、旅館やホテルなど浴用に利用されてまいりました。

しかし、最近では湯量の低下やスケール等、温泉の管理の面から経費がかさむなどの声も聞かれております。

観光客の減少から、最盛期から比べるとホテルや旅館の数も少なくなっていることから、温泉地としての活性化が重要なことであろうかと考えます。

各旅館やホテルでは、それぞれ趣向を凝らしていると考えますが、さらなるPRが必要と考えますので、温泉組合、旅館、ホテル、観光協会等、関係者と検討してまいりたいと考えております。

また、地熱資源については、平成22年度から昨年度まで実施した総務省や環境省の調査を受け、現在、地熱資源を活用したまちづくりに取り組んでいるところであります。

以上でございます。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君。

〔7番 清水清一君登壇〕

○7番（清水清一君） なるべく下賀茂温泉街、あるいは温泉旅館組合あるいは民宿の方々にお客さんにいっぱい来ていただいて、稼いでいただきたいなと思いますけれども、この施政方針を見たときに、7ページにございますけれども、施政方針の中で、温泉を使って地下資源、発電所関係のことが書いてあります。それで、真ん中辺に、熱電併給事業等を中心にしたスマートコミュニティ・スマートタウンの建設を目指してと書いてありますけれども、このスマートコミュニティ・スマートタウンというのが、私はちょっと英語が余り得意ではないものですから、意味がわからないんですけれども、熱電併給等を中心にしたという、この片仮名の言葉の意味を教えてくださいませんか。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

熱電併給というのは、いわゆる熱と電気、これを同時に供給してあげるということです。そういう形の中で成立する街がスマートシティー、それ以外にもスマートシティーというのはコミュニティとかスマートタウンというような考え方はございますけれども、いわゆる明るく住みよいまちというような感じだと思います。

それで、今、千葉の柏市のほうが、このスマートタウン、スマートコミュニティの取り組みをしています。この取り組みにいろいろな、東京大学も入っています、いろんな企業が入って今後の高齢化社会、そういう中での住みやすいまちづくりというものを目指しています。それをスマートタウンと私は言っております。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君。

〔7番 清水清一君登壇〕

○7番（清水清一君） 大体、今の話から推測しますと、新たに住宅地をつくるのか、あるいは住宅地みたいなものをつくって、そこを要するにまとまってきれいにしてつくるからスマートタウンというのかなと。そうではないと思うんですけども、単純に今の話を聞くと、そんな分譲地みたいな、あるいは一つの街をつくるような話なのかなと。今ある下賀茂の街の中をスマートタウンというのか、あるいは開発していくのか、あるいは開発することによってコミュニティというから、要するに町内会をつくっていくのかわからないんですけども、そういうふうに私は解釈しましたけれども、そうではないと思うんですが、どうなんですか。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 高齢化社会へ向けまして、コンパクトシティーという考え方がございます。いわゆるまとまった形でまちづくりをしていく、いわゆるサービスが1カ所で行えるような街、そういう形というのが求められているわけで、スマートタウンとかスマートシティー、そして最近プラチナタウンとかいろいろ言葉は出てきますけれども、ほとんどその辺は同じような考え方だと思います。人口減少の中で、高齢化社会の中で、高齢者福祉とかそういうことを考えて、そして住みやすいまちというのはどういうまちなんだろうと。

そして、やはり人間がこうやって生きてきている中で、エネルギーというのは非常に必要なものであります。例えば、簡単な話でいいますと、エネルギーというのは例えば人間が歩

くのもエネルギーです。だから、例えば百姓ですか、ものをつくるときに、例えば自分で耕すのもエネルギーを使っている、ただそれがもっとだんだんエネルギーの使い方がうまくなっていく、電気を使いながらとか、時代的に考えれば牛とか馬とかそういうものを使ったり、だんだん機械を使ったりという形で、エネルギーの使い方がうまくなってきている。さらにそれをどんどん突き進めていくことによって、もっともっと人間が暮らしやすいエネルギーを利用することによってできる社会、このように考えたらいいかと思います。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君。

〔7番 清水清一君登壇〕

○7番（清水清一君） 大変いい話でしたけれども、一点だけちょっと忠告しておきます。農業者、あるいはくわを振るってという前段で、ちょっとこのごろ議会では余り使ってはいけないと、百姓という言葉を使ったものですから、農業者という言葉を使わないといけないという形だと思います。NHK等では絶対しゃべれないと、その言葉は言わないという形になっていますので、そこだけ注意しておきますので、町長、よろしく願いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 議員、すみませんでした。その言葉は認識不足でした。では農業者と、今後気をつけます。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君。

〔7番 清水清一君登壇〕

○7番（清水清一君） ありがとうございます。

次にまいります。定住促進の取り組みという形で質問させていただきます。

移住者、定年移住者の取り組みはという形で、これをどう考えておられるのかと。ワーブステイという言葉もございます。また、その内容等はどうなのかと。また、町営住宅あるいは分譲地の取り組み、住宅のあっせんという形で質問がございますけれども、これはほかの議員も今日質問されておられました。その中で、空き家バンク等もございます。それも進めたいわけですが、その効果も大分出ているようなことも書いてありますけれども、町有地の有効活用、あるいは定住促進のための融資、利子の補給等の考え等がございましたら、町長の答弁をお伺いいたします。3番まで。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

定住促進に関してですが、町では平成20年度から「移住交流セミナー」を開催し、町外の方の移住の促進に努めているところであります。

この事業は、特に定年移住者のみならず、当町への移住に興味や関心のある方に、町での生活の概要説明を行うとともに、農業体験や空き家見学、地元住民との交流などを通じて当町での生活を肌で感じていただくとしています。これまでの参加者は45組72人で、そのうち10組、24の方が、町に定住していただいております。本年度も、12月14日に現地セミナーを開催したところ、定員15名に対し16名の参加があり、既に、3月の移住を予定して物件を契約された方もおります。

加えて、アクティブシニアと言われる団塊の世代である65歳以上の元気な高齢者を対象にして、都会から一定期間当町に移住していただくワープステイの手法について勉強を重ねているところであります。

今後とも、引き続き当町の情報発信を行うなど、より一層の定住促進に努めてまいりたいと考えております。

次に、町営住宅、分譲地の取り組みですけれども、町営住宅につきましては、本年度を目途に町営住宅長寿命化計画の策定を行っており、その中で町営住宅の必要性を検討しているところであります。

また、分譲地につきましては、財政的な問題は当然のこととして、規模にもよりますが都市計画法や森林法による開発の行為に該当するなど法規制も厳しいものがあり、民間事業者への圧迫も検討しなければならないと考えますので、町による分譲地化は難しいと考えております。

さらに、移住者等に対する住宅のあっせんといしましては、現時点では、平成23年7月に創設した「空き家バンク」の充実を検討しているところであります。

なお、現在「空き家バンク」として登録していただいている件数は29件ですが、これまでに成約された件数が16件ありますので、少しずつではありますが「空き家バンク」の制度が定着しつつあると考えております。

今後、さらに登録件数の増加と利用者の拡大に向けてPRを重ねてまいりたいと思います。

次に、有効利用、定住促進のための融資の利子補給の考えですけれども、町では、吉祥町有地など町有地は幾つかございますが、地形的な面や経費の面からも定住促進住宅として活用できる適当な土地はなかなか見つかりません。

特に、財政的な問題から、町が直接活用することは厳しいため、民間活用について検討していく必要があると考えております。

また、定住促進のための融資や利子補給につきましては、移住された方を特定して、生活資金や融資や住宅建築に対する利子補給などの支援が考えられますが、現在おられる町民の方とのバランスなどを検討しなければならない課題も多いため、今後の検討課題とさせていただきたい、このように考えております。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君。

〔7番 清水清一君登壇〕

○7番（清水清一君） 町長、ありがとうございました。

いろいろ検討しているんだよ、だけれどもなかなか難しいところがあって、なかなか進まないんだよというような解釈をいたしました。でも、こうやって考えていただいて、進んで南伊豆に来ていただくようにしていただければ大変いいのではないかなと考えます。

その中で、ワープステイ、先ほどもほかの質問でもありましたけれども、ワープステイという話と先ほど町長に答弁していただきましたけれどもプラチナタウンと。住みよいまちをつくりたいんだよということなのですが、私はこういうふうに解釈しましたが、そういう形でよろしいでしょうか。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えします。

当然、住みよい場所でなければ移住者は来ないと思います。ワープステイにしても移住者にしても、住みよいということが条件、住みたくなるような町、そういう町をまずつくっていくということが必要ではないか、このように思います。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君。

〔7番 清水清一君登壇〕

○7番（清水清一君） ありがとうございます。

その中で、今日の施政方針の中に、移住・交流推進機構、ジョインのところで、ジョインさんが昨年7月以降にワープステイの経済効果を調査してくれるという形がございましたけれども、ジョインさんがこの経済効果を調査しているけれども、まだ結果は出ないと思うんですが、いつごろ結果が出る予定なのかわかりましたらお教え願いたいと思いますが。

○議長（稲葉勝男君） 企画調整課長。

○企画調整課長（谷 半時君） お答えいたします。

先ほど町長が答弁いたしました、いわゆるジョインで南伊豆町のワープステイによるところの経済効果ということなんですけれども、ちょっと具体的に何日というのは聞いていないんですけれども、当然25年度の事業ということになると、多分今年度中には報告があるのではないかというふうに考えているというところです。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君。

〔7番 清水清一君登壇〕

○7番（清水清一君） 民間さんが自主的にやっていただいた調査なんですけれども、またこれが町に提出された後で、私どもにも報告していただきたいと思いますが、それについては、町長いかがでしょうか。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

一度もう既に、ジョインの調査してくれる担当者が来て、私たちも話をしました。それで、最終的な報告が出ましたら、また議会のほうにもご報告申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君。

〔7番 清水清一君登壇〕

○7番（清水清一君） ありがとうございます。

それで、次に移ります。移住者の教育委員会の考えという形でございます。

子供がいた場合、その転入、転校という形はすぐ庁内でやってくれているはずなんですけれども、保護者によってはいろいろ、よその町ではこうだったという話を言うところがあって、説明は難しいところもあると思うんですが、そういう苦労もあると思いますが、教育委員会としてはどのように取り組んでおられるのかお伺いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君の質問ですが、暫時休憩いたします。

◎会議時間の延長

○議長（稲葉勝男君） 本日の会議時間は、一般質問の都合によって延長します。

休憩 午後 3時57分

再開 午後 3時57分

○議長（稲葉勝男君） それでは、休憩を閉じ会議を再開いたします。

◇ 清 水 清 一 君

○議長（稲葉勝男君） 教育長。

○教育長（小澤義一君） お答えいたします。

人口減少等の状況でございますが、南伊豆町に限らず、特に地方においては深刻な問題となっております。

働き手、担い手である若者が減少し、地域ににぎわいが失われている状況があり、いかに若者を地域内に定住させるかが喫緊の課題であると考えておるところでございます。

一方、近年社会経済状況が変化する中で、ふるさと、田舎暮らしに魅力を感じる人も増えておりました。都会から地方へUターン、Iターンという形で移動している若者も多くみられます。こうしたことは、地域の中に溶け込み、新しい人材となっただけの方々と考えておるところでございます。

議員が今申されたように、子供たちのことに関して、私どもも入学等あるいはよその地域から見えられており、そういうことについては、るる状況を聞いて対応しながらやっているところでございます。

なお、こういう方々の教育に関することについては、町長がよく言われるように、ミニ集会等、こういうことでも声を聞きつつ、教育委員会に今後も生かしてまいりたいと存じております。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君。

〔7番 清水清一君登壇〕

○7番（清水清一君） 相談に来たときに、南伊豆の教育は大変いいんですから、ぜひともま

た南伊豆に住んでくださいということを教育委員会でも言っていただきたいなど、言っているとありますが、よろしくお願いします。

次に、移住者への住みやすさアンケートを定期的の実施したらどうかという形で、南伊豆の町のよいところ、あるいはもう少しなところが、逆にふだんから住んでいる人についてはわからなくて、移住者が気がついてくれるのではないかなと思います。そうやって考えたときに、南伊豆のよいところ、あるいはもう少し改善したらいいところ、そういうものをアンケート等でやったら出てくるのではないかなと。

また、それと同じようなことを町民全体にやったらどうなるかなと。昔、よくはがきで、町報にはがきが入ったことがありますけれども、なかなかはがきも返ってこなかったと思うんですけども、そういうものもアンケートの一環としてやったらどうかと考えますが、このアンケート調査等を定期的に行ったらどうかということについてお伺いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

移住者への住みやすさアンケートにつきましては、まず個人情報としての問題もあり、移住者の特定が難しいと考えます。

つきましては、アンケート調査にこだわらず、現在、私が行っております「ミニ集会」、「ワークショップ」、「パブリックコメント」などを開催し、様々な場面において、移住者だけでなく町民の方から住みやすさと生活環境についてお伺いし、今後の行政に生かしてまいりたいと考えております。

また、今議会に町民参加型町政の実現を推進していくため、議第8号で南伊豆町町民参画及び協働の推進に関する条例を上程いたしましたので、ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君。

〔7番 清水清一君登壇〕

○7番（清水清一君） 個人情報の絡みがあるからということで難しいという話でございましたけれども、町民全体を対象にしたと、そういう形だったらできてくるのではないかなと考えますので、それはやってもいいかなと考えますので、検討していただくようお願いを申し上げて、これは終わりにさせていただきます。

次の質問にまいります。

先ほども、今の質問でも町長のミニ集会等でやっていきたいと言われておられました。ミニ集会のこれまでの回数、あるいはグループ名、人数あるいは場所はどのようなところで行われたのかと。それで、まちづくりに資するための提案、提言、内容等はどのようなものがあつたのかという形で、それでその後の取り組み等はどうかという形を聞きたいと思いますが。町報に、10月号から今月号までの5カ月間の分が出ていますけれども、それ以外のものもありましたら、ご報告等お願いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

私は、就任以来、町民の皆様のところへ直接出向いて、まちづくりに資するための提言、提案をお伺いするミニ集会を開催しております。

昨年6月29日の第1回から2月10日まで合計15回開催しており、参加人数は193人になりました。

ミニ集会を開催したグループは、毛倉野区、花の会、ジオガシ旅行団、移住者ママの会、ボランティアガイド協会など15団体であります。それと、提案、提言の内容等でございますが、伊豆縦貫自動車道のアクセス道路をつくったらどうか、健康福祉センターは高台へ建設して防災センターを併設したらどうか、消防団で大規模災害を想定した訓練をしたらどうか、地域で空き家を管理して貸し出してはどうか、タクシーにボランティアガイドを同乗させたらどうか、下賀茂商店街が空き店舗が多いので一定期間安く借りられるような仕組みを築いたらどうかなどたくさんありました。

提案、提言に対する取り組みについては、早急に処理すべき案件はすぐに担当課に指示し対応させますが、通常は、会議録を作成し、職員に周知し、担当課で対応策等を検討させ、毎月の庁議で報告をさせております。

なお、ミニ集会のグループ名や提案に対する対応策については、随時「広報みなみいず」に掲載して公表しております。今、議員が持っていたものでございます。そのようなことでございますので、よろしくお願ひ申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君。

〔7番 清水清一君登壇〕

○7番（清水清一君） これは、一生懸命やられているという形でわかります。その中で、職員は何名ぐらいついていって、書記をしなければいけないと思うんですけども、課長さん

あるいは職員、どんな方がついていくのか。

また、15回行ったということで、随時これからも町報等へ載せていくという話でございましたけれども、今、町報に出ているだけですと11組出ているんですけれども、あとの4組ぐらいはどういう会だったのかもお教えいただけたらと思います。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） ミニ集会は、企画課の若い職員が一人、私について記録をとってくださっております。そして、あと4回分ですか、4回分については課長から答弁させます。

○議長（稲葉勝男君） 企画調整課長。

○企画調整課長（谷 半時君） お答えいたします。

4回分、まず移住者ママの会までいっていますかね。そうしますと、そのあと南伊豆町ボランティアガイド協会、それから蛇石区さん、それから災害ボランティアコーディネーターの会、それから南伊豆パドルスポーツ振興会さん、あとそれ以外にも、また順次開催予定が入っております。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君。

〔7番 清水清一君登壇〕

○7番（清水清一君） あとは一生懸命やっただいて、いい町をつくっていただきたいと思いますが、これを見ますと、ミニ集会をお断りする場合もございますと書いてあるんですけれども、断ったことはないと思うんですが、一応断ったことはないと思うんですが、これも一応確認の意味で聞いておきます。

○議長（稲葉勝男君） 企画調整課長。

○企画調整課長（谷 半時君） お答えいたします。

断った方は今のところございません。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君。

〔7番 清水清一君登壇〕

○7番（清水清一君） そういう形で、いい町をつくっていただきたいと思うものですから、当局等の皆さんには頑張っただいて、よい町をつくっていただきたいと思います。

それでは、時間となりましたので、清水の一般質問を終わらせていただきます。

最後の3番がございましたか、質問。上記について幹部職員はどのように考え、どのようにしていくのか、またどのようにしているのか。すみません、飛ばしてしまいました。それについてご答弁をお願いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 総務課長。

○総務課長（山本信三君） ミニ集会は、町が進める町民参加型町政の推進における町民参画の方法として、有益な方法であると認識しております。

寄せられたご意見やご提案は、まさに現在の南伊豆町の課題や問題点を浮き彫りにしたものであり、真摯に取り組むことにより、施策・政策に反映させてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君。

〔7番 清水清一君登壇〕

○7番（清水清一君） 課長も一生懸命考えて答弁を考えたんだろうなと思います。その中でいい町をつくっていただきたいものですから、当局の皆さんも頑張っていただきたいと思えますし、議員のほうも、私どもも頑張ってまいりますので、よろしくをお願いいたします。

本日は、どうもありがとうございました。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君の質問を終わります。

◎散会宣告

○議長（稲葉勝男君） 本日の議事が終わりましたので、会議を閉じます。

本日はこれをもって散会します。

ご苦労さまでした。

散会 午後 4時09分

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

平成 年 月 日

議 長 稲 葉 勝 男

署 名 議 員 清 水 清 一

署 名 議 員 齋 藤 要

平成 26 年 3 月定例町議会

(第 2 日 2 月 26 日)

平成26年3月南伊豆町議会定例会

議事日程(第2号)

平成26年2月26日(水)午前9時30分開議

- 日程第 1 会議録署名議員の指名
- 日程第 2 議第 2号 南伊豆町一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例制定について
- 日程第 3 議第 3号 南伊豆町税賦課徴収条例の一部を改正する条例制定について
- 日程第 4 議第 4号 南伊豆町社会教育委員条例の一部を改正する条例制定について
- 日程第 5 議第 5号 南伊豆町漁業集落環境整備施設設置・管理条例の一部を改正する条例制定について
- 日程第 6 議第 6号 南伊豆町道路占用料等徴収条例の一部を改正する条例制定について
- 日程第 7 議第 7号 南伊豆町非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例制定について
- 日程第 8 議第 8号 南伊豆町町民参画及び協働の推進に関する条例制定について
- 日程第 9 議第 9号 南伊豆町石廊崎ジャングルパーク跡地利用計画審議会条例制定について
- 日程第10 議第10号 南伊豆町臨時的任用職員の給与等に関する条例制定について
- 日程第11 議第11号 南伊豆町文化財保護基金の設置及び管理に関する条例制定について
- 日程第12 議第12号 南伊豆町税外収入金の延滞金等徴収及び滞納処分に関する条例制定について
- 日程第13 議第13号 南伊豆町子ども・子育て会議条例制定について
- 日程第14 議第14号 指定管理者の指定について(湯の花観光交流館)
- 日程第15 議第15号 指定管理者の指定について(石廊崎コミュニティセンター)
- 日程第16 議第16号 指定管理者の指定について(加納生活新興センター)
- 日程第17 議第17号 指定管理者の指定について(一条多目的センター)
- 日程第18 議第18号 指定管理者の指定について(市之瀬高齢者活動促進センター)
- 日程第19 議第19号 指定管理者の指定について(下小野高齢者センター)

- 日程第20 議第20号 指定管理者の指定について（入間生活改善センター）
- 日程第21 議第21号 指定管理者の指定について（中木生活改善センター）
- 日程第22 議第22号 指定管理者の指定について（西子浦生活改善センター）
- 日程第23 議第23号 指定管理者の指定について（伊浜山村活性化センター）
- 日程第24 議第24号 指定管理者の指定について（上小野農産物集荷所）
- 日程第25 議第25号 指定管理者の指定について（入間集落排水施設）
- 日程第26 議第26号 指定管理者の指定について（子浦集落排水施設）
- 日程第27 議第27号 指定管理者の指定について（中木集落排水施設）
- 日程第28 議第28号 指定管理者の指定について（妻良集落排水施設）
- 日程第29 議第29号 指定管理者の指定について（中木水産飲雑用水施設）
- 日程第30 議第30号 指定管理者の指定について（妻良水産飲雑用水施設）
- 日程第31 議第31号 平成25年度南伊豆町一般会計補正予算（第5号）
- 日程第32 議第32号 平成25年度南伊豆町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）
- 日程第33 議第33号 平成25年度南伊豆町介護保険特別会計補正予算（第3号）
- 日程第34 議第34号 平成25年度南伊豆町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）
- 日程第35 議第35号 平成25年度南伊豆町南上財産区特別会計補正予算（第1号）
- 日程第36 議第36号 平成25年度南伊豆町公共下水道事業特別会計補正予算（第3号）
- 日程第37 議第37号 平成25年度南伊豆町子浦漁業集落排水事業特別会計補正予算（第2号）
- 日程第38 議第38号 平成25年度南伊豆町水道事業会計補正予算（第2号）
- 日程第39 議第39号 平成26年度南伊豆町一般会計予算
- 日程第40 議第40号 平成26年度南伊豆町国民健康保険特別会計予算
- 日程第41 議第41号 平成26年度南伊豆町介護保険特別会計予算
- 日程第42 議第42号 平成26年度南伊豆町後期高齢者医療特別会計予算
- 日程第43 議第43号 平成26年度南伊豆町南上財産区特別会計予算
- 日程第44 議第44号 平成26年度南伊豆町南崎財産区特別会計予算
- 日程第45 議第45号 平成26年度南伊豆町三坂財産区特別会計予算
- 日程第46 議第46号 平成26年度南伊豆町土地取得特別会計予算
- 日程第47 議第47号 平成26年度南伊豆町公共下水道事業特別会計予算
- 日程第48 議第48号 平成26年度南伊豆町子浦漁業集落排水事業特別会計予算

日程第49 議第49号 平成26年度南伊豆町中木漁業集落排水事業特別会計予算

日程第50 議第50号 平成26年度南伊豆町妻良漁業集落排水事業特別会計予算

日程第51 議第51号 平成26年度南伊豆町水道事業会計予算

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（10名）

1番	加 畑 毅 君	2番	宮 田 和 彦 君
3番	吉 川 映 治 君	4番	谷 正 君
5番	長 田 美喜彦 君	6番	稲 葉 勝 男 君
7番	清 水 清 一 君	9番	齋 藤 要 君
10番	渡 邊 嘉 郎 君	11番	横 嶋 隆 二 君

欠席議員（なし）

地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

町 長	梅 本 和 熙 君	副 町 長	松 本 恒 明 君
教 育 長	小 澤 義 一 君	総 務 課 長	山 本 信 三 君
防 災 室 長	大 年 美 文 君	企 画 調 整 課 長	谷 半 時 君
建 設 課 長	鈴 木 重 光 君	産 業 観 光 課 長	大 野 寛 君
町 民 課 長	小 嶋 孝 志 君	健 康 福 祉 課 長	黒 田 三 千 弥 君
教 育 委 員 会 長	勝 田 英 夫 君	上 下 水 道 課 長	橋 本 元 治 君
事 務 局 長	藤 原 富 雄 君	総 務 係 長	平 山 貴 広 君
会 計 管 理 者			

職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長 山 田 昌 平 主 幹 佐 藤 禎 明

開会 午前 9時30分

◎開議宣告

○議長（稲葉勝男君） おはようございます。

定刻になりました。ただいまの出席議員は10名です。定足数に達しております。

これより3月定例会本会議第2日目の会議を開きます。

◎会議録署名議員の指名

○議長（稲葉勝男君） 日程第1、会議録署名議員を指名します。

会議規則の定めるところにより、議長が指名します。

7番議員 清水 清 一 君

9番議員 齋 藤 要 君

◎資料の訂正

○議長（稲葉勝男君） ここで、資料の訂正をお願いいたします。

昨日配付しました平成26年3月南伊豆町議会定例会会期日程の4ページ、議第7号中、南伊豆町非常勤消防団員に係る退転報償金となっております。これを退職の「職」にしてください。「退職報償金」に訂正願います。「転」ぶが職業の「職」に変わるということです。

そして、報償の「償」、人偏に1等賞、2等賞の賞に変更していただきたいというふうに思います。よろしくをお願いいたします。

◎議第2号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） それでは、これより議案審議に入ります。

議第2号 南伊豆町一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例制定についてを議題とします。

提案説明を求めます。

町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 議第2号の提案理由を申し上げます。

本議案は、「新型インフルエンザ等対策特別措置法」の制定に伴い、新型インフルエンザ等緊急事態発生の際、各団体の要請に応じて国や地方公共団体から派遣された職員に対して支給する「新型インフルエンザ等緊急事態派遣手当」が創設されました。

あわせて同法附則により、地方自治法も改正され、地方公共団体が支給することができる手当として、同手当が追加されましたので、南伊豆町一般職の職員の給与に関する条例第15条の7に規定する災害派遣手当に同手当を追加するものであります。

ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 提案説明を終わります。

これより質疑に入ります。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 次に、原案に賛成者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第2号 南伊豆町一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例制定については、原案のとおり賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第2号議案は原案のとおり可決することに決定しました。

◎議第3号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） 議第3号 南伊豆町税賦課徴収条例の一部を改正する条例制定についてを議題とします。

提案説明を求めます。

町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 議第3号の提案理由を申し上げます。

本議案は、地方税法の一部を改正する法律（平成25年法律第3号）が平成25年3月30日に公布され、同法による改正のうち一部のものについて、地方税法施行令の一部を改正する政令（平成25年政令第173号）及び地方税法施行規則の一部を改正する省令（平成25年総務省令第66号）が平成25年6月12日に公布されたことに伴い、南伊豆町税賦課徴収条例の一部を改正する必要があるため提案するものであります。

内容につきましては町民課長から説明させますので、ご審議のほど、よろしく願い申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 提案説明を終わります。

内容説明を求めます。

町民課長。

○町民課長（小嶋孝志君） それでは、議第3号 南伊豆町税賦課徴収条例の一部を改正する条例に関するご説明を申し上げます。

地方税法の一部を改正する法律が平成25年3月30日に公布され、地方税法施行令の一部を改正する政令及び地方税法施行規則の一部を改正する省令が平成25年6月12日に公布されたことに伴い、南伊豆町税賦課徴収条例を改正するものです。

お手元の議第3号及び新旧対照表をご覧ください。

新旧対照表は左側が改正後、右側が改正前で、アンダーラインの部分が今回の改正される

ところであります。

それでは、新旧対照表により主なものについてご説明させていただきます。

第4条は、地方税法改正により、税務手続の明確化を図るため、全ての処分に対し理由の記載を義務づけるものです。47条の2、賦課期日後に他の市町村へ転出した場合でも個人住民税の個人年金から特別徴収を継続するものです。

第47条の5、年間の特別徴収を平準化させるために、仮徴収税額、4月、6月、8月を前年度特別徴収税額の2分の1にするものです。

附則第16条の3は、上場株式に係る配当所得の分離課税について、特定公社債の利子が損益通算の範囲に追加されたことに伴う規定の整備であります。

附則第19条及び附則第19条の2は、株式に係る譲渡所得の分離課税と非課税上場株式に係る譲渡所得の分離課税に区分されたことに伴う整備であります。

附則第20条の2は、特定公社債の利子、譲渡益が条約適用配当に係る分離課税の対象に追加されたことに伴う規定の整備であります。

その他、地方税法の改正に伴う条項の削除及び関連規定の条項のずれの修正であります。

附則第1条につきましては、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定める日から施行するもので、第1号、第4条第1項の改正規定は公布の日から、第2号、次条第1項の規定は平成28年1月1日から施行するものです。第3号、47条に第1項及び47条の5、第1項の改正規定並びに次条第2項の規定は、平成28年10月1日から施行するものです。第4号、附則第6条、第6条の2、第7条の4、第16条の3及び第19条から第20条の5までの改正規定並びに次条第3項の規定は、平成29年1月1日から施行するものです。

次に、経過措置でございますが、第2条第1項、平成28年1月1日前に発行された旧租税特別措置法第41条の12、第7項に規定する割引債について、支払いを受けるべき同条第7項の規定する償還差益に対して課する個人の住民税については、なお従前の例による。

第2項、この条例による改正後の南伊豆町税賦課徴収条例（以下、新条例という。）第47条2及び47条の5の規定は、平成28年10月1日以後の地方税法第317条の2、第1項に規定する公的年金（以下、この項において公的年金という。）に係る所得に係る個人の町民税の特別徴収について適用し、同日前の公的年金に係る所得に係る個人の町民税の特別徴収については、なお従前の例による。

第3項、新条例附則第7条の4、第16条の3及び19条から第20の2までの規定の中、個人の町民税に係る部分は、平成29年度以後の年度分の個人の町民税について適用し、平成28年

度までの個人の住民税については、なお従前の例による。

以上、雑駁な説明でございますが、今回の改正内容でございます。よろしくご審議お願いします。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

清水清一君。

○7番（清水清一君） 7番、清水。

この説明書の19条のところとか、あるいは説明書の一番最後でございます9のほうの20条の5、これを読みますと、確定申告は何かといろいろ書いてあるんですけども、この確定申告とこれの絡みはどうなっていくのか。読みますと、19条のほうには確定申告をしなくてもいいとか、あるいは書いてあるんですけども、また保険料の、一番最後の20条の5というのは社会保険料とみなさないという形の文章等が書いてあるものですから、となると確定申告の絡みがどうなっていくのか、難しいと思うものですから、一応どうですかね。

○議長（稲葉勝男君） 町民課長。

○町民課長（小嶋孝志君） 分離課税ということについては、確定申告してもいいですし、総合課税で申告してもいいですし、分離課税でそのまま申告しなくてもいいというような状態でございます。

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 次に、原案に賛成者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第3号 南伊豆町税賦課徴収条例の一部を改正する条例制定については、原案のとおり

賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第3号議案は原案のとおり可決することに決定しました。

◎議第4号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） 議第4号 南伊豆町社会教育委員条例の一部を改正する条例制定についてを議題とします。

提案説明を求めます。

町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 議第4号の提案理由を申し上げます。

本議案は、地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律（平成25年法律第44号）の一部施行に伴い、社会教育法第15条の改正及び社会教育法第18条の規定に基づき、社会教育委員会の委嘱の基準を条例で定めるに当たって参酌すべき基準を定めることとされたため、社会教育委員会条例の一部を改正するものです。

内容につきましては、教育委員会事務局長に説明させますので、ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 提案説明を終わります。

内容説明を求めます。

教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（勝田英夫君） 内容説明をいたします。

南伊豆町社会教育委員条例の一部を次のように改正するものです。

第2条第1項についてです。

現行は、委員の定数は14名以内ととなっておりますが、今回、委員の定数は14名以内とし、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する行動を行う者並びに学識経験のある者の中から委嘱することとするに改正するものです。

ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

質疑ありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 次に、原案に賛成者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第4号 南伊豆町社会教育委員条例の一部を改正する条例制定について、原案のとおり賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 賛成です。

よって、議第4号議案は原案のとおり可決することに決定しました。

◎議第5号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） 議第5号 南伊豆町漁業集落環境整備施設設置・管理条例の一部を改正する条例制定についてを議題とします。

提案説明を求めます。

町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 議第5号の提案理由を申し上げます。

本議案は、子浦集落排水施設の指定管理者であります同管理組合からの要請に基づき、南伊豆町漁業集落環境整備施設設置・管理条例第6条別表に定める子浦集落排水施設の基本使

用料を改正するものです。

内容につきましては、上下水道課長から説明させますので、ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 提案説明を終わります。

内容説明を求めます。

上下水道課長。

○上下水道課長（橋本元治君） それでは、議第5号につきましてご説明をさせていただきます。

本条例につきましては、入間、子浦、中木、妻良地区における集落排水施設等に係ります円滑な管理運営に関する基本的事項を定めたものでございます。また、地域住民の生活環境及び生活改善の向上に資することを目的としておりまして、昭和61年12月に制定され、妻良集落排水施設及び水産飲雑用施設の完成に伴い、平成20年12月に条例改正されております。

今回の改正につきましては、子浦集落排水施設の管理に伴う基本使用料の改定をお願いするものでございます。同施設につきましては、平成8年4月の供用開始以来、既に18年が経過いたしまして、平成25年度において大規模改修に係ります機能保全計画の策定に着手をさせていただきました。平成26年度には地区管理組合との協議を行い、平成27年度に実施設計を経て、平成28年度以降に改修工事を予定しているところでございます。また、このような大規模改修事業につきましては、地区組合からのご負担もお願いをするため、管理組合では自主的な資金確保に努めているところでございます。

このような中で、ここ二、三年でございますが、施設の維持管理経費を施設使用料で賄えない状況が続いておりまして、組合では資金を取り崩す状況になっております。この要因といたしましては、民宿等宿泊施設の減少、夏期誘客の低迷による流動人口の激減、また過疎化、高齢化等による処理量の減少が明らかでありまして、組合財政の健全化が喫緊の課題となっております。

このため、施設組合員が一同に会しまして協議を重ねた中で、基本使用料を営業用、一般用それぞれ400円増額することが決議をされ、これを受けて管理組合より本年1月10日付で利用料金の改定に係る要望書が町長に提出されたところでございます。

以上が本議案に係ります条例改定に至った経緯でございます。

お手元に配付いたしました新旧対照表のほうをご覧いただきたいと思っております。

条例第6条で定める使用料について別表でお示ししているものでございますが、子浦集落

排水施設の基本使用料について営業用に使用するものの額を1,600円から2,000円に、一般家庭用に使用するものの額を800円から1,200円にそれぞれ400円増額するものでございます。

この改定により、単純計算ではございますが、平成24年度対比でおよそ120万円ほど増額されることになりまして、組合財政の安定化に寄与するものと思慮するものでございます。

ご説明につきましては以上でございます。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

清水清一君。

○7番（清水清一君） 7番、清水。

この説明資料をいただき、大変わかりやすくいいんですけれども、一応確認だけさせていただきたいなど。この金額に、消費税の4月1日から8%の金額が乗るというふうに解釈して、たしか12月条例でやったんですけれども、そういうふうに消費税がつくという形を解釈してよろしいんでしょうか。

○議長（稲葉勝男君） 上下水道課長。

○上下水道課長（橋本元治君） この集落排水施設につきましては、考え方としては、それぞれ月々にかかる管理費用についてそれぞれの組合員の皆様からの費用をいただくのは積み立てというような考え方です。ですから、通常の公共料金が当然4月から8%ということになりますが、この場合には消費税の対象になるものではございませんので、消費税は元々課税されておりません。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君。

○7番（清水清一君） となりますと、基本使用料については消費税の対象にならないけれども、使用の程度に応じた使用料については消費税の対象になるのかならないのか、消費税の、どちらなのかお伺いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 上下水道課長。

○上下水道課長（橋本元治君） 基本使用料、それから通常の利用料金、例えばトン数によって、当然これは両方、先ほど申し上げましたように、性格が、通常の水道料金であるとか、あるいは公共下水道料金というものとはちょっと考え方とは違いますので、これは消費税の対象ということではございません。

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 次に、原案に賛成者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第5号 南伊豆町漁業集落環境整備施設設置・管理条例の一部を改正する条例制定については、原案のとおり賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第5号議案は原案のとおり可決することに決定しました。

◎議第6号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） 議第6号 南伊豆町道路占用料等徴収条例の一部を改正する条例制定についてを議題とします。

提案説明を求めます。

町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 議第6号の提案理由を申し上げます。

本議案は、道路占用料を徴収する物件に関して、道路法施行令第7条、「道路の構造又は交通に支障を及ぼすおそれのある工作物」等の項目にある太陽光発電設備、風力発電設備及び津波避難機能を有する施設を、南伊豆町道路占用料対象物件として追加するために条例を改正するものです。

料金については、静岡県道路占用料等徴収条例を参考に決定しております。

ご審議のほど、よろしく願い申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 提案説明を終わります。

これより質疑に入ります。

谷正君。

○4番（谷 正君） 今回の占用条例については第7条の関係で、今、町長の提案理由のものが主だと思うんですが、ここの新旧対照表の中に、令第7条第1号に掲げる物件という形の中で、旗ざおという占用物件がありまして、祭礼、縁日、その他の催しに際し一時的に設けるものということが1本につき1日16円という形になりますが、これは主には地域の祭礼の占用だと思うんですが、現実的にこれが祭礼で占用の対象となる地域があるのかなのかということをちょっと1つお伺いします。

○議長（稲葉勝男君） 建設課長。

○建設課長（鈴木重光君） お答えいたします。

現実にそれを今徴収している事例はございません。

○議長（稲葉勝男君） 谷正君。

○4番（谷 正君） そうした場合、これ1日に16円、1本。普通旗ざおというのは最小限で2本で、地域によっては2カ所、3カ所で4本とか6本とかということがありますが、それでも1日100円とかということになるんですが、そうしますと、地域の方の申請の労力とこちらの担当の職員の労力等を比較した場合、これはこの条例そのものを削って、無料という考えができないのか、これは今回の直接には関係ないのですが、その関係をちょっと検討していただきたいということでちょっと答弁をお願いします。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

○町長（梅本和熙君） お答えいたします。

議員のおっしゃることももっともですけれども、税の公平性とかそういうことを考えたときにやはり公共物を使用するということで徴収するということは必要かなと、このように思います。

○議長（稲葉勝男君） 谷正君。

○4番（谷 正君） いわゆる個人の使用ではないわけですよね。地域の祭事という、町長なり私なりは個人でその旗ざおを立ててあれをするということではないわけですよね。そういうものについても、いわゆる今までどおりという考えをとるということでよろしいですか。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

○町長（梅本和熙君） 今、議員がおっしゃるように、公共的というかそういう形で使われる
ということはわかるんですけども、やっぱり宗教の用に窮するという部分を考えた場合に、
公共というか行政がそこへかかわっていくということは、これはちょっとまずいんじゃない
かなと考えます。

○議長（稲葉勝男君） 谷正君。

○4番（谷 正君） ちょっと今回の場合とは外れるものですから、また別の機会にそれは
質問させていただきます。

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議あ
りませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 次に、原案に賛成者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第6号 南伊豆町道路占用料等徴収条例の一部を改正する条例制定については、原案の
とおり賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第6号議案は原案のとおり可決することに決定しました。

◎議第7号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） 議第7号 南伊豆町非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する
条例の一部を改正する条例制定を議題といたします。

提案説明を求めます。

町長。

[町長 梅本和熙君登壇]

○町長（梅本和熙君） 議第7号の提案理由を申し上げます。

本議案は、消防団の処遇改善の一環といたしまして、消防団員等公務災害補償等責任共済等に関する法律施行令の一部を改正する政令が、平成26年3月上旬公布、同年4月1日に施行予定となっております。この政令改正予定を受けまして、本町の非常勤消防団に係る退職報償金の支給基準額を改定するものであります。

内容につきましては防災室長から説明させますので、ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 提案説明を終わります。

内容説明を求めます。

防災室長。

○防災室長（大年美文君） それでは、内容説明をさせていただきます。

お手元の添付資料の新旧対照表18枚目をご覧ください。

ここに新旧対照表がございます。今回、消防庁の通達により一律5万円の増額ということになっています。一部5万円を超える階級もございます。これにつきましては、消防団員のひとえにご労苦に対する処遇改善の一環と認識しております。ご審議のほど、よろしくどうぞお願いいたします。

以上でございます。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

[発言する人なし]

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

[「異議なし」と言う人あり]

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許可します。

[発言する人なし]

○議長（稲葉勝男君） 次に、原案に賛成者の発言を許可します。

[発言する人なし]

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第7号 南伊豆町非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例制定については、原案のとおり賛成の諸君の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第7号議案は原案のとおり可決することに決定しました。

◎議第8号の上程、説明、質疑、委員会付託

○議長（稲葉勝男君） 議第8号 南伊豆町町民参画及び協働の推進に関する条例制定についてを議題とします。

提案説明を求めます。

町長。

[町長 梅本和熙君登壇]

○町長（梅本和熙君） 議第8号の提案理由を申し上げます。

本議案は、町が進める「町民の町民による町民のための政治」、すなわち町民参加型町政推進のための基本指針を定めるものです。

これまで町は、総合計画、定住促進、ジャングルパーク跡地利用計画等、町民生活に大きな影響を及ぼす計画等を策定する際には、個別の案件ごとに、規則や要綱等を策定し、審議会、協議会、ワークショップ等を設置し、アンケート調査、パブリックコメント等を実施してまいりました。

今後、本議案の制定により、統一的な基本指針を定め、町と町民の役割分担を明確にし、町民の自発的意思に基づく行政への参加機運や町職員の自覚と気概を醸成し、さらなる町民参加型町政の実現を推進していくため、地方自治法第96条1項第1号の規定により議会の議決を求めるものです。

内容につきましては企画調整課長から説明させますので、ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 提案説明を終わります。

内容説明を求めます。

企画調整課長。

○企画調整課長（谷 半時君） それでは、議第8号について主な条項の内容説明を申し上げます。

第1条は、本条例の目的として町民参画を推進するための基本的な事項を定め、町民と町が協働による住みよい町をつくるということを定めたものです。

第2条は、本条例で使用する用語の定義を定めたものです。

第3条は、町民参画及び協働の推進を図る上での基本原則として、自立、対等、相互理解及び協力、情報の提供及び共有、評価と説明の5つの原則を定めたものです。

第4条は、町民参画及び協働を推進するための町の責務として、町民に対する啓発、情報の積極的な公開及び町民が容易に町政に参画し、協働を推進できるよう創意工夫を行うことを定めたものです。

第5条は、町民参画及び協働を推進する上での町民の責務として、町民は協働の精神のもとで公共の利益を図ることを基本として、積極的な協働に努めることを定めたものです。

第6条は、町民参画の手続の対象となる施策として、基本構想、基本計画、その他重要な条例と町民生活に重大な影響を及ぼす計画や制度の導入等を定めたものです。

第7条は、町民参画の手続として、審議会等の活用、町民提案の活用、ワークショップの開催、意見交換会の活用、パブリックコメントの活用、その他町長が適当と認める協議会、公聴会等の活用の6項目を定めたものです。

第8条以降につきましては、第7条の町民参画の手続等に関する所要事項について定めたものであります。

以上、ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

[発言する人なし]

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

本議案を第1常任委員会に付託したいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、議第8号議案は第1常任委員会に付託することに決定しました。

◎議第9号の上程、説明、質疑、委員会付託

○議長（稲葉勝男君） 議第9号 南伊豆町石廊崎ジャングルパーク跡地利用計画審議会条例制定についてを議題といたします。

提案説明を求めます。

町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 議第9号の提案理由を申し上げます。

本議案は、町が平成25年9月24日に取得した石廊崎ジャングルパーク跡地の利用計画策定に関する重要事項を調査・審議し、町長の諮問に対して答申していただく地方自治法第138条の4、第3項の規定による附属機関に関する必要な事項を定めるため、地方自治法96条1項1号の規定により議会の議決を求めるものです。

内容につきましては企画調整課長から説明させますので、ご審議のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 提案説明を終わります。

内容説明を求めます。

企画調整課長。

○企画調整課長（谷 半時君） それでは、議第9号について主な条項の内容説明を申し上げます。

第1条は、この条例の目的として、南伊豆町石廊崎ジャングルパーク跡地利用計画審議会に関する組織、その他必要な事項を定めることを定めたものです。

第2条は、審議会の役割として、南伊豆町石廊崎ジャングルパーク跡地利用計画策定に関する重要事項を調査・審議し、町長の諮問に答申するということを定めたものです。

第3条は、審議会の組織として、町議会の議員、公共的団体の役員、学識経験を有する者、その他町長が必要と認めた者のうちから20人以内の委員を町長が委嘱するということを定めたものです。

第4条から第7条までは、審議会の運営に関する所要事項を定めたものであります。

第8条は、必要があると認める場合は部会を設けることができるということを定めたものです。

第9条以降につきましては、部会及び事務局等に関する所要事項を定めたものであります。

以上、ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

本議案を第1常任委員会に付託したいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、議第9号議案は第1常任委員会に付託することに決定しました。

◎議第10号の上げ、説明、質疑、委員会付託

○議長（稲葉勝男君） 議第10号 南伊豆町臨時的任用職員の給与等に関する条例制定についてを議題とします。

提案説明を求めます。

町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 議第10号の提案理由を申し上げます。

本議案は、現在、臨時的任用職員に関する運用の取り扱いについては、臨時的任用職員の身分等取り扱い要綱（平成7年3月31日要綱第14号）により定められていますが、地方自治法第204条3項の規定に基づき、臨時的任用職員に支給する賃金等の金額及び支給方法を規定するものです。

内容につきましては総務課長より説明させますので、ご審議のほど、よろしく願い申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 提案説明を終わります。

内容説明を求めます。

総務課長。

○総務課長（山本信三君） それでは、議第10号の説明を申し上げます。

町長が言われましたように、現在、臨時任用職員に関する運用の取り扱いについては、平成7年3月31日要綱第14号により定められ、それを使用しているところであります。地方自治法204条の規定に基づき、臨時的任用職員に支給する賃金の金額及び支給方法等を条例で定めるということになっております。そのために今回条例として上げたものであります。

臨時任用職員に支給する給与等は、基本賃金、割増賃金、特別賃金、通勤手当相当賃金及び旅費であります。基本賃金、割増賃金及び通勤手当相当賃金の計算等、月の初日から末日までと、そういうものを規定したものでございます。

ご審議のほど、よろしく願いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

本議案を第1常任委員会に付託したいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、議第10号議案は第1常任委員会に付託することに決定しました。

◎議第11号の上程、説明、質疑、委員会付託

○議長（稲葉勝男君） 議第11号 南伊豆町文化財保護基金の設置及び管理に関する条例制定
についてを議題とします。

提案説明を求めます。

町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 議第11号の提案理由を申し上げます。

本議案は、南伊豆町内の国及び県の指定文化財が既にありますが、町指定文化財はなく、平成22年度から町史編さん事業の中で調査してまいりました。

その結果、寺院関係仏像約900点及び仏画約120点関係の調査が終了し、町文化財の指定に
随時入る予定です。さらに、ほかにも文化財と称するものが町内には点在している状況を踏
まえ、今後、指定文化財がふえていくものと思われます。古い文化財は補修が常に伴い、さ
らに修理費は高額なものとなると思われます。

これら、文化財の保護に要する資金に充てるため、南伊豆町文化財保護基金の設置及び管
理に関する条例を制定するものです。

内容につきましては、教育委員会事務局長から説明させますので、ご審議のほど、よろし
くお願い申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 提案説明を終わります。

内容説明を求めます。

教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（勝田英夫君） 内容説明をいたします。

第1条は、設置についてです。南伊豆町の区域内に扮する文化財の保護に要する資金に充
てるため、南伊豆町文化財保護基金を設置するものでございます。

第2条は、積立金についてです。基金への積立金は寄附金及び予算で定める額とするとい
たします。

第3条は、管理についてです。基金に属する現金は、金融機関への預金、その他最も確実かつ有効な方法により保管しなければならないとするものでございます。

第4条は、運用益金の処理についてです。

第5条は、繰替運用についてです。

第6条は、委任についてです。

簡単ですが、以上です。ご審議のほど、よろしく申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

本案を第1常任委員会に付託したいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、議第11号議案は第1常任委員会に付託することに決定しました。

◎議第12号の上程、説明、質疑、委員会付託

○議長（稲葉勝男君） 議第12号 南伊豆町税外収入金の延滞金等徴収及び滞納処分に関する条例制定についてを議題とします。

提案説明を求めます。

町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 議第12号の提案理由を説明申し上げます。

本議案は、現在、当町では税外収入について、延滞金等の徴収及び滞納処分について、統一的な条例が未整備であるため、誠実に債務を履行している方との不公平感がありました。

そこで、地方自治法第231条の3の規定に基づき、町が徴収する税外収入の延滞金等の滞納処分について条例化し、期限内納付の促進と納付者間の不公平感の解消を目的とするものであります。

内容につきましては総務課長に説明させますので、ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 提案説明を終わります。

内容説明を求めます。

総務課長。

○総務課長（山本信三君） それでは、議第12号の説明を申し上げます。

現在、税外収入については延滞金等徴収及び滞納処分について統一的な条例が未整備でありました。そこで、地方自治法231条の3の規定に基づき、町が徴収する税外収入の延滞金及び滞納処分について条例化するものであります。

この条例は、町が徴収する分担金、使用料、加入金、手数料、過料、その他歳入の督促手数料及び延滞金の徴収並びに滞納処分について必要な事項を定めるものであります。これを定めることによりまして、地方税の滞納処分の令により処分することができるものであります。

以上、説明を終わらせていただきます。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

本案を第1常任委員会に付託したいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、議第12号議案は第1常任委員会に付託することに決定しました。

◎議第13号の上程、説明、質疑、委員会付託

○議長（稲葉勝男君） 議第13号 南伊豆町子ども・子育て会議条例制定についてを議題とします。

提案説明を求めます。

町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 議第13号の提案理由を申し上げます。

本議案は、平成24年8月10日に「子ども・子育て支援法」（平成24年法律第65号）が成立し、市町村は、子ども及びその保護者に必要な子ども・子育て支援給付及び地域子ども・子育て支援事業を総合的かつ計画的に行うこととされています。

これを受けて、町では南伊豆町「子ども・子育て会議」を設置し、南伊豆町子ども・子育て支援事業計画の策定、子ども・子育てに関する施策の総合的かつ計画的な推進のための調査審議、答申等を行うものです。

内容につきましては健康福祉課長から説明させていただきますので、ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 提案説明を終わります。

内容説明を求めます。

健康福祉課長。

○健康福祉課長（黒田三千弥君） 内容説明をさせていただきます。

各条の要旨についてご説明をさせていただきます。

第1条につきましては、会議の設置をする根拠の根拠法令を明らかにしたものでございます。

第2条につきましては、子ども・子育て会議の所掌事務について定めるものでございます。

第3条におきましては、子ども・子育て会議の委員について定めるものでございます。

第4条につきましては、子ども・子育て会議の委員の任期について定めるものでございます。

第5条から第7条につきましては、会議の進行等を規定するものでございます。

第8条につきましては、条例の施行に関し必要な事項について委任の規定を定めたもので

ございます。

簡単ではございますが、説明にかえさせていただきます。ご審議のほど、どうぞよろしく
お願いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議あり
ませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

本案を第1常任委員会に付託したいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、議第13号議案は第1常任委員会に付託することに決定しました。

◎議第14号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） 議第14号 指定管理者の指定について（湯の花観光交流館）を議題と
します。

提案説明を求めます。

町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 議第14号の提案理由を申し上げます。

湯の花観光交流館につきましては、「湯の花観光交流館の設置及び管理に関する条例」に
基づき、平成21年2月1日から指定管理による運営を行っているところであります。

本議案は、次年度以降の指定管理者の選定につきましては、平成26年2月7日南伊豆町公
の施設指定管理者選定委員会からの報告により、「南伊豆町公の施設に係る指定管理者の指
定の手続に関する条例」第5条の規定に基づき、公募によらない指定管理者の候補者として、

南伊豆町観光協会を選定し、指定期間を3年間とするものです。

内容につきましては産業観光課長から説明させますので、ご審議のほど、よろしくお願ひします。

○議長（稲葉勝男君） 提案説明を終わります。

内容説明を求めます。

産業観光課長。

○産業観光課長（大野 寛君） 議第14号につきましてご説明をいたします。

本議案につきましては、さきに行われました全員協議会でもご説明させていただきましたが、平成21年2月1日より南伊豆町観光協会を指定管理者として湯の花交流館を運営してまいりました。そうした中、指定管理期間の3年が平成24年3月31日で切れておりましたが、当時平成20年12月定例議会において議会の承認を受ける際に、基本協定書につきましてもご審議いただいた経緯がありましたことから、当然基本協定書につきましても議会の承認を得たものと認識し、基本協定書の第5条により1年ほどの延長をしておりましたが、今年度、県の指導により指定管理期間終了と同時に議会の承認を受けなければならないことが判明いたしましたので、再度ご承認をいただくものであります。

選定に当たりましては、収益目的ではなく観光案内・交流という目的をとった施設であること、観光や交流情報の一元化等の目的を達成する施設であること、また観光案内や交流に精通した団体を指定する必要があることなどを考慮し、「南伊豆町公の施設等に係る指定管理者の指定の手続に関する条例」第5条の規定により、公募によらない指定管理者の選定としまして、次年度以降も湯の花観光交流館の指定管理者として南伊豆町観光協会を指定していただきたくご承認をお願いするものであります。

ご審議のほど、よろしくお願ひいたします。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

加畑毅君。

○1番（加畑 毅君） 1番、加畑です。

今、説明を受けまして、観光協会にもう一度ということなんですけれども、これ指定の期間が24年で切れていたというところがありますけれども、今回そこが、僕が聞きたいポイントではなくて、観光協会という団体がきちんとその施設運営をできているのかなというところをどう考えているのかと。これは湯の花売店のことも含めてお聞きしたいと思います。い

かがでしょうか。

○議長（稲葉勝男君） 産業観光課長。

○産業観光課長（大野 寛君） 指定管理者として観光協会にお願いをしてまいりました。

指定管理料等をお支払いする際に、委託ですので最後には決算内容等を審査しております。そうした中の判断でしかありませんけれども、一応運営に当たっては誠意を持って運営していただいているというふうに認識はしております。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 加畑毅君。

○1番（加畑 毅君） この指定管理に関して、町のほうから指定管理のお金を出しているということもありますし、観光協会の運営に関しても公金が投入されているという事実があります。その中で、できれば観光協会のほうは自前で運営できるような団体になっていただきたいということが当局としても議会としても望まれていると思うんですけれども、併設する施設、湯の花売店の、そこの観光協会の関係なんですけれども、実際に公金を投入して運営されている観光協会が、その先にいる、たな子である湯の花売店のほうから家賃を相当額、僕はもらえていないんじゃないかなというところがあるんです。

実際、新聞発表で毎年湯の花販売所の売り上げが上がっています。これは素晴らしいこととして、そのシステムも素晴らしいと思います。運営しているNPOもすごいなど、これは素晴らしいと思うんですけれども、ただ平成17年開設当時4,100万円だった売り上げが平成24年に2億円を突破しましたということが新聞で出ております。当時から5倍の売り上げを計上しているわけですね。

設定当初は、お願いしている当初は、どういう方向になるかわからないから安い賃料でいいよということで許していた部分があると思うんですけれども、実は賃貸契約ということになりますと、別に施設に関して修繕をする必要もないわけですし、持ち主としての所有者が修繕するわけですね。それに対して賃料を設定して、その中から修繕費積立金を取っていくわけです。そういう契約が賃貸契約だと思うんですけれども、実際、通常民間の感覚からいくと、一般の売り上げ掛ける営業日掛ける1年間、12カ月で相応額が出ます。実際ここから賃料をはじくんですけれども、年間の売上総額の3%程度というのが年間の賃料になるかと、という計算が私の中ではあるんですけれども、実際今の状況でいきますと、年間60万円の賃料ですね。それに対して年間2億円超えているということは、計算すると0.3%、丸の数が1つ違うと、それに対して何も言えない観光協会、これが指定管理者として足りているんだ

ろうかという疑問が残るんですけれども、いかがでしょうか。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

○町長（梅本和熙君） 議員のご指摘はもっともだと思います。私も議員当時同じような意見を述べたことがございます。

それで、賃料に関しましては30万円から60万円へ昨年上げたばかりでございます。今後もいろいろな情勢を考えながら、社会通念によって許容される、許される、そういう額を今後考えていきたいと思っております、町としては。そういう形の中で、指定管理者のほうへ指導を町からしていくというか、要請をしていくことを考えていきたいなど、このように思っております。

○議長（稲葉勝男君） 加畑毅君。

○1番（加畑 毅君） 私も最終的な結論としては観光協会にやっていただきたいというのは、思いは同じです。あの場所にあるわけですし、公的な機関としてはやはり一番、最適なんじゃないかなと思っております。

ただ、町長の方針であります自前できちんと運営してほしいということがあって、ことしから駐車場も有料化していることがあるわけですよ。だとしたら、指定管理者となるべき団体は、きちんとそこから収益を上げるべきところは上げなければいけない。要するに、その先にいるNPOのほうの内容が、例えばきつい状況の中で、売り上げがあってもこれは利益が出ていないんだと、だから家賃は上げないでくれというのはわかります。ところが、ここはNPO団体でありますから、公に財政状況が公開されていますよね。内部留保金は増えるわ、理事報酬は増えるわ、で家賃は入れないと。これに対して何にも言えないというところが今の観光協会の弱いところじゃないかなと思うんです。

イベントに関してはすごく一生懸命やっていることはわかっております。私も商工会青年部としてかかわっておりますので。ただ、その部分に関しては、きちんともう1回態勢を立て直すなり、今までのままじゃいけないというところはきちんと当局が言えるのであればいいんですけれども、観光協会が指定管理者になって、その先のことは観光協会以外には何も言えないよと、議会も何も言えないよというんであると、ちょっとここにはひずみが出るんだろうなということは感じております。健全な状況を保つためにもきちんともう1回観光協会のほうにも物を申せる、観光協会もその先にいる団体に物を申せるという態勢をつくっていただければと思っております。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

○町長（梅本和熙君） 議員のおっしゃるとおりで、公の施設、公金が投入されております。

そういうことを考えたときに、NPOというのはやはり公益的な団体だと思います。そういうことも勘案しながら、やはり社会通念で許されるべき賃料というのがあろうかと思います。今、実際60万円というのは、あれだけの規模の施設を使って60万円というのは通常、社会通念から考えたら安いなど、これは私も思います。そういうことを含めまして、今後、指定管理者に対し町からいろいろと指導というか、お互いの話し合いの中でもう少し上げるべきではないかという話をしていきたい。このように思っております。

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 次に、原案に賛成者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第14号 指定管理者の指定について（湯の花観光交流館）は、原案のとおり賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第14号議案は原案のとおり可決することに決定しました。

ここで10時40分まで休憩します。

休憩 午前10時33分

再開 午前10時40分

○議長（稲葉勝男君） 休憩を閉じ、会議を再開いたします。

◎議第15号～議第24号の一括上程、説明、質疑、委員会付託

○議長（稲葉勝男君） 議第15号 指定管理者の指定について（石廊崎コミュニティセンター）、議第16号 指定管理者の指定について（加納生活新興センター）、議第17号 指定管理者の指定について（一条多目的センター）、議第18号 指定管理者の指定について（市之瀬高齢者活動促進センター）、議第19号 指定管理者の指定について（下小野高齢者センター）、議第20号 指定管理者の指定について（入間生活改善センター）、議第21号 指定管理者の指定について（中木生活改善センター）、議第22号 指定管理者の指定について（西子浦生活改善センター）、議第23号 指定管理者の指定について（伊浜山村活性化センター）及び議第24号 指定管理者の指定について（上小野農産物集荷所）を一括議題とします。
提案説明を求めます。

町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 議第15号、議第16号、議第17号、議第18号、議第19号、議第20号、議第21号、議第22号、議第23号、議第24号の提案理由を申し上げます。

本議案は、南伊豆町の公の施設に係る指定管理者の指定の手續に関する条例第5条に基づき、石廊崎、加納、一条、市之瀬、下小野、入間、中木、西子浦、伊浜及び上小野地区の集会所施設に係る指定管理者の指定をお願いするものです。

指定管理者の選定については、同条例に基づき設置した「南伊豆町公の施設指定管理者選定委員会」からの報告を受け、第5条の定めに従い、当該地区に必要不可欠な施設であるため、公募によらずに指定管理者の選定とし、各地区区長様を指定管理者として選定し、指定期間を10年間とするものです。

内容につきましては産業観光課長から説明させますので、ご審議のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 提案説明を終わります。

内容説明を求めます。

産業観光課長。

○産業観光課長（大野 寛君） 第15号から第24号につきましてご説明をいたします。

本議案は、石廊崎、加納、一条、市之瀬、下小野、上小野、入間、中木、西子浦及び伊浜地区の集会所施設に係る指定管理者の指定をお願いするものであります。この案件につきましてもさきに行われました全員協議会でご説明させていただいたとおり、協定書の第2条により1年ごとの延長をしておりましたが、今年度、県の指導によりまして、継続ではなく指定期間終了と同時に議会の承認を再度受けなければならないことが判明いたしましたので、再度ご承認をいただくことになりました。

選定に当たりましては、南伊豆町公の施設に係る指定管理者の指定の手続等に関する条例第5条の規定により、10施設とも当該区内に設置された施設であり、地域の住民の皆様に密着した施設であること、また施設の維持・補修については当該区において実施していることなどを考慮し、公募によらない指定管理者の選定としまして、各地区区長様を指定管理者として選定し、あわせて指定期間を10年とするものであります。

ご審議のほど、よろしく願いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

なお、議番号を述べ、質疑をお願いいたしたいと思えます。

清水清一君。

○7番（清水清一君） 7番、清水。

今、議案書等をいただきましたけれども、協定書についての説明をお願いいたします。

これは全部のやつなんですけれども、今、説明書を読んでも石廊崎のものしかないんですけれども、言葉を言いかえるとか、可能なやつはこの一条のところ、石廊崎の書類を切りかえるとかという形で言ってもらわないと、ちょっと、この石廊崎の協定書しかないもんですからちょっとおかしいかなと、議案としてはおかしいのではないかなと、表書きだけはあるんですけれども、ちょっと協定書を全部一緒だというふうに言っていたら助かるんですけれども、いかがでしょうか。

○議長（稲葉勝男君） 産業観光課長。

○産業観光課長（大野 寛君） 協定書の内容につきましては10施設とも内容的には同じでございます。場所、区長名等が変わるだけでございます。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

これより討論に入ります。

なお、議番号を述べ討論願います。

まず、原案に反対者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 次に、原案に賛成者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第15号 指定管理者の指定について（石廊崎コミュニティセンター）は、原案のとおり賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第15号議案は原案のとおり可決することに決定しました。

採決します。

議第16号 指定管理者の指定について（加納生活新興センター）は、原案のとおり賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第16号議案は原案のとおり可決することに決定しました。

採決します。

議第17号 指定管理者の指定について（一条多目的センター）は、原案のとおり賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第17号議案は原案のとおり可決することに決定しました。

採決します。

議第18号 指定管理者の指定について（市之瀬高齢者活動促進センター）は、原案のとおり賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第18号議案は原案のとおり可決することに決定しました。

採決します。

議第19号 指定管理者の指定について（下小野高齢者センター）は、原案のとおり賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第19号議案は原案のとおり可決することに決定しました。

採決します。

議第20号 指定管理者の指定について（入間生活改善センター）は、原案のとおり賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第20号議案は原案のとおり可決することに決定しました。

採決します。

議第21号 指定管理者の指定について（中木生活改善センター）は、原案のとおり賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第21号議案は原案のとおり可決することに決定しました。

採決します。

議第22号 指定管理者の指定について（西子浦生活改善センター）は、原案のとおり賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第22号議案は原案のとおり可決することに決定しました。

採決します。

議第23号 指定管理者の指定について（伊浜山村活性化センター）は、原案のとおり賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第23号議案は原案のとおり可決することに決定しました。

採決します。

議第24号 指定管理者の指定について（上小野農産物集荷所）は、原案のとおり賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第24号議案は原案のとおり可決することに決定しました。

◎議第25号～議第30号の一括上程、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） 議第25号 指定管理者の指定について（入間集落排水施設）、議第26号 指定管理者の指定について（子浦集落排水施設）、議第27号 指定管理者の指定について（中木集落排水施設）、議第28号 指定管理者の指定について（妻良集落排水施設）、議第29号 指定管理者の指定について（中木水産飲雑用水施設）及び議第30号 指定管理者の指定について（妻良水産飲雑用水施設）を一括議題とします。

提案説明を求めます。

町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 議第25号、議第26号、議第27号、議第28号、議第29号及び議第30号の提案理由を申し上げます。

本議案は、南伊豆町公の施設に係る指定管理者の指定の手續等に関する条例第5条に基づき、入間、子浦、中木及び妻良地区の集落排水施設のほか、中木、妻良地区の水産飲雑用水施設に係る指定管理者の指定をお願いするものであります。

指定管理者の選定においては、同条例に基づき設置した「南伊豆町公の施設指定管理者選

定委員会」からの報告を受け、第5条の定めに従い、公募によらない指定管理者の候補者選定といたしました。

施設の特徴からも、当該地域に必要不可欠な密着型施設であるほか、安定的な施設管理体制の確立に資するため、指定期間を10年間とするものです。

内容につきましては、上下水道課長に説明させますので、ご審議のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 提案説明を終わります。

内容説明を求めます。

上下水道課長。

○上下水道課長（橋本元治君） それでは、議第25号から議第30号までの集落排水施設及び水産飲雑用水施設に係る指定管理者の指定につきましてご説明をさせていただきます。

本案につきましては、地方自治法第244条の2及び南伊豆町公の施設に係る指定管理者の指定等に関する条例第5条に基づきまして、入間、子浦、中木、妻良地区の集落排水施設及び中木、妻良地区の水産飲雑用水施設の指定管理者の指定をお願いするものでございます。

当該施設につきましては、平成18年度より指定管理者制度に基づく施設管理及び運営を実施してまいりまして、これらの経緯等につきましては先般、2月12日開催の全員協議会でご報告をさせていただいたところでございます。なお、指定管理者の選定に際しましては、同条例の定めるところにより設置いたしました指定管理者選定委員会により、公募によらない指定管理者の選定といたしました。

ご案内のとおり、それぞれの地区の環境保全に資する地域に密着した衛生施設等であることのほか、これら施設の特徴からも安定的かつ長期的な施設管理体制が求められるものでございますので、指定の期間を平成26年4月1日から36年3月31日までの10カ年としたいものでございます。

ご審議のほど、よろしくお願ひいたします。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

なお、議番号を述べ、質疑をお願いいたします。

清水清一君。

○7番（清水清一君） 7番、清水。

今、別添の協定書を見たんですけれども、妻良のものが2つあっただけでそのほかの4点

については協定書等案がないんですけれども、これはこれまで入間、あるいは子浦、中木の排水施設と飲料水のやつはまるっきり一緒なのか、あるいは書類がないものですからわかりませんから、その説明をお願いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 上下水道課長。

○上下水道課長（橋本元治君） お答えをいたします。

先般の全員協議会のおきにもご案内をさせていただいたというふうに思いますが、内容につきましては当然、施設名であるとか、それから代表者が変わるというようなことでございます。

指定管理者の協定書につきましては、考え方としては、これは議案ではありませんので、指定管理者の指定を議決いただいた後に、締結する協定書ということでございます。ご理解をいただければというふうに思います。

以上でございます。

○議長（稲葉勝男君） 清水清一君。

○7番（清水清一君） それはそれでいいんですけれども、内容的には変わらないんだという形で言うだけだったらいいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（稲葉勝男君） 上下水道課長。

○上下水道課長（橋本元治君） お答えいたします。

内容につきましては変わりません。先ほど申し上げたとおり、施設名であるとかそういうところが変わるということをお願いしたいと思っております。

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

これより討論に入ります。

なお、議番号を述べ討論願います。

まず、原案に反対者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 次に、原案に賛成者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第25号 指定管理者の指定について（入間集落排水施設）は、原案のとおり賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第25号議案は原案のとおり可決することに決定しました。

採決します。

議第26号 指定管理者の指定について（子浦集落排水施設）は、原案のとおり賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第26号議案は原案のとおり可決することに決定しました。

採決します。

議第27号 指定管理者の指定について（中木集落排水施設）は、原案のとおり賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第27号議案は原案のとおり可決することに決定しました。

採決します。

議第28号 指定管理者の指定について（妻良集落排水施設）は、原案のとおり賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第28号議案は原案のとおり可決することに決定しました。

採決します。

議第29号 指定管理者の指定について（中木水産飲雑用水施設）は、原案のとおり賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第29号議案は原案のとおり可決することに決定しました。

採決します。

議第30号 指定管理者の指定について（妻良水産飲雑用水施設）は、原案のとおり賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第30号議案は原案のとおり可決することに決定しました。

◎議第31号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） 議第31号 平成25年度南伊豆町一般会計補正予算（第5号）を議題とします。

提案説明を求めます。

町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 議第31号の提案理由を申し上げます。

本議案は、歳入歳出予算を1,487万6,000円増額し、それぞれ歳入歳出の総額を51億1,767万5,000円とするものです。

年度末を控え、人件費や各種事業の確定等に伴う、更正の増減が主な内容となっております。

歳出の主なものとしては、緊急地震・津波対策基金積立金に700万円、財政調整基金積立金に3,400万円、公共施設整備積立金に1億11万9,000円、ふるさと応援基金積立金に550万円、一部事務組合下田メディカルセンターの負担金に3,942万7,000円、水道事業会計繰出金に3,121万2,000円などを計上いたしました。

歳入の主なものは、地方税、地方交付税等を初め、国県支出金等の確定などによる更正です。

内容につきましては総務課長から説明させますので、ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 提案説明を終わります。

内容説明を求めます。

総務課長。

○総務課長（山本信三君） それでは、議第31号 平成25年度南伊豆町一般会計補正予算（第5号）について説明をさせていただきます。

平成25年度南伊豆町一般会計補正予算（第5号）は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ1,487万6,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ51億1,767万5,000円とするものであります。

歳出から説明いたします。

32ページをお開きください。

1 款議会費です。

6,675万2,000円、補正額342万9,000円の減です。6,332万3,000円であります。

33ページの人件費につきましては、議員1名分の減であります。人件費につきましては、人事異動等による補正を6月、12月に行わなかったため、ほぼ現段階で減額となっております。

34ページをお開きください。

2 款総務費です。

補正前の額11億5,245万4,000円、補正額1億741万5,000円、12億5,986万9,000円であります。

内容としては35ページをお開きください。

人件費については今言ったとおりであります。

60事業地域づくり推進事業です。負担金及び交付金の自治総合センターコミュニティ助成補助金620万円の減であります。これは宝くじ助成金の申請を5地区でしましたけれども、1地区のみの採択のために620万円の減となりました。

すぐ下、73事業緊急地震・津波対策基金積立金700万円であります。防災基金よりの戻し分であります。

37ページをお開きください。

積立金、財政調整基金積立金3,400万円であります。

その下です。公共施設整備基金積立金1億11万9,000円あります。ふるさと応援基金積立金550万円です。

82事業賦課徴収事務であります。委託料の賀茂地区航空写真共同撮影業務委託料285万円

が入札の差金であります。

一番下、98事業です。県知事選挙事務のところであります。選挙事務で132万3,000円の減額であります。

41ページになります。

中間の120事業農業委員会委員選挙事務であります。151万2,000円の減額です。選挙がなかったため減額になります。

44ページです。

3款民生費、11億6,270万8,000円、補正の額2,612万7,000円の減です。11億3,658万1,000円であります。

45ページをお開きください。

171事業障害者総合支援システム改修委託料73万5,000円です。

47ページをお開きください。

中間になります。200事業南伊豆認定こども園事務の中の工事請負費です。1・2歳児保育室改修工事148万8,000円の増であります。これは来年度入園する子どもが増えたために面積を増やすということであります。

203事業児童手当事務、児童手当費705万5,000円の減です。子どもの数が減ったということで、60人余りの分が減額となりました。

48ページです。

衛生費、5億5,900万7,000円、補正額が3,205万円です。

51ページをお開きください。

252事業医療施設整備推進事務負担金及び交付金でございます。一部事務組合下田メディカルセンターの負担金3,942万7,000円の増です。これにつきましては、下田メディカルセンターの負担金の基準日が24年3月31日の基準日であります。下田にメディカルセンターが移ったのが24年の5月、下田のほうへ移転しました。24年3月31日の基準で負担割合を決めているために、この24年3月31日に、湊に共立湊病院があったということで、南伊豆分の分担金の確定に伴う負担分であります。

一番下の270事業です。水道事業会計繰出金3,121万2,000円です。これにつきましては、起債を減額し、地域元気交付金という臨時交付金を充てたものであります。

次のページ、54ページをお開きください。

農林水産業費であります。1億7,576万4,000円、1,465万7,000円の減であります。

55ページの321事業林業振興事業の中で委託料です。林道青野・八木山線用地測量業務委託料、これは工事の進捗状況が進まなかったために未着手となったための減であります。

次のページ、57ページをお開きください。

森林整備地域活動支援推進事業費補助金であります。528万3,000円の減であります。事業体3社が要望した金額ですが、その金額の中で1社が申請しなかったために今年度528万3,000円の減が出たものであります。

それから、その下の松くい虫防除事業委託料の106万4,000円の減であります。見積もりはしましたが実施しなかった部分が出たために106万4,000円の減となったものであります。

58ページをお開きください。

商工費です。6款商工費2億976万6,000円、1,471万円の減であります。

59ページ、358事業です。観光振興事業、委託料の体験型プログラム人材育成事業委託料です。これは緊急雇用で100%の補助金でやる事業でしたが、繰り越しというのができなかったためにこの829万5,000円の減額をさせていただき、新たにこの分につきましては新年度に同じ事業として計上をさせていただきました。

その下の工事請負費です。湊地区観光施設整備事業です。湊の便所です。100万円の減、入札差金です。

それから、中木地区観光施設整備事業ということで、奥石廊の鐘等の改修で差金が出たものであります。200万円の減です。

60ページ、7款土木費です。3億6,133万5,000円、2,762万9,000円の減です。

61ページをお開きください。

388事業道路改良事業です。工事請負費の一町田線道路改良工事215万2,000円の減です。これは工事の工法を変えたために材料等が安価になったということで215万2,000円の減となりました。

それから、その下の加納区内16号線用地取得費438万1,000円の減です。これは加納地区保春寺先の砂防工事で買収予定のところが買収ができなかったものであります。438万1,000円の減であります。

それから、負担金補助及び交付金、県道路改良事業負担金です。300万円の減。これは市之瀬地区の県道工事の未実施により負担金が減となったものであります。

補償補填及び賠償金、物件移転補償費であります。70万2,000円の減であります。東電柱の移転が行われなかった分であります。

63ページをお開きください。

中間になります。421事業公共下水道事業特別会計繰出金854万9,000円。それから、同じくその下で331万円の増、減額は小島地区、下賀茂の老人ホームの前の小島地区工事を実施しなかった部分が水道管の移転補償費を減額するものであります。それから、331万円の増につきましては、料金収入の減による増額となります。

それから、その下です。425事業町営住宅管理事務委託料です。住宅ストック活用総合計画策定業務委託料335万6,000円の減額です。その下です。公営住宅長寿命化計画策定業務委託料196万3,000円。この335万6,000円につきましては、今言った、下の公営住宅長寿命化計画策定業務委託料の中に、このストック活用の委託が含まれていたために335万6,000円の減額が出ました。それから、その下の196万3,000円につきましては、入札差金で減額となったものであります。

64ページをお開きください。

消防費であります。5億122万円、2,025万1,000円の減額です。

65ページをお開きください。

448事業大規模地震対策事業の中で、工事請負費非常用自家発電装置取替工事620万円の減額です。これは入札の差金によるものの減額であります。

それから、下から2番目です。

津波避難ビル機能整備事業補助金です。津波避難ビルの機能整備等に1,000万円を予定しておりましたが、休暇村南伊豆のみが屋上へ上がる階段の手すり等をつけていただきました。ほかに要望がなかったために750万円の減となったものであります。

それから、自主防災事業費補助金です。300万円の減であります。予算500万円に対して地区、地域から要望がなかったために300万円の減となりました。

69ページをお開きください。

中学校管理費、490事業です。工事請負費の南伊豆中学校グラウンド改修工事365万2,000円の減額です。入札の差金となります。

71ページをごらんください。

518事業図書館管理運営事務です。積立金の石垣りん文学記念基金積立金に501万9,000円の増であります。

72ページをお開きください。

災害復旧費4,575万、補正額157万5,000円の減額です。

歳入の説明をさせていただきます。

20ページをお開きください。

1 款町税費です。補正前の額 9 億207万6,000円、4,572万2,000円の増です。

2 款地方譲与税6,400万、900万円の減で5,500万円です。

3 款利子割交付金です。200万円、20万円の減、180万円です。

6 款地方消費税交付金であります。8,800万円、400万円の減です、8,400万円です。

7 款ゴルフ利用税交付金です。1,100万円、100万円の減です。

8 款自動車取得税交付金、2,200万円、200万円の減です。

9 款地方特例交付金200万円、22万5,000円の減です。177万5,000円です。

次のページです。

10款地方交付税です。18億5,841万1,000円、2億2,166万円の増です。20億8,007万1,000円になります。

12款分担金及び負担金です。7,720万円です。1,677万6,000円の減で、6,042万4,000円です。

13款使用料及び手数料です。4,329万3,000円、33万8,000円の減です。4,295万5,000円あります。

14款国庫支出金です。2億6,218万2,000円です。4,395万6,000円の増です。3億613万8,000円です。

15款県支出金5億3,954万円、7,934万5,000円の減額です。4億6,019万5,000円あります。

16款財産収入308万9,000円、277万7,000円の増額です。586万6,000円です。

17款寄附金200万3,000円、970万1,000円の増額です。1,170万4,000円です。

繰入金3億8,858万8,000円です。1億4,583万4,000円の減額です。2億4,275万4,000円です。

諸収入9,413万円、887万8,000円、1億300万8,000円です。

町債4億5,900万円、5,910万円の減額です。3億9,990万円です。

18ページをお開きください。

歳出合計になります。51億279万9,000円、1,487万6,000円の増、計51億1,767万5,000円です。補正額の財源内訳です。国県支出金2,496万5,000円の減です。地方債5,510万円の減です。その他9,255万8,000円の増額です。一般財源238万3,000円あります。

以上で説明を終わらせていただきます。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 次に、原案に賛成者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第31号 平成25年度南伊豆町一般会計補正予算（第5号）は、原案のとおり賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第31号議案は原案のとおり可決することに決定しました。

◎議第32号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） 議第32号 平成25年度南伊豆町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）を議題とします。

提案説明を求めます。

町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 議第32号の提案理由を申し上げます。

本議案は、医療費実績を勘案し、保険給付費等の歳出調整及び基金積立金の変遷並びに国庫支出金等の実績見込みによる歳入調整が主な内容となっています。

歳出については、総務費25万1,000円、基金積立金を3,999万6,000円増額し、保険給付費を216万円、共同事業拠出金を1,129万8,000円減額するものです。

また、歳入については、国民健康保険税254万1,000円、国庫支出金を5,045万9,000円、療養給付費交付金を2,633万2,000円、県支出金を686万7,000円、繰入金を785万8,000円減額し、共同事業交付金を3,703万3,000円、諸収入を8,381万3,000円増額するもので、歳入歳出予算の総額にそれぞれ2,678万9,000円を増額し、歳入歳出予算の総額を17億1,012万5,000円とするものです。

内容につきましては健康福祉課長より説明させますので、ご審議のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 提案説明を終わります。

内容説明を求めます。

健康福祉課長。

○健康福祉課長（黒田三千弥君） それでは、議第32号 平成25年度国民健康保険特別会計補正予算（第2号）の内容を申し上げます。

歳出のほうからご説明いたします。

14ページ、15ページをご覧ください。

1款総務費、1項総務管理費、1目一般管理費でございますが、26年4月からの国保制度改正に対応するため、システムの改修の委託料として23万1,000円を計上させていただきました。続きまして、2項徴税费でございますが、これは口座振り替えの増額でございます。

2款保険給付費、1項療養諸費、1目一般被保険者療養給付費でございますが、直近の給付実績に基づき年間の必要額を推計し、2,200万円を増額するものです。2目の退職被保険者等の療養給付費ですが、こちらは年間の必要額の推計により2,000万円ほど減額するものでございます。

○議長（稲葉勝男君） 町長。

○町長（梅本和熙君） 暫時休憩をお願い申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） それではここで暫時休憩いたします。

休憩 午前 11 時 30 分

再開 午前 11 時 42 分

○議長（稲葉勝男君） 休憩を閉じ、会議を再開いたします。

先ほど町長のほうから、議第31号 平成25年度南伊豆町一般会計補正予算（第5号）について疑義がありましたが、問題ないということで続けて会議を継続いたします。

平成25年度の国民健康保険特別会計補正予算の内容説明が終了していませんね。

健康福祉課長。

○健康福祉課長（黒田三千弥君） それでは、引き続き説明を続けさせていただきます。

なお、私、冒頭に補正予算第2号を3号と申し上げたようでございます。お詫びして訂正します。失礼いたしました。

じゃ、続けさせていただきます。

国保の補正予算書の16ページ、17ページをお開き願います。

中段でございます。7款1項共同事業拠出金でございますが、1目高額医療費共同事業医療費拠出金を181万2,000円、4目保険財政共同安定化事業拠出金を948万6,000円、拠出金の確定に伴いそれぞれ減額するものでございます。

次に、8款でございます。これは財源区分の変更でございます。

9款1項基金積立金、1目支払準備基金積立金でございますが、余剰金から支払準備基金への積立額として3,999万6,000円を増額するものでございます。

歳出については以上でございます。

続きまして、歳入の主なものを説明いたします。

10ページ、11ページをお開きください。

1款1項国民健康保険税であります。2目退職被保険者国民健康保険税を254万1,000円減額するものでございます。内容でございますが、直近の調定額から推計いたしまして額の調整を図るものでございます。

続きまして、3款でございます。国庫支出金、1項国庫負担金、1目療養給付費等負担金でございますが、交付見込み額を推計した結果、4,352万2,000円を減額し、2億4,137万8,000円としたいものであります。1節現年度分の減額でございます。内容は説明欄に記載のとおりでございます。

続きまして、2項国庫補助金、1目財政調整交付金でございます。681万8,000円を減額し、7,552万4,000円としたいものでございます。1節普通調整交付金でございます。2目の高齢者医療制度円滑運営事業費補助金については、これは高齢者の受給者証の再交付事業等に係る補助金でございます。33万4,000円を計上いたしました。

4款1項1目療養給付費交付金ですが、こちらは退職者医療にかかわる交付金でございます。2,633万2,000円を減額し、1億2,170万円としたいものでございます。

6款県支出金、1項県負担金、1目高額医療費共同事業負担金でございますが、これも国庫と同様の減額でございます。

次に、12ページ、13ページに移りますのでお開き願います。

8款1項1目共同事業交付金であります。1,329万4,000円を増額し、3,629万4,000円としたいもので、高額医療費共同事業交付金の確定に伴い増額するものでございます。

次に、2目保険財政共同安定化事業交付金でございますが、2,373万9,000円を増額し、1億9,873万9,000円とするもので、こちらも交付額の確定に伴う増額でございます。

続きまして、12、13ページですね。12款の諸収入、3項雑入でございますが、3目一般被保険者返納金を8,065万8,000円、4目退職被保険者等返納金315万5,000円、それぞれ増額するものでございます。これにつきましては、医療機関等からの不当利得に伴う返還金でございます。

歳入については以上でございます。

8ページ、9ページにお戻りください。

下段をごらんください。

歳出合計でございますが、補正前の額16億8,333万6,000円、補正額2,678万9,000円の増でございます。計17億1,012万5,000円。補正額の財源内訳でございますが、特定財源の国県支出金を5,732万6,000円の減、その他を9,451万4,000円増、一般財源1,039万9,000円の減となっております。

以上で内容説明を終わります。ご審議のほど、よろしくどうぞお願いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

吉川映治君。

○3番（吉川映治君） 3番、吉川です。

すいません、先ほどの説明で、13ページなんですけれども、一般被保険者返納金と退職被

保険者返納金の、これは医療機関からの返還金が主な理由だというんですけれども、これが生じる主な理由を教えてください。

○議長（稲葉勝男君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（黒田三千弥君） まず、通常起り得るのは、保険証を誤って、社会保険になったのに国民健康保険を使い続けていたということで、お返しただいて社会保険のほうに請求してあると、その返還金が生じるケースがございます。

今回、額が多ございましたのは、実は東海北陸厚生局と県と同時に実地指導と申しまして、医療機関に指導に入るケースがございます。そこで今回のケースは誤った請求事例が見られたということで、自主返納ということで医療機関のほうから返納をいただくということで、本町だけではなく複数自治体にまたがったようですが、それでこのたびは大きな返納金が生じたのが理由でございます。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 吉川映治君。

○3番（吉川映治君） すみません、そのときにあちらの金融機関のほうから誤って請求が来たという場合には、何かこう、こちらとしては何か対抗策というんですか、罰則規定とか何とかではないですけれども、そういうことについての、これについて利息をつけるとかそういう手続上のところということは何があるのかなと思ってちょっとお尋ねしたいと思いますけれども、お願いします。

○議長（稲葉勝男君） 健康福祉課長。

○健康福祉課長（黒田三千弥君） 今回のケースについては自主返納ということで、罰則、課徴金とかそのようなものはうちのほうで取るようになっておりません。

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 次に、原案に賛成者の発言を許可します。

[発言する人なし]

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第32号 平成25年度南伊豆町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）は、原案のとおり賛成の諸君の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第32号議案は原案のとおり可決することに決定されました。

◎議第33号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） 議第33号 平成25年度南伊豆町介護保険特別会計補正予算（第3号）を議題とします。

提案説明を求めます。

町長。

[町長 梅本和熙君登壇]

○町長（梅本和熙君） 議第33号の提案理由を申し上げます。

本議案は、介護保険料の調整並びに介護給付費の動向を勘案した保険給付費の調整等が主な内容となっております。

歳出については、総務費を53万2,000円増額し、保険給付費を2,035万6,000円、地域支援事業費を38万7,000円減額し、歳入歳出予算の総額にそれぞれ2,021万1,000円を減額し、歳入歳出予算の総額を10億4,950万2,000円とするものです。

また、歳入については、介護保険料を1,616万円、国庫支出金449万4,000円、支払基金交付金678万4,000円、県支出金502万円減額し、繰入金を1,224万7,000円増額するものです。

内容につきましては健康福祉課長から説明させますので、ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 提案説明を終わります。

内容説明を求めます。

健康福祉課長。

○健康福祉課長（黒田三千弥君） それでは、議第33号 平成25年度介護保険特別会計補正予算（第3号）について内容のご説明を申し上げます。

歳出から主なものをご説明申し上げます。

12ページ、13ページをお開きください。

1款総務費、1項総務管理費、1目一般管理費でございますが、53万2,000円の増額をさせていただきます。主たるものは13節委託料で、介護保険制度改正に伴うシステム改修の委託52万5,000円でございます。

続きまして、2款保険給付費、1項介護サービス等諸費、2項介護予防サービス等諸費、3項その他諸費、ページが次にまたがりませんが、5項特定入所者介護サービス等費につきましてでございますが、第3四半期までの実績に基づきまして、年間必要額を再推計いたしました。負担金補助及び交付金、それと役務費、それぞれ記載の金額につきまして補正をお願いするものでございます。

歳出については以上の説明でございます。

続きまして、歳入の主なものを説明させていただきます。

10ページ、11ページをお開きください。

1款保険料、1項介護保険料、1目第一号被保険者保険料、65歳以上の方でございます。1,616万円を減額し、1億6,210万9,000円としたいもので、内容は1節の現年度分の保険料1,616万円、特別徴収保険料の減額であります。これは当初の調定見込み、ちょっと単純ミスだったんですけれども、積算見込みの誤りによるものでございます。

4款1項国庫負担金、1目介護給付費負担金でございますが、交付額が決定したことにより475万6,000円減額し、1億7,542万8,000円としたいもので、1節現年度分の介護給付費負担金でございます。

次に、5款1項支払基金交付金、1目介護給付費交付金でございますが、同じく交付額の確定により678万4,000円減額し、2億8,935万9,000円としたいもので、同じく現年度分でございます。

6款県支出金、1項県負担金、1目介護給付費負担金でございますが、同じく負担金の確定により502万円を減額し、1億4,668万円としたいもので、1節同じく現年度分でございます。2項繰入金、1目介護給付費準備基金繰入金でございますが、1,197万7,000円増額し、2,197万7,000円としたいものでございます。基金の残高は以上、これでなくなりました。

歳入については以上でございます。

8 ページ、9 ページに戻ってください。

一番下段をごらんいただきたいと思います。

歳出合計でございますが、補正前の額10億6,971万3,000円、補正額2,021万1,000円の減、計10億4,950万2,000円。補正額の財源内訳でございますが、特定財源の国県支出金951万4,000円の減、その他678万4,000円の減、一般財源391万3,000円の減となっております。

説明は以上で終わらせていただきます。ご審議のほど、どうぞよろしく願いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 次に、原案に賛成者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第33号 平成25年度南伊豆町介護保険特別会計補正予算（第3号）は、原案のとおり賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第33号議案は原案のとおり可決することに決定しました。

ここで昼食のため午後1時まで休憩いたします。

休憩 午前11時58分

再開 午後 1時00分

○議長（稲葉勝男君） 休憩を閉じ会議を再開いたします。

◎議第34号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） 議第34号 平成25年度南伊豆町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）を議題とします。

提案説明を求めます。

町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 議第34号の提案理由を申し上げます。

本議案は、保険基盤安定繰入金の確定に伴う歳入歳出の調整が主な内容となっております。

歳出については、後期高齢者医療広域連合会納付金を144万9,000円減額するもので、歳入は、繰入金を同額減額するもので、歳入歳出予算の総額からそれぞれ144万9,000円を減額し、歳入歳出予算の総額を1億984万5,000円とするものです。

内容につきましては健康福祉課長から説明させますので、ご審議のほど、よろしくお願ひします。

○議長（稲葉勝男君） 提案説明を終わります。

内容説明を求めます。

健康福祉課長。

○健康福祉課長（黒田三千弥君） 議第34号 平成25年度南伊豆町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）の内容のご説明申し上げます。

歳出から説明申し上げます。

12ページ、13ページをお開きください。

2款1項1目後期高齢者医療広域連合納付金でございますが、144万9,000円を減額し、1億659万9,000円とさせていただきたいものでございます。内容は、19節負担金補助及び交付金の保険料負担を保険基盤安定繰入金の確定により減額するものでございます。

続きまして、歳入の説明を申し上げます。

10ページ、11ページをお開きください。

4款繰入金、1項一般会計繰入金、2目保険基盤安定繰入金を144万9,000円減額し、3,065万2,000円としたいものでございます。保険基盤安定繰入金の確定による減額でございます。続きまして、8ページ、9ページに戻っていただきたいと思います。

下段をごらんください。

歳出合計でございますが、補正前の額1億1,129万4,000円、補正額144万9,000円の減、計1億984万5,000円。補正額の財源内訳でございますが、一般財源144万9,000円の減でございます。

以上で内容の説明を終わらせていただきます。ご審議のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 次に、原案に賛成者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第34号 平成25年度南伊豆町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）は、原案のとおり賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第34号議案は原案のとおり可決することに決定いたしました。

◎議第35号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） 議第35号 平成25年度南伊豆町南上財産区特別会計補正予算（第1号）を議題とします。

提案説明を求めます。

町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 議第35号の提案理由を申し上げます。

本案は、財産収入である財産貸付収入及び生産物売払収入を財政調整基金に積み立てるため、補正予算額19万3,000円を増額し、歳入歳出予算総額をそれぞれ98万2,000円とするものであります。

ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 提案説明を終わります。

これより質疑に入ります。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 次に、原案に賛成者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第35号 平成25年度南伊豆町南上財産区特別会計補正予算（第1号）は、原案のとおり

賛成の諸君の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第35号議案は原案のとおり可決することに決定されました。

◎議第36号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） 議第36号 平成25年度南伊豆町公共下水道事業特別会計補正予算（第3号）を議題とします。

提案説明を求めます。

町長。

[町長 梅本和熙君登壇]

○町長（梅本和熙君） 議第36号の提案理由を申し上げます。

本議案は、補正予算額3,313万9,000円を減額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ2億8,073万2,000円とするものであります。

歳出の主なものは、人事異動による給与費等の確定のほか、事業費の確定による更正減であります。

これら公共下水道整備に係る財源につきましては、事業量・事業費の確定にあわせ、使用料、補助金繰入金のほか、補償費及び下水道事業債を減額するものであります。

また、予算書第2条に定める繰越明許費を2,330万円とし、第3条債務負担行為限度額を1万9,000円追加するとともに、第4条に定める地方債の限度額を5,110万円に補正するものであります。

内容につきましては上下水道課長から説明させますので、ご審議のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 提案説明を終わります。

内容説明を求めます。

上下水道課長。

○上下水道課長（橋本元治君） 議第36号につきまして内容のご説明をさせていただきます。

予算書の1ページをお開きください。

第1条でございますが、本特別会計歳入歳出の総額からそれぞれ3,313万9,000円を減額して、予算の総額を2億8,073万2,000円としたいものでございます。

また、第2条では、地方自治法第213条第1項の規定による繰越明許費を2,330万円とさせていただきます。

お手元に平成25年度繰越明許費の説明資料というもので配付をさせていただいてございます。3枚つづりになっておりまして、一番、最後のページをご覧いただきたいと思っております。

平成25年度繰越明許費説明資料でございます。

1款下水道費、1項下水道建設費、1目公共下水道建設費でございます。800事業でございまして、工事請負費に係ります事業費の関係でございますが、1億306万2,350円、この年度繰越額が2,330万円でございます。この財源の内訳といたしましては、特定財源が113万円、国庫支出金が1,130万円、地方債が1,010万円、このほか一般財源が77万円でございます。

繰り越しに係る事業の概要及び繰り越しを必要とする理由というところでございますが、公共下水道建設に係る工事請負費を当初予算に計上いたしましたでしたが、掘削作業中に想定外の水道管、これは現在は使用していない石綿セメント管でございます。これらや転石等が確認されたことで不測の日数を要したことにより年度内完成が見込めなくなったものでございます。

さらに、国庫補助金社会資本整備総合交付金が国の平成25年度補正予算で追加措置されたため、公共下水道事業特別会計補正予算（第2号）で管渠工事を追加計上いたしました。この予算成立がおくれまして、このような事情を含めて年度内の完成が見込めないため、繰越明許費を計上したものでございます。

また、第3条の債務負担行為限度額につきましては、消費税の改正がございますので、これに伴い補正するものでございまして、第4条地方債限度額の補正では、当年度事業費確定に伴う借入額の減額でございます。

予算書の16ページをご覧ください。

補正予算書第1条に係る歳出明細でございますが、1款下水道費を1,844万9,000円減額するもので、これらは全て1項1目の公共下水道建設費でございます。これは昨年7月の人事異動に伴います給与費等の確定による更正減のほか、下賀茂処理区管渠工事等に係る契約差金及び事業量確定に伴う上水道等移動補償費を減額補正するものでございます。

また、2款事業費を1,469万円減額し、804事業でございまして、下水道管渠維持管理事業として計上いたしましたマンホールポンプ等に係る移設工事費を減額するものでございます。

これにつきましては、現在、県が施工しております鯉名川の河川改修工事のおくれによるものでございまして、所管する土木事務所との協議に基づきまして、平成26年度に改めて予算化をさせていただきます。

戻っていただきまして、14ページをごらんください。

歳入につきましては、事業の確定及び事業変更等に伴い、下水道使用料、国庫支出金繰入金のほか、移転補償費に係る諸収入及び下水道事業債を減額補正させていただくものがございます。

内容につきましては以上でございます。ご審議のほど、よろしくお願いたします。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

[発言する人なし]

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

[「異議なし」と言う人あり]

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許可します。

[発言する人なし]

○議長（稲葉勝男君） 次に、原案に賛成者の発言を許可します。

[発言する人なし]

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第36号 平成25年度南伊豆町公共下水道事業特別会計補正予算（第3号）は、原案のとおり賛成の諸君の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第36号議案は原案のとおり可決することに決定されました。

◎議第37号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） 議第37号 平成25年度南伊豆町子浦漁業集落排水事業特別会計補正予算（第2号）を議題とします。

提案説明を求めます。

町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 議第37号の提案理由を申し上げます。

本議案は、補正予算額200万円を減額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ2,132万6,000円とするものであります。

歳出においては、事業費確定に伴い、子浦集落環境整備事業費200万円を減額するもので、これに合わせて農林水産業費県補助金及び一般会計繰入金を更正するものであります。

ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 提案説明を終わります。

これより質疑に入ります。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 次に、原案に賛成者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第37号 平成25年度南伊豆町子浦漁業集落排水事業特別会計補正予算（第2号）は、原案のとおり賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第37号議案は原案のとおり可決することに決定されました。

◎議第38号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） 議第38号 平成25年度南伊豆町水道事業会計補正予算（第2号）を議題とします。

提案説明を求めます。

町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 議第38号の提案理由を申し上げます。

本議案は、水道事業会計の収益的収入及び支出のうち、営業収益を1,909万2,000円、営業外収益を18万8,000円減額し、水道事業収益の総額を2億6,366万2,000円とするものであります。

また、支出は、営業費用を208万4,000円減額し、営業外費用を137万7,000円増額するもので、水道事業費用の総額を2億7,177万4,000円とするものであります。

資本的収入及び支出では、建設改良工事負担金を1,020万円減額し、資本的収入の総額を7,772万6,000円とするものであります。

また、支出では、建設改良費を2,500万円減額し、資本的支出の総額を1億6,304万2,000円とするものであります。

内容につきましては上下水道課長に説明させますので、ご審議のほど、よろしく願い申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 提案説明を終わります。

内容説明を求めます。

上下水道課長。

○上下水道課長（橋本元治君） それでは、予算書第2条に係る収益的収入及び支出につきまして、支出の内訳から順次ご説明をさせていただきます。

予算書の16ページをご覧ください。

1 款水道事業費用では、補正予定額を70万7,000円減額したものでございます。内訳といたしましては、1 目原浄配給水費に係る設備点検委託料及び医薬品購入額の確定に伴う更正減でございまして、4 目簡易水道費等も同様でございまして、6 目資産減耗費につきましては、構築物及び機械装置の除却費額確定に伴う更正増でございまして、

2 款営業外費用には、消費税確定に伴う更正増となっております。

前のページに戻っていただきまして、15ページの収益的収入をご覧ください。

平成25年度事業の確定に伴う更正でございまして、1 款水道事業収益の補正予定額を1,928万円減額するものでございます。1 項1 目給水収益では、上水、簡水合わせまして1,909万2,000円を更正減いたしました。当初予算では、利用料金の段階的な値上げによる給水収益の増加を見込んでいたところでございますが、大口利用者は順調に推移する一方で、一般利用者の節水意識の普及、定着などもあいまって予定事業量を下回っております。なお、2 項営業外収益では、他会計補助金に係る更正減でございまして、

次に、資本的収支でございまして、18ページをご覧ください。

資本的支出では、水道施設改良費に係ります工事請負費の更正減でございまして、2,500万円を減額するものであります。契約差金のほか、下水道整備事業に係る水道管布設がえの計画変更等々に伴う事業費の更正減でございまして、

17ページに戻っていただきまして、資本的収入をご覧ください。

補正予定額を1,020万円減額し、収入総額を7,772万6,000円といたしました。1 項他会計繰入金には、南上蛇石簡易水道配水管更新事業に係ります一般会計繰入金で3,140万円を追加させていただきました。これは臨時交付金の財源措置が可能となったことによる付けかえでございまして、このことによりまして下段の企業債借入金3,140万円を減額するものでございます。また、下水道事業に係る水道管布設がえ工事の計画変更等に伴いまして、建設改良工事負担金1,020万円を減額させていただくものでございます。

ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 次に、原案に賛成者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第38号 平成25年度南伊豆町水道事業会計補正予算（第2号）は、原案のとおり賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第38号議案は原案のとおり可決することに決定されました。

◎議第39号の上程、説明、質疑、委員会付託

○議長（稲葉勝男君） 議第39号 平成26年度南伊豆町一般会計予算を議題とします。

提案説明を求めます。

町長。

〔町長 梅本和熙君登壇〕

○町長（梅本和熙君） 議第39号の提案理由を申し上げます。

本議案は、予算編成方針で申し上げましたとおりでありますので、各科目別の内容につきましては総務課長から説明させます。

ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

また、この後の提出議案であります、議第40号から議第51号までの各特別会計予算及び水道事業会計予算につきましても同様でありますので、それぞれの担当課長から説明させます。ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） 提案説明を終わります。

内容説明を求めます。

総務課長。

○総務課長（山本信三君） それでは、議第39号 平成26年度南伊豆町一般会計予算について説明をさせていただきます。

1 ページをお開きください。

平成26年度一般会計の総額は、歳入歳出それぞれ42億8,300万円とするものであります。

まず、歳出予算の概要について申し上げます。

34ページをお開きください。

すみません、1 ページにお戻りください。

1 条 2 項歳入歳出予算款項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第1表歳入歳出予算」によるものであります。

2 条、債務負担行為であります。地方自治法214条の規定により、債務を負担する行為をすることができる事項、期間及び限度額は、「第2表債務負担行為」による。

地方債、第3条、地方自治法230条第1項の規定により、起こすことができる地方債の起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、「第3表地方債」による。

一時借入金、第4条、地方自治法235条の3第2項の規定による一時借入金の借入れの最高額は、6億円と定める。

歳入予算の流用、第5条、地方自治法220条第2号ただし書の規定により歳出予算の各項の経費の金額を流用することができる場合は、次のとおりと定める。

1、各項に計上した給料、職員手当等及び共済費（賃金に係る共済費を除く。）に係る予算額に過不足を生じた場合における同一款内でのこれらの経費の各項の間の流用。

平成26年2月25日提出。

南伊豆町長梅本和熙。

それでは、34ページをお開きください。

第1項、1款議会費につきましては、町議会の運営活動に要する経費として前年度対比489万4,000円減額の6,187万2,000円を計上いたしました。

36ページをお開きください。

第2款総務費につきましては、総務管理費、徴税费、戸籍住民基本台帳費及び各選挙費等で、前年度対比2億7,875万1,000円減額の6億2,996万4,000円を計上いたしました。

その主なものは、39ページをお開きください。

39ページ、中間になります。各種補助金5,000万円。

45ページになります。

中間、48事業の基幹業務電算事務4,200万6,000円でございます。

47ページ、49事業の情報系業務電算事務経費912万2,000円。その下のほうに新規事業として、60事業地域づくり推進事業費の石廊崎ジャングルパーク跡地利用計画策定委員会委員報酬15万円。それから下のほうにいきます。石廊崎ジャングルパーク跡地利用計画策定業務委託料197万1,000円。

それから、49ページになります。

コミュニティ施設整備補助金400万円。路線バス維持事業補助金6,435万9,000円。

51ページになります。

78事業土地開発基金繰出金1,692万4,000円などであります。

60ページをお開きください。

3款民生費につきましては、前年度対比4,230万円増額の11億7,314万円を計上いたしました。

その主なものは、63ページ、重度障害児医療扶助費2,292万円。173事業障害者地域生活支援事業2,064万円。174事業臨時福祉給付金給付事業4,187万9,000円。

67ページになります。

上から、181事業老人福祉事業2,970万1,000円。67ページの同じく186事業国民健康保険特別会計繰出金5,103万3,000円。187事業保険基盤安定繰出金5,577万2,000円。188事業後期高齢者医療費事務1億4,608万3,000円。

68ページになります。

児童福祉施設費2億2,530万円。

そのうち、73ページになります。203事業児童手当事務1億2,170万7,000円。

75ページになります。

204事業子育て支援事業2,701万4,000円。209事業放課後児童クラブ運営事務委託料の577万9,000円。

77ページ、211事業の1億4,681万2,000円などであります。

78ページをお開きください。

4款衛生費につきましては、前年度対比453万4,000円増額の5億5,288万7,000円を計上しました。

その主なものは、79ページになります。

小児救急医療運営費負担金456万円、各種ワクチン、医薬材料費、予防接種委託料の225事業感染症予防事務の1,332万5,000円。不妊治療助成金等、81ページの230事業1,266万6,000円。83ページの浄化槽設置整備事業費補助金592万2,000円。すぐ下になります。住宅用太陽光発電システム設置費補助金200万円。242事業老人保健ヘルス事業2,870万5,000円。

85ページになります。

252事業医療施設整備推進事務の6,837万7,000円。

85ページの一部事務組合下田メディカルセンター負担金及び出資金です。6,837万7,000円。

87ページになります。

260事業のごみ収集事務6,910万8,000円。261事業焼却施設維持事業1億1,216万5,000円。

89ページの262事業最終処分場事業2,823万6,000円。266事業南豆衛生プラント組合負担金6,356万6,000円。270事業水道事業会計繰出金4,642万9,000円。簡易水道補助金50万円などがあります。

90ページをお開きください。

5款農林水産業費、前年度対比1,113万1,000円減額の1億2,963万7,000円を計上しました。

その主なものは、93ページをお開きください。

農業振興事業の遊休農地美化業務委託料324万円、農業振興地域整備計画策定業務委託料348万1,000円。下のほうになります。青年就労給付金600万円。292事業の有害鳥獣対策事業788万5,000円。

97ページになります。

林道青野・八木山線用地測量業務委託料260万円。322事業の森林整備事業1,905万円。323事業松くい虫防除事業481万1,000円。

99ページになります。

上の段です。

稚貝稚魚放流事業補助金130万円。335事業漁業集落排水事業特別会計繰出金2,713万9,000円。337事業入間漁業集落排水事業392万5,000円などがあります。

100ページをお開きください。

6款商工費につきましては、前年度対比3,042万6,000円減額の1億4,845万4,000円を計上しました。

その主なものは、101ページになります。

354事業商工振興事業の小口資金等の利子補給330万円。ブランド特産品開発事業費補助金300万円。

103ページになります。

宣伝委託料3,441万8,000円。湯の花観光交流館指定管理委託料557万円。体験型プログラム人材育成事業委託料829万5,000円。下のほうになります。伊豆半島ジオパーク構想推進事業費補助金240万円。青野川利活用観光活性化事業補助金300万円。その上になります。公共交通機関利活用観光活性化事業補助金500万円。

105ページになります。

372事業町営温泉施設指定管理委託料400万円。銀の湯会館長寿命化計画策定委託料394万2,000円などがあります。

106ページをお開きください。

第7款土木費につきましては、前年度対比1億2,406万1,000円増額の4億5,969万3,000円を計上しました。

その主なものは、109ページをお開きください。

上のほうです。住宅リフォーム振興事業補助金400万円。384事業道路維持事業の2,693万4,000円。395事業長寿命化修繕事業3,100万円。388事業道路改良事業9,519万9,000円。

111ページになります。

一番上になります。石廊崎線測量設計委託料500万円。396事業橋梁長寿命化修繕事業4,320万円。397事業河川維持事業の587万9,000円。401事業青野川ふるさとの川関連事業851万5,000円。

113ページになります。

409事業港湾管理事務1,013万5,000円。下のほうになります。421事業公共下水道事業特別会計繰出金1億6,806万2,000円。425事業町営住宅管理費277万8,000円。

115ページになります。

429事業急傾斜地崩壊防止事業691万円などがあります。

116ページになります。

8款消防費につきましては、前年度対比1億4,578万2,000円減額の3億711万2,000円を計上しました。

その主なものは、117ページの430事業常備消防事務1億7,987万1,000円。434事業非常備消防事務2,753万3,000円。可搬ポンプ付積載車購入等の438事業消防施設管理事務4,452万円。

119ページになります。

446事業災害対策事務875万7,000円。447事業防災施設管理事務1,333万2,000円。

121ページになります。

448事業の下の防災備品や津波対策ビル機能整備費補助金等の大規模地震対策事業の3,227万4,000円などであります。

122ページになります。

9款教育費につきましては、前年度対比4,127万6,000円減額の3億1,756万4,000円を計上しました。

その主なものは、123ページになります。

学校統合審議会議員報酬や各種補助金等を含む事務局事務5,255万9,000円。

125ページになります。

468英語教育事業348万3,000円。小学校管理事務、これは124ページにちょっと戻っていただいて、学校管理費8,699万1,000円。

130ページになります。

教育振興費4,473万5,000円。

それから132ページになります。

学校管理費3,690万5,000円。

136ページになります。

教育振興費3,339万4,000円。

139ページになります。

506社会教育総務事務2,823万円。

141ページになります。

文化財管理事務600万3,000円。

148ページになります。

10款災害復旧費につきましては、ほぼ前年と同額の2,071万円を計上しました。

152ページになります。

11款公債費は、前年度対比64万5,000円減額の4億7,196万7,000円を計上しました。

154ページになります。

第12款予備費は、前年と同額の1,000万円を計上いたしました。

次に、12ページをお開きください。

歳入の予算について説明を申し上げます。

1 款町税です。本年度予算 9 億781万、前年度 9 億207万6,000円、573万4,000円の増です。内訳として、町民税 2 億6,459万4,000円、469万6,000円の増であります。固定資産税 5 億4,065万9,000円、5 億4,496万3,000円、430万4,000円の減であります。軽自動車税2,313万3,000円、2,299万円、14万3,000円の増であります。4 項たばこ税5,888万7,000円、5,365万円、523万7,000円の増であります。5 項入湯税2,053万7,000円、2,052万8,000円、9,000円の増であります。

2 款地方譲与税です。6,200万円、6,400万円、200万円の減額であります。

3 款利子割交付金200万円、200万円、同額であります。

14ページになります。

配当割交付金100万円、100万円、同額です。

5 款株式等譲渡所得割交付金40万円、40万円です。

6 款地方消費税交付金 1 億500万円、8,800万円、1,700万円の増額です。

7 款ゴルフ場利用税交付金1,000万円、1,100万円、100万円の減額です。

8 款自動車取得税交付金1,050万円、2,200万円、1,150万円の減額です。

9 款地方特例交付金150万円、200万円、50万円の減額です。

地方交付税18億2,700万円、18億4,000万円、1,300万円の減であります。

交通安全対策特別交付金800万円、800万円の同額です。

12款分担金及び負担金4,498万5,000円、7,595万円、3,096万5,000円の減額です。

13款使用料及び手数料4,259万9,000円、4,329万3,000円、69万4,000円の減額であります。

14款国庫支出金 3 億2,592万3,000円、2 億5,240万円、7,352万3,000円の増であります。

うち、国庫負担金です。1 億7,196万8,000円、1 億7,163万8,000円、33万円の増です。2 項国庫補助金 1 億5,384万3,000円、8,064万9,000円、7,319万4,000円の増額です。3 項委託金 11万2,000円、11万3,000円、1,000円の減額です。

15款県支出金 2 億3,064万5,000円、3 億970万9,000円、7,906万4,000円の減額です。1 項県負担金です。1 億2,230万円、1 億2,164万4,000円、65万6,000円の増です。2 項県補助金 8,298万9,000円、1 億5,457万8,000円、7,158万9,000円の減額です。

24ページになります。

3 項委託金2,535万6,000円、3,348万7,000円、813万1,000円の減額です。

16款財産収入です。416万7,000円、308万9,000円、107万8,000円の増額です。

26ページになります。

17款寄附金200万3,000円、50万3,000円、150万円の増額です。

18款繰入金2億4,016万2,000円、3億8,756万3,000円、1億4,740万1,000円の減額です。

19款繰越金1億7,000万円、1億7,000万円、同額です。

28ページになります。

諸収入5,200万6,000円、4,721万7,000円、478万9,000円の増額であります。

21款町債であります。2億4,250万円、4億200万円、1億5,950万円の減額です。

それでは、10ページにお戻りください。

歳入合計です。42億8,300万円、前年度予算額46億2,500万円、比較3億4,200万円の減です。

本年度予算額の財源内訳でございます。特定財源、国県支出金が5億5,206万8,000円です。地方債7,250万円です。その他1億5,491万1,000円。一般財源が35億352万1,000円です。

以上で報告を終わります。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

清水清一君。

○7番（清水清一君） またこれ委員会でやると思うんですけども、この予算で今、金額をいろいろ説明していただきましたけれども、目玉になるもの、要するに4つ、5つ、こういう新しいものがあるということがありましたらそれを言っていただきたいんですが。あるいはこういうものを廃止したとか、そういうものがありましたらお願いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 総務課長。

○総務課長（山本信三君） それでは、26年度一般会計当初予算の中で新規事業と主要事業を説明させていただきます。

町政施行60周年記念事業委託料ということで220万円、南伊豆町内の観光のためのDVDを作成するというので、DVDを春・夏・秋・冬を通して南伊豆の観光DVDの製作に取り組むということで、DVDの本数としては500枚を予定しております。

それから、金額的には少ないんですが、石廊崎ジャングルパーク跡地利用計画策定業務ということで212万1,000円、この中にはジャングルパーク審議会委員報酬15万円、それとか跡地利用計画策定業務委託料197万1,000円等が入っております。

それから、この26年度から町税でコンビニ収納事業というのを郡下に先駆けて南伊豆町が

実施をします。305万4,000円、コンビニ収納代行手数料とコンビニ収納システムソフト賃借料でございます。

それから、健康福祉センター建設検討事業ということで19万8,000円、健康福祉センターの建設検討委員会委員の報酬等でございます。

それから、体験型プログラム人材育成事業委託料ですが、これは25年度に若干事業は実施しましたけれども、全面的な、繰り越し事業ということでなかったものですから、補正の中で下げさせてもらって、新たに829万5,000円の体験型プログラム人材育成事業委託料というのを上げております。

主要事業としましては、臨時福祉給付金給付事業4,187万9,000円、子育て世帯臨時特例給付金給付事業の1,022万円、道路長寿命化修繕事業の3,100万円、橋梁長寿命化修繕事業の4,320万円、これについては宇留井大橋とか耐震補強設計委託料で落居の橋ですね、その修繕を予定しております。

以上であります。

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

本案を予算決算常任委員会付託としたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、議第39号議案は予算決算常任委員会に付託することに決定しました。

ここで2時10分まで休憩いたします。

休憩 午後 2時01分

再開 午後 2時10分

○議長（稲葉勝男君） 休憩を閉じ会議を再開いたします。

◎議第40号の上程、説明、質疑、委員会付託

○議長（稲葉勝男君） 議第40号 平成26年度南伊豆町国民健康保険特別会計予算を議題とします。

内容説明を求めます。

健康福祉課長。

○健康福祉課長（黒田三千弥君） 議第40号 平成26年度南伊豆町国民健康保険特別会計予算につきまして内容のご説明をさせていただきます。

歳出の主なものからの説明とさせていただきます。

ページですと186ページ、187ページをお開きください。

1款総務費、1項総務管理費、1目一般管理費でございますが、617万7,000円を計上いたしました。主なものにつきましては、13節委託料でございます。国保連合会共同電算処理事務委託料が77万6,000円、バッチ処理委託料が167万3,000円でございます。

次のページに移りまして、2款保険給付費、1項療養諸費でございますが、こちらが大きな予算額となっております。被保険者の構成の変化や医療費の動向、診療報酬の改定等の影響を勘案いたしました。1目から4目、それぞれ一般被保険者療養給付費8億6,600万、前年度比で5,000万の増といたしました。2目退職被保険者等療養給付費7,000万、3目一般被保険者療養費860万、4目退職被保険者等療養費60万、以上全て負担金補助及び交付金として計上いたしております。

次に、2項に移りまして、高額療養費、1目一般被保険者高額療養費1億4,300万、2目退職被保険者等高額療養費1,200万、いずれも19節の負担金補助及び交付金であります。

190ページ、191ページに移ります。

4項出産育児諸費でございますが、1件当たり42万円で14件の支給を見込みました。588万円を計上してございます。

次、5項でございますが、1目葬祭費でございます。1件5万円で36件分を計上いたしております。180万円を計上いたしております。

続きまして、3款1項1目後期高齢者支援金でございますが、負担金補助及び交付金として1億9,006万8,000円を計上いたしました。

続きまして、192ページ、193ページをお開きください。

2つ目の枠でございます。6款に移ります。1項1目介護納付金でございますが、負担金補助及び交付金といたしまして9,567万7,000円を計上いたしました。

7款1項共同事業拠出金、1目高額療養費共同事業医療費拠出金、これは80万円を超える医療費に対するものでございますが、2,335万2,000円です。国保連合会が実施しております再保険事業への拠出金でございます。

続きまして、4目保険財政共同安定化事業拠出金でございますが、これは10万円から80万円の医療費に対する再保険事業でございます。1億7,202万9,000円を計上いたしました。

8款保健事業費でございます。1項1目特定健康診査等事業費822万7,000円でございますが、これらの主なものにつきましては、194ページの説明欄に記載してありますように、特定健康診査委託料730万4,000円でございます。

続きまして、2項保健事業、1目保健衛生普及費452万3,000円でございますが、主なものにつきましては、7節の賃金216万7,000円でございます。医療機関からの請求のレセプトの点検を臨時職員2名で点検をしている、その賃金でございます。また、19節負担金補助及び交付金の成人病検診補助金108万2,000円でございます。胃がん検診、乳がん検診等のがん検診に対するものでございます。

続きまして、次のページに移っていただきます。

196ページ、197ページの説明に移ります。

11款諸支出金、1項償還金及び還付加算金、1目一般被保険者保険税還付金でございますが、120万円を計上してございます。これは過年度分の保険税に対して還付が生じた場合の予算でございます。

最後になりますが、その予備費は前年度と同額の100万円を計上いたしました。

次は歳入の主なものをご説明いたしますので、178ページ、179ページにお戻りください。

1款1項国民健康保険税、1目一般被保険者国民健康保険税2億7,377万3,000円を計上いたしました。内訳といたしましては、1節医療給付分1億7,169万、2節後期高齢者支援金等分6,279万、3節介護納付分2,419万3,000円、4節医療給付分滞納繰越分1,100万などとなっております。

続いて2目でございますが、退職被保険者等国民健康保険税ですが2,660万4,000円。内訳は、1節から3節でございます。医療給付分が1,458万2,000円、後期高齢者支援金等が544万2,000円、介護納付金現年度分が488万円となっております。

1つ飛びまして、3款の下のほうでございます。国庫支出金、1項国庫負担金、1目療養

給付費負担金でございますが、2億6,049万円を計上いたしました。内訳といたしましては、右のページの記載のとおり、1節で療養給付費等負担金1億7,344万4,000円。

すみません、181ページにちょっと移っていただきます。右のほうでございます。介護保険納付金負担金として3,061万6,000円、後期高齢者支援金負担金として5,642万8,000円となっております。

左のほうに目を送っていただきます。2目の高額療養費共同事業負担金でございますが、583万7,000円、3目の特定健診等負担金174万1,000円でございます。

続きまして、2項国庫補助金でございます。財政調整交付金でございます。1節の普通調整交付金、2節の特別調整交付金でございます。1節につきましては8,467万6,000円、2節につきましては255万2,000円となっております。

4款でございます。その下の療養給付費交付金でございますが、9,539万9,000円を計上いたしてございます。主なものは、退職被保険者等療養給付費交付金でございます。

5款です。1項1目前期高齢者交付金でございますが、65歳から74歳に対するものでございます。4億2,817万9,000円でございます。

6款県支出金でございます。1目の高額療養費共同事業負担金として583万7,000円、2目特定健診負担金として174万1,000円でございます。2項の県補助金でございますが、1目の財政調整交付金7,063万9,000円、内訳といたしましては、普通調整交付金と特別調整交付金、それぞれ4,943万9,000円、2,120万円となっております。

ページを進めてもらいます。182ページ、183ページをお願いいたします。

10款に飛びます。繰入金でございます。1項他会計繰入金、1目一般会計繰入金でございますが、1億680万5,000円を計上してございます。内訳は1節から5節までで、主なものは1節の保険基盤安定繰入金5,577万2,000円でございます。2目その他繰越金でございます。4,000万円を計上してございます。これは前年度のその他繰越金であります。

以上が歳入の主なものでございます。

それでは、176ページ、177ページに戻ってください。

下段をごらんいただきたいと思います。

歳出合計、本年度予算額16億1,378万7,000円、前年度予算額15億7,412万円、比較3,966万7,000円の増でございます。本年度予算額の財源内訳でございますが、特定財源といたしまして国県支出金4億3,351万円、その他7億3,273万5,000円、一般財源4億4,754万2,000円であります。

以上で内容の説明を終わらせていただきます。ご審議のほどよろしくどうぞお願いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

本案を予算決算常任委員会に付託したいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、議第40号議案は予算決算常任委員会に付託することに決定しました。

◎議第41号の上程、説明、質疑、委員会付託

○議長（稲葉勝男君） 議第41号 平成26年度南伊豆町介護保険特別会計予算を議題とします。
内容説明を求めます。

健康福祉課長。

○健康福祉課長（黒田三千弥君） 続きまして、議第41号 平成26年度南伊豆町介護保険特別会計予算の内容についてご説明申し上げます。

同じように、歳出の主なものからの説明とさせていただきます。

214ページ、215ページをお開きください。

1款総務費、1項総務管理費、1目一般管理費でございますが、393万6,000円を計上してございます。主なものは、13節委託料のバッチ処理委託料114万1,000円、19節の負担金補助及び交付金であります賀茂郡の介護認定審査会への負担金143万5,000円でございます。

続きまして、2項でございますが、介護認定審査会費、2目の認定調査等費でございますが、768万1,000円。主なものでございますが、7節賃金で認定調査を臨時職員を雇い上げま

して3名で行っております、367万3,000円と12節の役務費で、主治医意見書をご依頼して作成していただいております352万1,000円でございます。

続きまして、下のほうでございます。2款保険給付費、1項介護サービス諸費でございます。ここが大きなところでございます。1目居宅介護サービス給付費でございますが、4億200万円を計上してございます。19節の負担金補助及び交付金の居宅介護サービス給付費負担金が主なものでございます。在宅サービスでございます。

次のページをお願いいたします。

3目地域密着型の介護サービス費給付費2,700万でございますが、これも19節でございます。認知症対応型の共同生活介護給付と申しまして、グループホームに入所している方のサービスへの負担金でございます。5目施設介護サービス給付費でございますが、4億2,800万円を計上してございます。7目、8目福祉用具、住宅改修にそれぞれ180万、360万。9目の居宅介護サービス計画給付費4,200万を計上してございますが、これはケアマネジャーさんの仕事に対する給付でございます。

次に、2項介護予防サービス諸費でございます。介護予防サービス給付費の方、これは要支援1、2の方へのサービスでございます。2,500万円を計上してございます。

次のページをお願いいたします。

6目、7目それぞれ予算計上してございますが、住宅の改修、サービス計画の給付費、それぞれ介護予防の方に対するものでございます。

次に、4項1目高額介護サービス費でございますが、2,000万円を計上してございます。

5項1目特定入所者介護サービス費に5,300万円を計上してございます。所得の低い方への食費、居住費の保険のほうからの負担でございます。

次のページをご覧ください。

下の枠でございます。4款地域支援事業費、1項介護予防事業費、1目介護予防元気アップ高齢者施策事業でございますが、385万9,000円でございます。主なものは、227ページ、説明欄に記載のものでございまして、委託料として元気アップ高齢者健脚教室事業委託料225万8,000円等でございます。2目の介護予防一般高齢者施策事業費でございますが、723万6,000円でございます。

次のページでございます。

13節委託料でございますが、介護予防の生活管理指導員派遣事業委託料として374万6,000円が主なものでございます。ヘルパーの派遣をいたす予定です。

2項包括的支援事業・任意事業費、1目介護予防ケアマネジメント事業費でございます。1,410万7,000円でございますが、これは包括の職員2名分の人件費でございます。同じく3目の包括的・継続的ケアマネジメント支援事業費でございます。773万2,000円ですが、これも包括の主任ケアマネジャー1名の人件費でございます。

飛びまして、226ページをお開きください。

歳出は最後でございます。

予備費でございます。昨年と同額ございまして、100万円を計上してございます。

以上が歳出でございます。

続きまして、歳入のご説明を申し上げます。

208ページ、209ページをお開きください。

1款保険料、1項介護保険料、1目第1号被保険者保険料でございますが、1億7,876万4,000円を見込ませていただきました。

次に、4款国庫支出金、1項国庫負担金、1目介護給付負担金でございますが、1節1億7,724万9,000円を予算計上させていただきました。2項国庫補助金でございますが、1目調整交付金です。8,000万円を計上いたしました。次の2目地域支援事業交付金（介護予防事業）分253万3,000円、3目地域支援事業交付金（包括支援事業等）分714万7,000円をそれぞれ計上してございます。

続いて、5款1項支払基金交付金、1目介護給付費交付金、2号被保険者分として2億9,260万8,000円を計上してございます。これも国と同じような科目の流れになっておりまして、これは社会保険診療報酬支払基金のほうから受ける金額でございます。

6款の県支出金、1項県負担金、1目介護給付費負担金1億5,067万4,000円でございます。これも国基金と同じような予算の流れになっておりまして、それぞれの金額を計上してございます。

次のページをお願いいたします。

中段の9款繰入金、1項一般会計繰入金でございますが、これは一般会計のほうから法定負担分として繰り入れていた分が主でございます。1目の介護給付費繰入金として1億2,612万4,000円等々でございます。

続きまして、10款1項1目繰越金でございますが、1,100万円を計上させていただきました。

歳入の最後でございます。11款諸収入でございます。

次のページに移ってください。

3項雑入でございますが、96万6,000円でございます。内容につきましては、説明欄に記載のとおりでございます。各事業を実施しております利用をしていただく方からの負担金をそこに計上してございます。

以上が歳入の主なものでございます。

それでは、206ページ、207ページの下段をごらんください。

歳出合計、本年度予算額10億5,556万5,000円、前年度予算額9億7,942万4,000円、比較7,614万1,000円の増でございます。本年度予算額の財源内訳でございますが、特定財源の国県支出金4億2,244万3,000円、その他2億9,650万7,000円、一般財源3億3,661万5,000円となっております。

以上で内容の説明を終わらせていただきます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

本案を予算決算常任委員会付託としたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、議第41号議案は予算決算常任委員会に付託することに決定しました。

◎議第42号の上程、説明、質疑、委員会付託

○議長（稲葉勝男君） 議第42号 平成26年度南伊豆町後期高齢者医療特別会計予算を議題とします。

内容説明を求めます。

健康福祉課長。

○健康福祉課長（黒田三千弥君）　続きます、議第42号　平成26年度南伊豆町後期高齢者医療特別会計予算の内容についてご説明申し上げます。

同じように歳出のほうからご説明申し上げます。

ページですと、244ページ、245ページをお開きください。

1款総務費、1項総務管理費、1目一般管理費でございますが、118万4,000円を計上してございます。主なものは、13節委託料の後期高齢者システムの保守委託64万8,000円並びに14節使用料及び賃借料のパソコン賃借料33万9,000円でございます。

次に、2款でございます。1項1目後期高齢者医療広域連合納付金でございますが、1億1,472万6,000円で、内訳は、19節負担金補助及び交付金の保険料負担金が1億950万1,000円でございます。また、事務費負担金が522万5,000円となっております。

3款諸支出金、1項償還金及び還付加算金、1目保険料還付金でございますが、23節の償還金利子割引料の保険料還付金を30万円計上してございます。

続きます、歳入の説明を申し上げます。

240ページ、241ページをお開きください。

1款1項1目後期高齢者医療保険料ですが、7,585万4,000円を計上いたしました。内訳は、1節現年度分の保険料の特別徴収保険料が6,123万9,000円、普通徴収保険料が1,436万5,000円、2節滞納繰越分保険料の普通徴収保険料が25万円となっております。

次に、4款繰入金、1項一般会計繰入金、1目事務費繰入金でございますが、736万6,000円を、2目保険基盤安定繰入金3,364万6,000円をそれぞれ計上いたしました。

それから、6款でございます。諸収入、2項償還金及び還付加算金、1目保険料還付金30万円を計上してございます。

238ページ、239ページを戻ってお開きください。

歳出合計、本年度予算額1億1,718万3,000円、前年度予算額1億912万6,000円、比較805万7,000円の増でございます。本年度予算額のうち、財源内訳でございますが、全て一般財源で1億1,718万3,000円でございます。

以上で内容説明を終わらせていただきます。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

○議長（稲葉勝男君）　内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

本案を予算決算常任委員会に付託したいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、議第42号議案は予算決算常任委員会に付託することに決定しました。

◎議第43号の上程、説明、質疑、委員会付託

○議長（稲葉勝男君） 議第43号 平成26年度南伊豆町南上財産区特別会計予算を議題とします。

内容説明を求めます。

総務課長。

○総務課長（山本信三君） それでは、議第43号 平成26年度南伊豆町南上財産区特別会計について説明を申し上げます。

歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ19万2,000円と決めました。

歳出からご説明いたします。

260ページ、261ページをお開きください。

1款総務費19万2,000円、前年度78万9,000円、59万7,000円の減額であります。歳出については、総務管理費が主なもので、報酬、それから報償、旅費、交際費等で19万2,000円となっております。

258ページをお開きください。

歳入についてご説明いたします。

1款財産収入、本年度予算3,000円、前年度48万4,000円、48万1,000円の減であります。繰越金18万8,000円、30万4,000円、11万6,000円の減額です。諸収入は1,000円、1,000円、同額でございます。

歳出につきましては、総務管理費19万2,000円、財産区の管理運営事務費であります。歳入につきましては、財産運用収入の3,000円、繰越金18万8,000円が主なものであります。

ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

本案を予算決算常任委員会付託としたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、議第43号議案は予算決算常任委員会に付託することに決定しました。

◎議第44号の上程、説明、質疑、委員会付託

○議長（稲葉勝男君） 議第44号 平成26年度南伊豆町南崎財産区特別会計予算を議題とします。

内容説明を求めます。

総務課長。

○総務課長（山本信三君） 議第44号 平成26年度南伊豆町南崎財産区特別会計予算について説明をいたします。

274ページをお開きください。

歳出です。

1 款総務費、本年度予算額45万2,000円、前年度予算額45万7,000円、5,000円の減額であります。主な内容は、報酬、旅費、交際費、需用費、役務費、積立金でございます。45万2,000円です。

272ページをお開きください。

歳入です。

1 款繰越金11万2,000円、11万7,000円、5,000円の減額です。

3 款財産収入34万円、34万円、同額でございます。

歳入については、土地賃貸収入33万9,000円、これは風力発電用貸付料でございます。

以上が主な内容であります。

270ページです。

下段になります。歳出総額45万2,000円、前年度予算額45万7,000円、比較5,000円の減額です。本年度予算額の財源内訳でございます。一般財源45万2,000円でございます。

以上、説明を終わらせていただきます。ご審議のほどよろしく願いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

本案を予算決算常任委員会に付託したいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、議第44号議案は予算決算常任委員会に付託することに決定しました。

◎議第45号の上げ、説明、質疑、委員会付託

○議長（稲葉勝男君） 議第45号 平成26年度南伊豆町三坂財産区特別会計予算を議題とします。

内容説明を求めます。

総務課長。

○総務課長（山本信三君） それでは、議第45号 平成26年度南伊豆町三坂財産区特別会計予算について説明をいたします。

288ページ、289ページをお開きください。

1款総務費906万8,000円、906万6,000円、2,000円の増額です。一般管理事務で906万8,000円です。内容的には報酬、旅費、交際費、需用費、役務費、積立金、繰出金でございます。

286ページ、287ページをお開きください。

歳入です。

1款財産収入、1項1目894万9,000円、894万9,000円、昨年と同額でございます。右側に、土地貸付収入894万9,000円、土地貸付料でございます。利子及び配当金で1万7,000円、財政調整基金利子でございます。

2款繰入金1,000円、1,000円、同額です。

3款繰越金10万円、10万円、同額です。

4款諸収入1,000円、1,000円でございます。

284ページをお開きください。

歳出合計でございます。

本年度予算額906万8,000円、前年度予算額906万6,000円、比較2,000円の増額であります。本年度予算額の財源内訳でございます。特定財源、その他財源が1万7,000円、一般財源が905万1,000円でございます。

以上、説明させていただきました。ご審議のほどよろしく願いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

本案を予算決算常任委員会付託としたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、議第45号議案は予算決算常任委員会に付託することに決定しました。

◎議第46号の上程、説明、質疑、委員会付託

○議長（稲葉勝男君） 議第46号 平成26年度南伊豆町土地取得特別会計予算を議題とします。
内容説明を求めます。

総務課長。

○総務課長（山本信三君） それでは、議第46号 平成26年度南伊豆町土地取得特別会計予算
について説明をいたします。

歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ1,752万4,000円と定める。

302ページをお開きください。

歳出でございます。

1 款公共用地取得費、本年度1,692万4,000円、2 億2,500万円、2 億807万6,000円の減額
です。1 項 1 目公共用地取得費1,692万4,000円です。2 億2,500万円、2 億807万6,000円の
減額です。これは17節公有財産購入費1,692万4,000円です。公有財産購入費公共用地先行取
得費の1,692万4,000円であります。

2 款繰出金60万円、1,000円です。59万9,000円の増であります。

300ページ、301ページをお開きください。

1 款財産収入、1 項 1 目財産貸付収入60万円。

2 款繰越金、1 項 1 目土地開発基金繰入金1,692万4,000円、2 億2,500万円、2 億807万
6,000円の減でございます。右側の301ページ、土地開発基金繰入金1,692万4,000円でありま
す。この繰入金に関しましては、差田地内差田グラウンド周辺敷地取得のための公共用地取
得費1,692万4,000円、それから土地開発基金繰出金の60万円でございます。

以上、説明を終わらせていただきます。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

[発言する人なし]

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議あ
りませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

本案を予算決算常任委員会付託としたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、議第46号議案は予算決算常任委員会に付託することに決定しました。

◎議第47号の上程、説明、質疑、委員会付託

○議長（稲葉勝男君） 議第47号 平成26年度南伊豆町公共下水道事業特別会計予算を議題とします。

内容説明を求めます。

上下水道課長。

○上下水道課長（橋本元治君） それでは、議第47号の内容説明をさせていただきます。

予算書316ページのほうをお開きください。

歳出のほうからお願いをいたします。

1款下水道費、1項1目公共下水道建設費では、本年度予算額を1億8,956万5,000円といたしました。前年度比では3,605万3,000円の増でございます。主なものといたしましては、職員2名分の人件費のほか、13節委託料の1,700万円でございます。管渠工事に伴う廃管運搬処理委託料400万円及び南伊豆クリーンセンターの一部耐震化並びに処理槽に係る改築更新実施設計委託料1,300万円でございます。このほか、14節使用料及び賃借料では、複写機、自動車、積算システムなどの賃借料等々で143万1,000円を計上し、15節工事請負費には、下賀茂処理区管渠工事及び町単独下水道付帯工事として1億2,200万円を見込んでおります。また、22節補償補填及び賠償金の3,354万円につきましては、これら管渠埋設工事に伴う移転補償費でございます。

次ページをご覧ください。

2款1項業務費、1目総務管理費でございますが、予算額を1,349万7,000円といたしました。前年対比では142万7,000円の減でございます。このうち801事業下水道総務事務では、

職員1名分の人件費を計上し、19節負担金補助及び交付金では、関係団体等への負担金、利子補給補助金のほか、窓口収納事務等の外部委託に伴います水道事業会計の負担金といたしまして540万円を計上いたしました。この特別負担金に係る積算基準といたしましては、収納額、取り扱い件数等の実績規模などから委託比率を25%と見込んだものでございます。

次に、320ページをご覧ください。

2款業務費、2項施設管理費、1目管渠費でございます。本年度予算額を2,548万6,000円といたしました。前年度比では676万円の増でございます。804事業下水道管渠維持管理事業の主なものは、11節需用費のマンホールポンプ電気料が168万5,000円、13節委託料の管渠内面調査・清掃委託料で202万5,000円、15節工事請負費では、下田土木事務所の河川改修工事に伴う補償工事として、マンホールポンプ等移設工事に1,500万円、前原通りの舗装・補修工事費といたしまして625万円を計上させていただきました。

2項2目処理場ポンプ場費では、予算額を2,527万8,000円といたしました。805事業下水道施設管理事業の主なものは、11節需用費の光熱費でございまして738万円を予定し、施設修繕料を300万円といたしました。また、13節委託料を1,396万2,000円とし、南伊豆クリーンセンター等に係る維持管理業務委託が主なものでございます。

次に、3款1項公債費でございます。1目元金につきましては、本年度予算額7,829万9,000円で、クリーンセンター建設費等に係る償還元金でございます。2目利子では、本年度予算額2,750万円で、前年対比30万円の減となっております。

引き続きまして、歳入についてご説明させていただきます。

お手数ですが、戻っていただいて314ページをお開きください。

まず、1款分担金及び負担金、1項1目負担金でございますが、本年度予算額を803万9,000円と見込み、前年対比113万1,000円の減となっております。これは供用開始区域における負担金対象戸数の減によるものでございます。

2款使用料及び手数料、1項1目使用料では、予算額を3,960万1,000円といたしました。前年度比では60万円の減でございまして、これは入りと出の関係から水道使用料の実績にあわせまして、下水道使用料の減少を若干でございしますが見込んだものでございます。

3款1項国庫補助金、1目下水道費国庫補助金には6,650万円を見込みまして、全額社会資本整備総合交付金でありまして、対象事業費の2分の1が手当てされるものでございます。

5款繰入金、1項1目一般会計繰入金につきましては、1億6,806万2,000円を見込み、前年度比では3,655万5,000円の増といたしました。建設費及び公債費等に係る繰入金でござい

ます。

7款諸収入、2項1目雑入では、1,502万2,000円を見込みました。主なものは、804事業、先ほど申し上げました下水道管渠維持管理事業における県河川改修工事補償費として1,500万円を計上したものでございます。

8款1項町債、1目下水道債につきましては、6,340万円を予定し、前年度比では660万円の増となります。下水道債及び過疎債ともに3,170万円を計上させていただきました。

312ページをお開きください。

本年度予算額の歳出合計は3億6,062万5,000円でありまして、前年度予算額に対し4,913万1,000円の増となりました。歳出合計額の財源内訳といたしましては、国庫支出金で6,650万、地方債6,340万のほか、その他特定財源1億1,428万9,000円及び一般財源の1億1,643万6,000円を予定しているところでございます。

内容説明は以上でございます。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

本案を予算決算常任委員会付託としたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、議第47号議案は予算決算常任委員会に付託することに決定しました。

◎議第48号の上程、説明、質疑、委員会付託

○議長（稲葉勝男君） 議第48号 平成26年度南伊豆町子浦漁業集落排水事業特別会計予算を議題とします。

内容説明を求めます。

上下水道課長。

○上下水道課長（橋本元治君） それでは、議第48号のご説明をさせていただきます。

ご説明の前に、331ページ、議第48号の議案でございます。こちらの第1条のところ、歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ1,324万2,000円でございます、「千円」を大変申しわけありませんが加筆していただければというふうに思います。大変申しわけございません。

それでは、340ページをお開きください。

歳出のほうからご説明をさせていただきます。

1款総務費、1項1目総務管理費は、506万1,000円で、前年度比8万4,000円の減でございます。主なものにつきましては、11節需用費の施設修繕料で50万円のほか、13節委託料でありまして、指定管理に伴う施設管理委託料の447万6,000円でございます。

次に、2款公債費は818万1,000円でございます、前年度と同額でございます。1項1目元金では550万3,000円で、町債に係る元金償還金でございます。また、利子は267万8,000円でございます、町債利子分でございます。

次に、歳入についてご説明させていただきます。

戻っていただきまして、338ページをご覧ください。

1款分担金及び負担金、1項1目漁業集落排水事業費分担金では25万を予定し、前年度同額を見込みました。

2款使用料及び手数料、1項1目漁業集落排水施設使用料では447万6,000円を見込んでおります。

3款繰入金、1項1目一般会計繰入金につきましては846万7,000円で、前年度比210万円の減でございます。

また、4款諸収入、1項1目雑入は、当該施設の火災保険料に係る使用者負担金でございます、前年度同額の4万9,000円を計上いたしました。

戻っていただきまして、336ページをお願いいたします。

本年度予算額の歳出合計額では1,324万2,000円となりまして、前年対比では708万4,000円の減といたしました。この財源には、特定財源のうちその他として、使用料収入477万5,000円のほか、一般財源繰入金846万7,000円を見込んでおります。

なお、本予算書に先駆けまして、条例改正についてのご審議をいただいたところでござい

ますが、当初予算額の確定期限もありますことから、歳入における施設使用料並びに歳出の指定管理料につきましては前年と実績等から推移したものをそのまま計上させていただいてございます。ご理解を賜りますようお願いいたします。ご審議のほど、よろしく願いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

[発言する人なし]

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

[「異議なし」と言う人あり]

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

本案を予算決算常任委員会付託としたいと思いますが、ご異議ありませんか。

[「異議なし」と言う人あり]

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、議第48号議案は予算決算常任委員会に付託することに決定しました。

◎議第49号の上程、説明、質疑、委員会付託

○議長（稲葉勝男君） 議第49号 平成26年度南伊豆町中木漁業集落排水事業特別会計予算を議題とします。

内容説明を求めます。

上下水道課長。

○上下水道課長（橋本元治君） それでは、議第49号の内容についてご説明させていただきます。

352ページのほうをお開きいただきたいと思います。

歳出からご説明させていただきます。

1款総務費、1項1目総務管理費は、540万7,000円でございます。主なものは、11節需用費の施設修繕料で50万円のほか、13節委託料でありまして、指定管理に伴う施設管理委託

料の486万円でございます。

次に、2款公債費は359万7,000円で、前年度対比79万9,000円の減でございます。1項1目元金では272万5,000円、1項2目利子は87万2,000円でございます。

次に、歳入についてご説明させていただきます。

350ページをご覧ください。

1款分担金及び負担金、1項1目漁業集落排水事業費分担金では25万を予定し、前年度同額を見込んでございます。

2款使用料及び手数料、1項1目漁業集落排水施設使用料では486万円を見込んでいますところでございます。

3款繰入金、1項1目一般会計繰入金につきましては384万8,000円でございます。前年比79万9,000円の減でございます。

また、5款諸収入、1項1目雑入は、当該施設の火災保険料に係る使用者負担金でございます。前年度同額の4万6,000円を計上いたしました。

戻っていただきまして、348ページをお願いします。

本年度予算額の歳出合計額では900万4,000円となりまして、前年比では82万9,000円の減でございます。この財源には、特定財源のうちその他として、使用料収入515万6,000円のほか、一般財源繰入金384万8,000円を見込んでいますところでございます。

ご審議のほど、よろしく願いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

本案を予算決算常任委員会付託としたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、議第49号議案は予算決算常任委員会に付託することに決定しました。

◎議第50号の上程、説明、質疑、委員会付託

○議長（稲葉勝男君） 議第50号 平成26年度南伊豆町妻良漁業集落排水事業特別会計予算を議題とします。

内容説明を求めます。

上下水道課長。

○上下水道課長（橋本元治君） それでは、議第50号の内容についてご説明させていただきます。

364ページのほうをお願いいたします。

歳出からご説明をさせていただきます。

1款総務費、1項1目総務管理費は、470万3,000円でございまして、主なものは、11節需用費の施設修繕費で50万円のほか、13節委託料でありまして、指定管理に伴う施設管理委託料の412万8,000円でございます。

次に、2款公債費は1,457万7,000円でございまして、元金では1,189万1,000円、1項2目利子は268万6,000円でございます。

次に、歳入についてご説明させていただきます。

362ページをご覧ください。

1款分担金及び負担金、1項1目漁業集落排水事業費分担金では25万を予定し、2款使用料及び手数料、1項1目漁業集落排水施設使用料では412万8,000円を見込んでいるところでございます。

3款繰入金、1項1目一般会計繰入金につきましては1,482万4,000円でございまして、前年対比73万4,000円の増でございます。

また、5款諸収入、1項1目雑入につきましては、当該施設の保険料ということで使用者負担金でございます。7万8,000円を計上いたしました。

戻っていただきまして、360ページをお願いいたします。

本年度予算額の歳出合計額では1,928万円となりまして、前年度比では65万2,000円の増といたしました。この財源には、特定財源のうちその他として、使用料収入445万6,000円のほか、一般財源繰入金1,482万4,000円を見込んでおります。

ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

本案を予算決算常任委員会付託としたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、議第50号議案は予算決算常任委員会に付託することに決定しました。

◎議第51号の上程、説明、質疑、委員会付託

○議長（稲葉勝男君） 議第51号 平成26年度南伊豆町水道事業会計予算を議題とします。

内容説明を求めます。

上下水道課長。

○上下水道課長（橋本元治君） 議第51号 平成26年度水道事業会計予算の内容説明を申し上げます。

本予算の作成に当たりましては、新地方公営企業会計基準に基づいて作成したものでございます。この内容につきましては、また後日委員会等で詳細についてはご説明させていただきたいと、そのように考えてございます。

本予算書31ページの予算実施計画説明書のほうをお開きいただきたいと思います。

収益的収入及び支出のうち、収入のほうからご説明をさせていただきます。

1款水道事業収益予定額は3億2,415万3,000円で、前年度と比較して6,821万1,000円の増といたしました。収益の大部分を占めます給水収益につきましては、平成25年度から実施いたしました料金改定に伴い2億3,460万8,000円を見込み、前年度比で3,101万6,000円の増と

いたしました。給水収益の内訳では、上水道料金が1億8,101万1,000円、簡易水道料金等で5,359万7,000円を見込んでいるところでございます。

3目その他営業収益では859万4,000円を予定し、主なものは給水負担金300万円のほか、上下水道料金事務等の外部委託に伴う公共下水道特別会計からの負担金として、企業会計事務等委託料540万円を計上いたしたところでございます。

次ページをご覧ください。

5目他会計補助金は、4,243万4,000円で、前年度比では416万9,000円の減となり、全て一般会計からの基準内及び基準外繰入金でございます。

また、6目長期前受金戻入につきましては、地方公営企業法における会計基準の改正に伴い国県補助金及び受贈財産評価額、その他長期前受金を営業外収益とするものでありまして、3,297万1,000円を計上させていただいたところでございます。

次に、33ページをご覧ください。

収益的支出についてご説明いたします。

1款水道事業費用予定額は3億1,050万4,000円で、前年度と比較して3,150万9,000円の増といたしました。内訳では、1項営業費用で、1目原水浄水送水配水給水費が3,857万2,000円で、前年度比576万4,000円の減でございます。これらの費用は上水道施設の維持管理費でございまして、機械設備等に係る点検委託料で467万6,000円、施設修繕費で707万9,000円のほか、動力費で2,160万円、19節会費負担金では青野大師ダム維持管理負担金を126万5,000円計上いたしました。

次ページをお願いいたします。

3目総係費では7,504万2,000円を見込み、前年比で3,037万5,000円の増としてございます。これらは事務的経費に要する職員3名分の給与費等のほか、町が管理いたします水道施設全般に係る維持管理委託料として3,305万円を計上し、石井浄水場を含む浄水場14施設のほか、簡易水道31施設のザイエン検査薬品補給及び調達、全施設の巡回及び保守点検、環境美化などの業務を委託するものでございます。

また、水道料金等管理業務委託料として2,210万円を計上し、窓口業務、検針業務、料金算定、収納業務、それから開栓、閉栓業務のほか、滞納整理事務やメーター管理業務を一括委託するものでございます。これらアウトソーシングは、人員削減に伴う効率化を初め、民間事業者の持つ専門的ノウハウの活用が図られ、より安定的な飲料水の提供とさらなる利用者サービスの向上が見込まれるほか、人材育成等の投資的経費の抑制など、公営企業に求め

られる健全経営に資するものでございます。

次に、36ページをお願いいたします。

5目減価償却費は、1億3,826万2,000円でございます。前年度比で2,620万6,000円の増でございます。これは公営企業会計の会計基準改正に伴い、減価償却額算定の見直しが行われたことによるものでございます。本予算には、記載してございませんが、有形固定資産で2,726万円の増、無形固定資産で105万4,000円の減というような内容になっております。

次に、2項営業外費用でございます。1目支払利息及び企業債取扱諸費は当年度予定額2,420万2,000円で、48万9,000円の減でございます。2目雑支出は5万円で、前年度と同額。3目消費税は89万5,000円で、前年度と比較して289万9,000円の減となっております。

3項予備費100万、4項特別損失30万円は前年と同額を見込みました。

次に、37ページをお開きください。

資本的収入及び支出のうち、収入についてご説明をさせていただきます。

1款資本的収入の当年度予定額では、1億4,403万5,000円を見込み、前年度と比較して5,610万9,000円の増といたしました。1項他会計繰入金、1目一般会計繰入金につきましては、399万5,000円で、簡易水道の建設改良費の起債償還金元金の2分の1及び天神原専用水道改良費の補助分を見込んでございます。

2項1目国県補助金は3,700万円でありまして、簡易水道施設整備事業に係る国庫及び県費補助金でございます。

3項1目企業債では4,960万円を見込み、前年度比では1,820万円の増といたしました。これは簡易水道等施設整備事業に要する企業債でございます。財政融資資金、金融機構資金ともに2,480万円を予定してございます。

5項1目建設改良工事負担金は5,344万円で、前年度比2,639万円の増でございます。簡易水道等施設整備事業に伴う消火栓増径負担金1,890万円のほか、下水道整備に伴う工事負担金3,354万円、その他工事負担金として100万円を見込んでおります。

次に、38ページの支出についてご説明いたします。

1款資本的支出の当年度予定額につきましては、2億6,523万1,000円で、前年度と比較し7,624万円の増といたしました。内訳では、1項建設改良費、1目水道施設改良費で1億9,981万1,000円を予定し、前年度比で6,483万8,000円の増となっております。主なものは、職員1人分の給与費等のほか、工事請負費1億8,701万円でありまして、南上、蛇石、毛倉野簡易水道施設整備工事に1億1,550万円、天神原専用水道配水管布設替工事に1,000万円、下水

道工事に伴う配水管布設替え関連工事費といたしまして5,751万円、その他構築物工事で300万円のほか、機械及び装置等の取り替え工事に100万円を計上してございます。

2款1項企業債では、5,542万円でございます。

3款1目予備費は1,000万円を計上いたしました。これは施設の老朽化による突発的な事故、故障等に対応するため増額をさせていただいたものでございます。

なお、資本的収入が資本的支出の額に対して不足する額1億2,119万6,000円につきましては、過年度損益勘定留保資金1億1,348万6,000円のほか、当年度消費税及び地方消費税資本的収支調整額の771万円を補填するものでございます。

このほか、資料のほうをつけさせていただいてございます。会計基準の見直しに伴い追加された財政書等もございますので、あわせてご確認をいただければというふうに思います。

また、事業案内図等も委員会のときにまた細かいものを出させていただきたいと、そのように考えてございますので、よろしく願いいたします。

説明につきましては以上でございます。ご審議のほど、よろしく願いいたします。

○議長（稲葉勝男君） 内容説明を終わります。

これより質疑に入ります。

[発言する人なし]

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

[「異議なし」と言う人あり]

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、質疑を終わります。

本案を予算決算常任委員会付託としたいと思いますが、ご異議ありませんか。

[「異議なし」と言う人あり]

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、議第51号議案は予算決算常任委員会に付託することに決定しました。

◎散会宣告

○議長（稲葉勝男君） 本日の議事が終わりましたので、会議を閉じます。

本日はこれをもって散会いたします。どうもご苦労さまでした。

散会 午後 3時11分

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

平成 年 月 日

議 長 稲 葉 勝 男

署 名 議 員 清 水 清 一

署 名 議 員 齋 藤 要

平成 26 年 3 月定例町議会

(第 3 日 3 月 14 日)

平成26年3月南伊豆町議会定例会

議事日程(第3号)

平成26年3月14日(金)午前9時30分開議

- 日程第 1 会議録署名議員の指名
- 日程第 2 議第 8号 南伊豆町町民参画及び協働の推進に関する条例制定について
- 日程第 3 議第 9号 南伊豆町石廊崎ジャングルパーク跡地利用計画審議会条例制定について
- 日程第 4 議第10号 南伊豆町臨時的任用職員の給与等に関する条例制定について
- 日程第 5 議第11号 南伊豆町文化財保護基金の設置及び管理に関する条例制定について
- 日程第 6 議第12号 南伊豆町税外収入金の延滞金等徴収及び滞納処分に関する条例制定について
- 日程第 7 議第13号 南伊豆町子ども・子育て会議条例制定について
- 日程第 8 議第39号 平成26年度南伊豆町一般会計予算
- 日程第 9 議第40号 平成26年度南伊豆町国民健康保険特別会計予算
- 日程第10 議第41号 平成26年度南伊豆町介護保険特別会計予算
- 日程第11 議第42号 平成26年度南伊豆町後期高齢者医療特別会計予算
- 日程第12 議第43号 平成26年度南伊豆町南上財産区特別会計予算
- 日程第13 議第44号 平成26年度南伊豆町南崎財産区特別会計予算
- 日程第14 議第45号 平成26年度南伊豆町三坂財産区特別会計予算
- 日程第15 議第46号 平成26年度南伊豆町土地取得特別会計予算
- 日程第16 議第47号 平成26年度南伊豆町公共下水道事業特別会計予算
- 日程第17 議第48号 平成26年度南伊豆町子浦漁業集落排水事業特別会計予算
- 日程第18 議第49号 平成26年度南伊豆町中木漁業集落排水事業特別会計予算
- 日程第19 議第50号 平成26年度南伊豆町妻良漁業集落排水事業特別会計予算
- 日程第20 議第51号 平成26年度南伊豆町水道事業会計予算
- 日程第21 議第52号 備品購入契約の変更について(平成25年度静岡県市町共同利用260MHz帯デジタル防災行政無線機器購入)

日程第 2 2 発委第 1 号 南伊豆町専決処分条例制定について

日程第 2 3 各委員会の閉会中の継続調査申出書

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（10名）

1 番	加 畑 毅 君	2 番	宮 田 和 彦 君
3 番	吉 川 映 治 君	4 番	谷 正 君
5 番	長 田 美喜彦 君	6 番	稲 葉 勝 男 君
7 番	清 水 清 一 君	9 番	齋 藤 要 君
10 番	渡 邊 嘉 郎 君	11 番	横 嶋 隆 二 君

欠席議員（なし）

地方自治法第 1 2 1 条により説明のため出席した者の職氏名

町 長	梅 本 和 熙 君	副 町 長	松 本 恒 明 君
教 育 長	小 澤 義 一 君	総 務 課 長	山 本 信 三 君
防 災 室 長	大 年 美 文 君	企 画 調 整 課 長	谷 半 時 君
建 設 課 長	鈴 木 重 光 君	産 業 観 光 課 長	大 野 寛 君
町 民 課 長	小 嶋 孝 志 君	健 康 福 祉 課 長	黒 田 三 千 弥 君
教 育 委 員 会 長	勝 田 英 夫 君	上 下 水 道 課 長	橋 本 元 治 君
教 事 務 局 長			
会 計 管 理 者	藤 原 富 雄 君	総 務 係 長	平 山 貴 広 君

職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	山 田 昌 平	主 幹	佐 藤 禎 明
--------	---------	-----	---------

開議 午前 9時30分

◎開議宣告

○議長（稲葉勝男君） おはようございます。

ただいまの出席議員は10名です。定足数に達しております。

これより、3月定例会本会議第3日の会議を開きます。

◎会議録署名議員の指名

○議長（稲葉勝男君） 日程第1、会議録署名議員の指名を議題とします。

会議規則の定めるところにより、議長が指名します。

7番議員 清水 清一 君

9番議員 齋藤 要 君

◎議第8号の上程、委員長報告、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） 議第8号 南伊豆町町民参画及び協働の推進に関する条例制定についてを議題とします。

委員長の報告を求めます。

第1常任委員会委員長。

〔第1常任委員長 谷 正君登壇〕

○第1常任委員長（谷 正君） 26年3月議会における第1常任委員会に付託されました議第8号の委員会報告を、朗読をもって報告いたします。

平成26年3月14日、南伊豆町議会議長、稲葉勝男様。

第1常任委員長、谷正。

委員会審査報告書。

本委員会に付託された議第8号 南伊豆町町民参画及び協働の推進に関する条例制定につ

いて。

開催月日及び会場、平成26年2月28日、南伊豆町役場3階議場。

会議時間、開会午前9時30分、閉会午前10時31分。

委員会の出席状況及び委員会以外の出席議員、記載のとおりです。

事務局、記載のとおりです。

説明のため出席した町当局の職員、記載のとおりです。

議事件目、付託件目、委員会決定、議第8号 南伊豆町町民参画及び協働の推進に関する条例制定について、原案のとおり可決することに決定。

審議中にあった意見または要望事項。

議第8号 南伊豆町町民参画及び協働の推進に関する条例制定について。

質問、答弁という形で、報告します。

問 条例第14条中、町民参画の手續の公表で、議会への通知、報告はどこにもない。議会に対してもないが、広報等でやると思うが、条例案規則にもないが、どのようにして議会、町民に知らせるのか。

答 第1条（目的）にあるように、町民の参画を推進することで、議会を無視していることではない。町民及び町の協働による住みよいまちをつくることを目的としている。議会は公の場で審議することになっている。条例、予算等を審議していただく中で、そのようなことはカバーできる。

問 協働参画でやるときは、ワークショップを開くときには、報告、通知、会議開催等を文書等で通知して欲しい。石廊崎ジャングルパークも口頭では聞いたが、文書などで通知がほしい。日程だけでも知らせてほしい。議会としても傍聴の参考にしたい。条例等に基づくワークショップ等をやるたびに、議会へ報告、通知せよとのことなのか。

答 広報、ホームページに掲載されるので確認してほしい。

問 条例の基本原則の確認、説明を改めて求めたい。第3条で「町民及び町は、次に掲げる三原則を踏まえ、町民参画及び協働の推進を図るものとする。」となっている。この参画条例そのものは、全国自治体で制定しているもので、非常によいものと思うが、改めて第3条「（1）自立の原則、（2）対等の原則、（3）相互理解及び協力の原則、（4）情報の提供及び共有の原則、（5）評価と説明の原則」と原理原則が述べてあるが、詳しい説明を求める。

答 3条に書いてあるとおり、町民参画により協働の推進が基本原則となる（1）自立の

原則は、町民は自らの意思により町民参画及び協働を行うことで、町は町民の活動の自主性を尊重することができる。(2) 対等の原則は、町民及び町は対等の関係として町民参画及び協働の推進を行うことである。(3) 相互理解及び協力の原則は、町民参画及び協働の推進の目的を共有し、信頼関係の醸成と相互協力関係の形成に努めることである。(4) 情報の提供及び共有の原則は、町民は自らの持つ活動の情報を提供し、町は積極的に情報を公開し、互いに共有することである。(5) 評価と説明の原則は、町民はそれぞれが担った役割の成果について評価と説明を行い、町は町民参画及び協働により行う施策の実施について評価と説明の責任を持つことで、町民参画及び協働の基本原則を定めたものである。

問 条文そのものに説明が書いてあったので、そのとおりだと思うが、協働参画そのものは尊重して推進すべきと思うが、住民と自治体との関係、役所は敷居が高いものとの認識がある。執行権、予算を持っているので、その点は条例制定し、迎える自治体側の姿勢が一番律せられ、自立の原則を改めて説明を求めたのは、自主性を尊重するとか、対等の原則も、自治体が財力、執行権力を持っているところがへりくだらなければならない執行するときの留意事項としての自立心である。この点について、改めて町長の確認をしたい。

この条例が、そのとおりに施行されていくかという意見、具申をする条項がないが、この点についても、どのように考えているのか。自立の原則とか、対等の原則とかに対して、常々、権力、執行権を持つ側の強さを感じる。それに対して、町民から意見を吸い上げて最終的に決定するのは、民主主義の中で執行者であると思っている。最終的な決定を町民の意見を吸収しながら決定していく、そのことを常々望んでいきたい。評価については、民主主義の中で私たちは4年ごとに評価を受けている。そのような形で十分評価がなされるのではないか。

最終的な結論は執行者がすると言ったが、協働参画や今後の民主主義の発展の段階では責任と最終決定、執行的な力、責任は町長、執行者にある。最終的な問題を持ち出すまでもなく、いかに自主性、町民の自由な意見をしっかりと担保するということが、権力者に備わっていないと大変である。最終的に決めるのは私だと、曖昧に形だけの既成事実を積み上げる協働参画ではいけない。町長が思っているとは思わないが、参画の趣旨に沿って、基づいて、これを実際に行うことに対して異議を唱え、これは選挙の信任とは別問題と思うが、その点は。

答 この条例を上程するに至った経過ですが、町長が立候補表明したときに、町民参画型の町政をとということで当選した。それから、すぐミニ集会を始めて地域に行って、要望とか、

提案、提言を伺ったその中で、平成26年予算編成に沿って予算編成示達というものの中で、協働というのが大テーマで、持続可能な南伊豆町をつくっていくという示達をした予算の示達のすぐ後で基本的にどのようなことを担保していくかとなったが、今回、このような参画条例、協働条例の考え方が出てきた。同時に千葉大学との話もあって、域学連携も念頭にあった。既に役場の庁議等で話し合っているが、新年度において職員を町内各34地区に配置していく。いろいろ地域の提言、提案等も伺って施策に反映していくフレームを考えている。また、住民との協働、双方向のやりとりで、フェイスブックの運用を始めた千葉大学との域学連携がほぼ決定し、協定の調印となる。職員が地域に入っていく、地域担当職員制度、大学の域学連携の方々（教授、学生）を含め、第三者的、客観的な意見を伺う。そのことで評価する。客観性を持っていけると思う。行政が公権力、予算を持つ中で突っ走ることではない。住民と行政、第三者としてモニター的な役割を持っていることで、住民参画の町政を進めていくことを考えているのが、この条例の大まかなフレームである。

問 意見として、答弁の趣旨は理解した。ぜひ条例のうたい文句、趣旨を実際と乖離しないように進めていただくことを願う。この条例について、さまざまな意見が出たが、この条例ができたからといって、町当局あるいは町長が突っ走る、独断で決定することではなく、町民の意見を反映した中で、執行権等は町長にあるが、それをチェックする機能は議会にあるので、議会側がこれをチェックすることによって、いろいろな形のものが出てくると思うので、この条例が制定されとすることには賛成である。

第8号につきましては、以上です。

○議長（稲葉勝男君） 委員長の報告を終わります。

委員長の報告に対する質疑を行います。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を終わります。

これより討論に入ります。

まず、委員長の報告に反対者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 次に、委員長の報告に賛成者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第 8 号 南伊豆町町民参画及び協働の推進に関する条例制定については、委員長の報告のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第 8 号議案は委員長の報告のとおり可決することに決定されました。

◎議第 9 号の上程、委員長報告、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） 議第 9 号 南伊豆町石廊崎ジャングルパーク跡地利用計画審議会条例制定についてを議題とします。

委員長の報告を求めます。

第 1 常任委員会委員長。

〔第 1 常任委員長 谷 正君登壇〕

○第 1 常任委員長（谷 正君） 引き続きまして、第 1 常任委員会に付託されました議第 9 号 南伊豆町石廊崎ジャングルパーク跡地利用計画審議会条例制定についての第 1 常任委員会報告を申し上げます。

前号と同じような形で朗読をもって報告いたしますが、開催月日とか、委員会の出席状況等については同様でありますので、その辺については省略をさせていただきます。

平成 26 年 3 月 14 日、南伊豆町議会議長、稲葉勝男様。

第 1 常任委員会委員長、谷正。

本委員会に付託された議第 9 号 南伊豆町石廊崎ジャングルパーク跡地利用計画審議会条例制定についての報告をいたします。

議事件目、付託件目、議第 9 号 南伊豆町石廊崎ジャングルパーク跡地利用計画審議会条例制定について。

委員会決定は、原案のとおり可決することに決定。

審議中にあった意見または要望事項ですが、5 ページをお開きください。

議第 9 号 南伊豆町石廊崎ジャングルパーク跡地利用計画審議会条例制定について。

前号と同様に、問い、答えという形で、ご報告します。

問 南伊豆町石廊崎ジャングルパーク跡地利用計画審議会条例について、第 2 条に審議会

の意義、第3条に組織、第4条で任期があるが、以前ジャングルパーク跡地利用計画で、利用計画策定の終了の日となっているが、審議会の開催の日はどのくらいか。

答 スピーディに解決すべきと思っている。

問 大体おおまかに、どのくらいの期間なのか。

答 流動的な部分もあるが、目標としては来年度いっぱいを考えている。

意見 南伊豆町石廊崎ジャングルパーク跡地利用計画は非常に重要であり、解決しなければならぬと思っているので、速度を上げて解決を望む。参加を望みたい。

問 条例第3条（組織）は、委員20名以内となっている。①町議会の議員、②公共的団体の役員、③学識経験者を有する者、④その他町長が必要と認めた者となっているが、この中で南伊豆町石廊崎ジャングルパーク跡地の利用計画について伊豆全体、伊豆は一つの考えで審議会等の中で、石廊崎ジャングルパーク跡地利用計画をつくるのが望ましい。この審議会の中に、それを踏まえて町外の学識経験者、その他町長が必要と認めた者となるのが町外の、例えば1市5町の自治体の観光担当者等で審議、協議等は考えているのか。

答 特別今は、伊豆半島の市・町の担当者は考えていない。議員が言われるように、各首長たちに、このような形ができ上がったと協力いただけないかと機会があれば話したい。そこで、また新しい提案をいただくような形ができればと思っている。財政負担等もお願いしてみたい。海の県道223号線のときにも財政的な協力依頼があった。伊豆半島全体の会議があったときは少々の負担を求めていきたい。

問 ほかの委員と重複するが、改めて第3条中（4）その他町長が必要と認めた者となっている。いろいろな幅があるが、今後メンバーをふやす上で意見を反映してほしい。これは、ほかの委員が言われた伊豆全体の位置づけ、静岡県職員を入れることは前任の副町長のときからの石廊崎の位置づけということ、南伊豆町だけの問題ではないということをも多くの議員が主張している。この点を検討すべきではないか。もう一つは、全体の中で基本的な考え、町長も稼げる場所にしていきたいと考えているが、いろいろな計画案を出して投資する。町長は金が落ちない観光であってはならないことと本会議で答弁している。投資をしたからには、回収できるような計画をつくるのは当然である。これらを抜きにしてバラ色の計画だけではうまくいかない。経済効果があることが、一番バラ色の計画だと思う。改めて、この2つの点についての答弁がほしい。

答 伊豆半島の各自治体の参加を求めることを考えていきたい。静岡県職員参加を求めていくことは考えている。費用対効果の件は、石廊崎にかけた投資をそのまま回収しよう

という考えではなくて、経済効果、波及効果、このほうも大事に考えている。行政が投資したものを回収しなければならないという考えだと、なかなか事業はできないと考えている。ただ常々、経済波及効果はどの程度あるか、それを絡めた事業を考えたい。

意見 石廊崎ジャングルパークにかかわらず、議会で質問、意見を言ってきた中で、観光産業の投資そのものは目先の回収効果でなく、その波及効果と全体にわたる経済推進、これが基調になくってはならない。石廊崎の件で質問したが、全体にわたる観点に基づいて、その波及効果の関連性を推進、育成していく、この視点が欲しい。

以上であります。

○議長（稲葉勝男君） 委員長の報告を終わります。

委員長の報告に対する質疑を行います。

[発言する人なし]

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を終わります。

これより討論に入ります。

まず、委員長の報告に反対者の発言を許可します。

[発言する人なし]

○議長（稲葉勝男君） 次に、委員長の報告に賛成者の発言を許可します。

[発言する人なし]

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第9号 南伊豆町石廊崎ジャングルパーク跡地利用計画審議会条例制定については、委員長の報告のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第9号議案は委員長の報告のとおり可決することに決定されました。

◎議第10号の上程、委員長報告、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） 議第10号 南伊豆町臨時的任用職員の給与等に関する条例制定についてを議題とします。

委員長の報告を求めます。

第1 常任委員会委員長。

〔第1 常任委員長 谷 正君登壇〕

○第1 常任委員長（谷 正君） 第1 常任委員会に付託されました9号、10号の案件と同様に報告をさせていただきます。

平成26年3月14日、南伊豆町議会議長、稲葉勝男様。

第1 常任委員会委員長、谷正。

本委員会に付託された議第10号 南伊豆町臨時的任用職員の給与等に関する条例制定については、審査の結果、原案のとおり可決することに決定したので、会議規則第77条の規定により報告します。

申しわけございませんが、9号、10号で読み忘れたものですから、ここで改めて朗読させていただきます。

議事件目、付託件目、委員会決定、議第10号 南伊豆町臨時的任用職員の給与等に関する条例制定について、原案のとおり可決することに決定。

7ページをお開きください。

審議中にあった意見または要望事項。

議第10号 南伊豆町臨時的任用職員の給与等に関する条例制定について、前号と同様に問い、答えという形で報告します。

問 臨時的任用職員の採用基準はどのようになっているのか。

答 採用基準は、町に臨時的任用の登録をした職員の中から、職種に合うような方を見て、何人かいれば面接等によって任用する。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 委員長報告を終わります。

委員長の報告に対する質疑を行います。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を終わります。

これより討論に入ります。

まず、委員長の報告に反対者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 次に、委員長の報告に賛成者の発言を許可します。

[発言する人なし]

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第10号 南伊豆町臨時的任用職員の給与等に関する条例制定については、委員長の報告のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第10号議案は委員長の報告のとおり可決することに決定されました。

◎議第11号の上程、委員長報告、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） 議第11号 南伊豆町文化財保護基金の設置及び管理に関する条例制定についてを議題とします。

委員長の報告を求めます。

第1 常任委員会委員長。

[第1 常任委員長 谷 正君登壇]

○第1 常任委員長（谷 正君） 第1 常任委員会に付託されました議第8号、9号、10号と同様に委員会報告をさせていただきます。

平成26年3月14日、南伊豆町議会議長、稲葉勝男様。

第1 常任委員会委員長、谷正。

委員会報告。

本委員会に付託された議第11号 南伊豆町文化財保護基金の設置及び管理に関する条例制定については、審査の結果、原案のとおり可決することに決定したので、会議規則第77条の規定により報告します。

議事件目、付託件目、委員会決定、議第11号 南伊豆町文化財保護基金の設置及び管理に関する条例制定について、原案のとおり可決することに決定。

審議中にあった意見または要望事項。

議第11号 南伊豆町文化財保護基金の設置及び管理に関する条例制定について、前号と同様な形で、委員長報告をさせていただきます。

問 仏像、仏画や史跡等文化財は、どのくらいあるのか。文化財指定をどのくらい考えているのか。

答 町史編さん室で調査中である。仏像関係で3から4体、ほかは順次指定を考えている。以上であります。

○議長（稲葉勝男君） 委員長報告を終わります。

委員長の報告に対する質疑を行います。

[発言する人なし]

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を終わります。

これより討論に入ります。

まず、委員長の報告に反対者の発言を許可します。

[発言する人なし]

○議長（稲葉勝男君） 次に、委員長の報告に賛成者の発言を許可します。

[発言する人なし]

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第11号 南伊豆町文化財保護基金の設置及び管理に関する条例制定については、委員長の報告のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第11号議案は委員長の報告のとおり可決することに決定されました。

◎議第12号の上程、委員長報告、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） 議第12号 南伊豆町税外収入金の延滞金等徴収及び滞納処分に関する条例制定についてを議題とします。

委員長の報告を求めます。

第1常任委員会委員長。

[第1常任委員長 谷 正君登壇]

○第1常任委員長（谷 正君） 議第12号について、委員会報告をいたします。前号と同様

に重複するところは省略させていただきます。

平成26年3月14日、南伊豆町議会議長、稲葉勝男様。

第1常任委員会委員長、谷正。

委員会審査報告書。

本委員会に付託された議第12号 南伊豆町税外収入金の延滞金等徴収及び滞納処分に関する条例制定については、審査の結果、原案のとおり可決することに決定したので、会議規則第77条の規定により報告します。

議事件目、付託件目、委員会決定、議第12号 南伊豆町税外収入金の延滞金等徴収及び滞納処分に関する条例制定について、原案のとおり可決することに決定。

審議中にあった意見または要望等。

議第12号 南伊豆町税外収入金の延滞金等徴収及び滞納処分に関する条例制定について、前号と同様な報告をさせていただきます。

問 税外収入の滞納に対する明確な対応ができることは非常に好ましいが、使用料で、例えば、水道料とかそのようなもので、大口、大きな金額を滞納している方が以前あったが、それらの処理は既に済んでいるのか。滞納が残っている場合は、この条例との関係をどのように考えているのか。

答 水道料については、非債権ということになるので、裁判所に申し立てすることになるので、その措置をとる。大口については、不納欠損をとるのではないか。

以上であります。

○議長（稲葉勝男君） 委員長報告を終わります。

委員長の報告に対する質疑を行います。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を終わります。

これより討論に入ります。

まず、委員長の報告に反対者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 次に、委員長の報告に賛成者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第12号 南伊豆町税外収入金の延滞金等徴収及び滞納処分に関する条例制定については、委員長の報告のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第12号議案は委員長の報告のとおり可決することに決定されました。

◎議第13号の上程、委員長報告、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） 議第13号 南伊豆町子ども・子育て会議条例制定についてを議題とします。

委員長の報告を求めます。

第1 常任委員会委員長。

〔第1 常任委員長 谷 正君登壇〕

○第1 常任委員長（谷 正君） 第1 常任委員会に付託されました議第13号 南伊豆町子ども・子育て会議条例制定についての委員会報告を、前号等の今までどおり報告させていただきます。これにつきましても、重複するところは省略させていただきます。

平成26年3月14日、南伊豆町議会議長、稲葉勝男様。

第1 常任委員会委員長、谷正。

委員会審査報告書。

本委員会に付託された議第13号 南伊豆町子ども・子育て会議条例制定については、審査の結果、原案のとおり可決することに決定したので、会議規則第77条の規定により報告します。

議事件目、付託件目、委員会決定、議第13号 南伊豆町子ども・子育て会議条例制定について、原案のとおり可決することに決定。

7ページをお開きください。

審議中にあった意見または要望事項。

議第13号 南伊豆町子ども・子育て会議条例制定について。

問 これまでは、民生・児童委員等が行ってきた子育て事業との絡みは、どのようになるのか。

答 民生・児童委員等には、当然活動はしていただく。地域の様子も、近くで見ていただくようになる。組織として会議に入っただき、代表として考えている。

問 民生・児童委員の介護等並列の形になるが、両方で子育てをやっていくことになるのか。両方で子育てをやっていくということでのいいのか。

答 そのとおりである。これは町の会議であるが、国・県にもこのようなものもあり、少子化、待機児童対策でもある。国等を挙げて、しっかり対策をするということになり、条例化することになった。

問 この条例は、子ども・子育て会議ということであるが、子供を育てるということは、地域力の向上につながると思うが、子育て環境ということだけでなく、効果が大きいと感じている。これに関して、教育現場から教育長はどのように感じているのか伺いたい。今後、小学生等も減って学校統合も関連してくるので、考え、意見を聞きたい。この条例の中で、どこまで考えられるのか。

答 指摘されている子ども・子育て会議ということであるが、教育現場の面からどのような形で、子供、就学前、小・中、さらに高校となるが、町の一番基本になる子供たち、幼稚園、保育所の子供たちが少なくなっていることとあわせて、待機児童は当町にはないが、よりすばらしい認定こども園もあるが、充実した保育、教育ができるようにしていくことを大事にしていく。一つは、小・中との連携、高校との連携、大学との連携、このようなことが南伊豆町は実施しやすい地域ではないかと思う。子育て一般の中で、教育の立場としてはすばらしい環境、相互連携、小・中・高とつなげていく思いで取り組む。

以上であります。

○議長（稲葉勝男君） 委員長の報告を終わります。

委員長の報告に対する質疑を行います。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を終わります。

これより討論に入ります。

まず、委員長の報告に反対者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 次に、委員長の報告に賛成者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第13号 南伊豆町子ども・子育て会議条例制定については、委員長の報告のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第13号議案は委員長の報告のとおり可決することに決定されました。

◎議第39号の上程、委員長報告、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） 議第39号 平成26年度南伊豆町一般会計予算を議題とします。

委員長の報告を求めます。

予算決算常任委員会委員長。

〔予算決算常任委員長 吉川映治君登壇〕

○予算決算常任委員長（吉川映治君） 3月4日、5日に、平成26年度南伊豆町一般会計予算のために開催されました予算決算常任委員会で行われました審査の結果をご報告申し上げます。

平成26年3月14日、南伊豆町議会議長、稲葉勝男様。

予算決算常任委員会委員長、吉川映治。

委員会審査報告書。

当委員会に付託された議第39号 平成26年度南伊豆町一般会計予算は、審査の結果、認定することに決定したので、会議規則第77条の規定により報告申し上げます。

開催月日及び会場、平成26年3月4日、南伊豆町役場議場。

会議時間、開会午前9時30分、閉会午後2時10分。

委員会の出席状況、記載のとおりです。

事務局、記載のとおりです。

説明のために出席した町当局職員、町長以下、記載のとおりでございます。

同じく、開催月日及び会場、平成26年3月5日、南伊豆町役場議場。

会議時間、開会午前9時30分、閉会午後0時。

委員会の出席状況、記載のとおりです。

事務局、記載のとおりです。

説明のため出席した町当局職員、町長以下、記載のとおりでございます。

議事件目、付託件目、委員会決定、議第39号 平成26年度南伊豆町一般会計予算について、原案のとおり認定することに決定。

審議中にあった質疑または意見要望事項。

第1款議会費、第2款総務費、第8款消防費、第11款公債費、第12款予備費及び関連歳入について。

問 3月議会定例会の開催時期が早まったことへの質問がなされた。

答 3月末まで議会が続くと行政執行に支障を来すため。

問 歳計外現金預金利子への質問がなされた。

答 定期にして預金利子を稼ぐ性質のもの。

問 県収入証紙売りさばき手数料への質問がなされた。

答 静岡県の収入証紙を売りさばいた金額の3.15%の手数料です。

問 町有財産台帳整備、測量等への質問がなされた。

答 町有財産の台帳整備は平成25年度ではほぼ完了し、平成26年以降は防災室と話し合いながら進めていきたい。

問 基幹業務電算事務への質問がなされた。

答 サイバー攻撃に関しては業者からの連絡があるが、サーバーでブロックしていることでも防御している。各パソコンについては、電算係がチェックできる状況にある。

問 町税過誤収納金等還付金への質問がなされた。

答 町税過誤収納金等の還付金は過去の決算額をもとに算出し、増額になったのは法人税の予定納税が要因の一つである。

問 庁舎補修等工事への質問がなされた。

答 保守で賄いきれないときのために予算計上してある。

問 婚活事業への質問がなされた。

答 委託先の商工会青年部から詳しい結果は聞いていない。

問 石廊崎ジャングルパーク跡地利用計画策定審議会への質問がなされた。

答 県の職員等もメンバーに加えることを検討する。

問 全国半島振興市町村協議会負担金への質問がなされた。

答 一條・稲梓線の道路計画に関しては、次の半島振興計画に何としても入れてもらいた

いと思っている。

問 歳入全体関しての質問がなされた。

答 地元経済の活性化により税収が増加することを願う。

問 番号制度システム設定への質問がなされた。

答 平成27年度番号制度導入への準備です。

問 定住促進事業への質問がなされた。

答 NPO未来塾へ委託している事業。

問 まちづくり研修補助金への質問がなされた。

答 まちづくりに積極的な20歳以上50歳未満の町民に、先進地研修費として7万5,000円を限度額として4分の3以内を補助することができるもの。

問 津波避難ビル整備事業への質問がなされた。

答 第4次災害想定の内容により現在避難ビル協定を結んでいる建物も見直しを検討している。補助金の予算としては500万を用意した。

問 地震対策事業への質問がなされた。

答 ヘリ等の航空機も使用した援助支援を、有事の際には検討しようと考えている。

問 防災無線への質問がなされた。

答 デジタル化が進められている。

第3款民生費、第4款衛生費、第9款教育費及び関連歳入について。

問 子育て支援への質問がなされた。

答 会議は2回開催で考えている。

問 臨時保育士への賃金への質問がなされた。

答 臨時保育士20名、用務員兼事務員2名の計22名分の予算になっている。

問 健康福祉センター建設検討委員会への質問がなされた。

答 町民の意見を集めてワークショップ形式から始めていきたい。

問 健康福祉センターへの他施設との複合施設化への質問がなされた。

答 それも含めて検討するつもり。

問 保育所への広域入所への質問がなされた。

答 南伊豆町から近隣市町へと勤務される方、またその逆のほうへ受け入れを連携している。

問 在宅高齢者等の食事サービスへの質問がなされた。

答 民間のネットワークも使って、広域で高齢者を見守るシステムも活用している。

問 第1次救急医療への質問がなされた。

答 賀茂医師会に委託している。

問 第2次小児救急医療への質問がなされた。

答 圏域の3病院に委託し、負担金は下田市が幹事となり、近隣市町の人口割等により決定される。

問 不妊治療、未熟児治療、不育治療への質問がなされた。

答 不妊治療は平成24年度から導入された。未熟児治療は平成25年度から市町事業になり、事務処理上の問題で対象に至らなかった例もあった。不育治療については考えていない。

問 ワクチン接種の後遺症への質問がなされた。

答 厚生労働省が法定接種であるが勧奨は控えるとの答えを示したので、後遺症の説明を保護者にしっかり説明した上で、希望者が接種する方法に切りかえた。平成26年度も同じ考えで行う。

問 中国PM2.5大気汚染への質問がなされた。

答 注意喚起情報を受けて、同報無線及び関係機関に報告することになっている。

問 下田メディカルセンター負担金への質問がなされた。

答 常勤の麻酔医を雇用することを管理者に常に伝えている。

問 三浜地区への巡回診療への質問がなされた。

答 議会へ伝える前に巡回診療が開始されることになったことは、順序が逆だったかもしれないが地域にとってはよい結果だと思っています。

問 ごみ焼却施設維持管理への質問がなされた。

答 焼却灰処理の委託先現場も視察しており、まだ大丈夫と判断している。

問 焼却施設補修工事への質問がなされた。

答 指定管理者及びコンサルタントの導入を含めて検討する。

問 地域医療振興会の巡回診療についての地元区長への事前説明への質問がなされた。

答 施設利用については連絡をしている。議会や地域へ事前連絡がおくれたことは、状況から時間がなかったことを理解してほしい。

問 救急の受け入れ実績の最新データを配付してほしい。

答 後ほど印刷して配付します。

問 技能講習負担金への質問がなされた。

答 1名の職員に資格を取得させる予定なので、その研修費です。

問 焼却施設補修工事への質問がなされた。

答 老朽化しているので、今後検討していきたいと思います。

問 巡回診療の計画についての質問がなされた。

答 巡回診療が始まることによって県の補助対象から外れることがないと認識している。

問 指定ごみ袋での清掃センターへの持ち込みが有料である件への質問がなされた。

答 今後検討はするが、現在は指定袋ではないもので持ち込んでいただくよう伝えている。

問 どのような団体に補助金を出しているのか質問がなされた。

答 少年スポーツ団体等の13団体に補助金を出している。少ない団体で2万前後、多い団体で8万から9万円です。人数割で金額が決まります。

問 三浜地区通学支援業務委託料への質問がなされた。

答 南中小学校と三浜小学校の統合に伴って、通学バスについても調整している。

問 臨時調理員への質問がなされた。

答 正規職員と臨時職員の業務内容は同じになる。

問 文化財管理についての質問がなされた。

答 まずは広報を考え、新聞等で発信していきたい。また理解ある方の話も聞いていきたい。

問 日詰遺跡への今後の経過について質問がなされた。

答 今月中には入手できると思う。合計11点の予定。

問 日詰遺跡への展示について質問がなされた。

答 湿気に気をつけながら、ショーケースでの展示を考えている。

問 ふるさと学級スキー教室への質問がなされた。

答 2万円程度の個人負担もいただいており、2泊3日での参加人数も約60人いるので、妥当な金額だと思っている。

問 三浜小学校の今後の使用方法への質問がなされた。

答 いろいろな使用方法が考えられますが、こちらもワークショップ形式で検討していく予定です。

第5款農林水産業費、第6款商工費及びその関連歳入について。

問 遊休農地美化業務委託料への質問がなされた。

答 現在は農業振興会へ委託している。地元農業高校への委託も視野に入れて検討したい

と考える。前回やらなかったひまわりも今回は作付する予定。

問 吉祥体験農園への質問がなされた。

答 農業体験を目的としているため、入ってくる使用料とかかる費用の採算性は重視していない状況だが、今後は検討が必要になると思う。全14区画中、6名の利用者が2区画ずつ使用している。収穫した野菜の販売を許可したかどうかについては今確認できませんので、後ほど調べます。

問 有害対策事業への質問がなされた。

答 捕獲数は、猪390頭、猿15頭、鹿68頭となっている。

問 農業振興地域整備計画の場所についての質問がなされた。

答 農業振興地域に入ってくる場所全てが対象になる。

問 差田グラウンドベンチ補修工事への質問がなされた。

答 一塁側と三塁側の屋根つきベンチが老朽化しているため、屋根部分を交換する。

問 林道青野・八木山線用地測量業務への質問がなされた。

答 平成28年度の完成を目指しているが、進捗状況は35%程度で、南伊豆町側の工事がおくれている状況。

問 環境保全型農業直接支援対策事業費補助金への質問がなされた。

答 無農薬栽培に対して補助金を出そうという性質のもの。国が2分の1、県が4分の1、町が4分の1という負担割合です。

問 水産業の後継者育成についての質問がなされた。

答 農業に比べると、漁業に対しての補助対策が弱いことは感じている。

問 森林整備事業補助金についての質問がなされた。

答 愛美林、石井林業、森林組合の3事業体で45ヘクタールを間伐する事業内容です。

問 美しい森林づくり基盤整備事業への質問がなされた。

答 間伐作業用の進入道路整備に対する補助で、国が2分の1負担します。

問 森林整備地域活動支援推進事業への質問がなされた。

答 愛美林、石井林業、森林組合の3事業体による事業計画作成がその内容です。95ヘクタールの計画をしている。

問 中山間地域林業整備事業補助についての質問がなされた。

答 林業機械の導入への補助で、今年度は石井林業から機械導入の話がある。

問 天神原つつじまつりに関する道路拡幅についての質問がなされた。

答 担当課には検討するよう伝えてある。道路にかかる木の枝の伐採に関しても検討している。

問 青野川利活用観光活性化事業補助金への質問がなされた。

答 これは現在実施されています。「夜桜流れ星」に対する補助金です。河川の利活用に関しても検討していきます。

問 体験型プログラム人材育成事業の内容と効果への質問がなされた。

答 シーカヤックの体験に関して現在1名で対応しているので、人材育成をしたいということです。2名を予定しており、ジオガイドとして育ててもらえれば効果があると考えています。期間は1年を予定しています。

問 静岡県信用保証協会事務負担金の大小市・町への割合への質問がなされた。

答 基本的に割合は件数で決まります。

問 天神原つつじまつりに関する草刈りについて質問がなされた。

答 以前はボランティアで行っていたのですが、山つつじがデリケートな植物のようで、樹勢が弱くなっており、現在は詳しい人から情報を集めて様子見の状態です。

問 ふるさと着地型観光事業への質問がなされた。

答 事業主体は商工会で、3年間実施します。平成25年度は研修等を行っており、平成26年度は集客に向けて事業展開していく予定です。3年間実施ですから、平成27年度まで続きます。

問 伊豆半島ジオパーク構想推進事業の内容への質問がなされた。

答 ジオパークの世界認定に向けての推進事業の補助金です。

問 公共機関等利活用観光活性化事業への質問がなされた。

答 旅館客向けへの伊勢海老号への補助金が250万、民宿客に向けた補助で250万、合計500万円となります。

問 湯の花観光交流館指定管理委託についての質問がなされた。

答 指定管理委託をしている団体には、将来的には自立できる方向で考えてもらいたいのですが、事業の性格上無理なこともあります。ただ、観光協会には自立の方向性は求めています。

問 「夜桜流れ星」の運営についての問題点への質問がなされた。

答 当初計画していた撮影に関する認識に異なる部分があったことは事実です。

問 「ツーデーマーチ」と「夜桜流れ星」は同時開催にしてはどうか。

答 検討します。

問 駐車場の有料化への質問がなされた。

答 質問の問い合わせもあったが、協力してくれる人もおりました。

問 温泉保護調査業務委託料への質問がなされた。

答 地熱発電に関して補助金申請を進めていくための目的です。

問 海外セールス事業助成金への質問がなされた。

答 静岡県市町村振興協会の助成金です。OWS大会へのオーストラリアへ選手10名程度を招聘したい狙いがあり予算計上しました。2020年のオリンピックに向けて練習場にできないものかと考えております。

問 職員海外派遣調査助成金への質問がなされた。

答 インバウンドコマースのための台湾への派遣費等が内容です。

第7款土木費、第10款災害復旧費及び関連歳入について。

問 石廊崎区内4号線測量設計委託料への質問がなされた。

答 測量調査してからの工事についての設計です。

問 石廊崎線測量設計委託料への質問がなされた。

答 いわゆる下の売店から登山道の防災工事に関する概略設計です。防災が目的ですから、石廊崎活性化とのリンクまでは至っておりません。

問 伊浜線測量設計委託料への質問がなされた。

答 海上橋等の形状ができるかどうかの測量調査です。

問 橋梁長寿命化修繕事業についての質問がなされた。

答 橋脚についても欄干と並行して考えながら、よりよい工法を検討していく。高欄を含めて修繕を実施しながら耐震化も進めていきます。

問 石井区内14号線道路改良工事への質問がなされた。

答 平成26年度で完成予定です。街灯の設置予定はありません。

問 河川の草刈りは各地で行っているのですか。道路の草刈りも行ってみてはどうか。

答 春から夏にかけて河川愛護という形で町内33区で草刈りをお願いし、道路に関しての主要12路線は町で草刈りを行っている。

問 中木記念公園維持補修工事の質問がなされた。

答 治山施設補修は、県に調査依頼をかけます。区の維持管理の負担のかからない施設補修工事を行います。

問 町當中木住宅管理事務に関する質問がなされた。

答 土地と建物の所有権に構造上のずれがあるので調整していきたい。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 委員長報告を終わります。

委員長の報告に対する質疑を行います。

[発言する人なし]

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を終わります。

これより討論に入ります。

まず、委員長の報告に反対者の発言を許可します。

横嶋議員。

○11番（横嶋隆二君） 議第39号 平成26年度南伊豆町一般会計予算の審査に当たっての反対の討論を行います。

南伊豆町の課題は、根本的な課題と言うか、大きく言って5つの課題がこれまでありました。一つは根本的な課題として経済問題、もう一つの根本的な課題としては自然災害対策、それに加えて、この間は市町村合併、石廊崎のジャングルパークの裁判、それと公立病院の存続の問題という大きな問題を抱えてきました。

経済の問題では、90年代初頭のバブル経済の破綻以降、地理的な特性から歴史的に脆弱であった地場産業の振興が切に求められてきました。

自然災害対策の問題では、95年の阪神大震災以降、公共施設の100%耐震化の問題が課題となっており、町の大きな課題の一つでありました。さらに、2011年3月に発生した東日本大震災を契機にして、東海・南海トラフ両地震への対策を含めた対応、これが今後も求められてくるところであります。

市町村合併の問題は、平成15年の合併協議会設置を含めて、足かけ約10年にわたる問題が残りました。それから町が存続しております。石廊崎ジャングルパークの問題も、平成13年ごろから発生して裁判が、これが起こりました。公立病院の存続の問題は、国立病院の統廃合移譲から地域医療振興協会湊病院の撤退、それから下田メディカルセンターの存続ということになってきております。

現在の町の到達地点は、それらさまざまの5つ大きな課題の中で前任調整時に今申した公立病院の存続、石廊崎ジャングルパーク裁判の和解解決、一番重要なことは、これらの根本解決になる上で南伊豆町を市町村合併から残したことであります。全国の合併した多くの地

域が今日後悔して合併特例の10年を今日迎えて、なお一層財政困窮状況に陥っている中で、公共施設の100%耐震化を完了して、懸案であった保育園、幼稚園の耐震化、そしてこの庁舎の耐震化を完了してきたところであります。

こうしたことで、町が一般会計を含めて約80億の予算をこの地域で確保していること、このことを特筆しなければなりません。地域の今後の将来展望を築いていく礎をこれまで築いてきたということは、確固として認識しなければなりません。こうした中で町政の変遷の中で、苦心、努力してきた町職員の皆様の努力、また町民、そして議会の取り組みもたたえていきたいというふうに思います。

今日大事なことは、高齢化に加えて極端な少子化の中で地域をつくり、活性化をする上で何が大事なのか。立場を越えて協力、協働を幅広く築いていくことであり、意見の違いや対立点は粘り強い対話と実践によって一致点を見出す努力が求められると同時に、合意できないものに関してはこれを凍結して無理強いをしていくことはすぐわないものであります。まして町長職権を使った圧力があってはなりません。町政が昨年4月に変わって初めての予算編成であります。この間の取り組みを見て、ミニ集会等々の意見聴衆は一部評価するものの、南の桜と菜の花祭りでの駐車場の有料化や地熱発電の強引な推進、あるいはそのほかの団体等への対応、議会の議論の中では介入をすべきだという発言もありましたが、圧力ととれるこうした動きは町民の中から強い反発があつて、ましてこれは町長選挙の構図で言うことではありませんけれども、町長に近いところからの複数の声もあります。こうしたことは厳に慎んで是正しなければなりません。

町民とのコンセンサスを得て、町民が望んでいく町政を立場を越えて、意見の違いを越えて実践する上では、先に可決した町民参加及び協働の推進の条例第3条における基本原則、自立の原則、町民は自らの意思により町民参画及び協働の推進を行い、町は町民活動の自主性を尊重する。同条2項の対等の原則、町民及び町は対等の関係として、町民参画及び協働の推進を行う。この条文、条項の行間と、そして実践の深みを現実にかす取り組みが厳に求められると思います。

また、長い懸案である地域経済の活性化に関しては、石廊崎ジャングルパーク跡地利用審議会設置条例の中で、議論をした中で町長も答弁されました。すぐに費用対効果の点は、石廊崎にかけた投資をそのまま回収しようという考えではなくて、経済効果、波及効果、このほうも大事に考えて行政が投資したものを回収しなければならないという考えだと、なかなか事業はできないと考えている。まさに、このことは私も同感でありまして、この地域の産業

を興していく上では、一つ一つこうした観点を踏まえていかなければなりません。

しかし、実行、実体はこれと違ったこともあらわれております。全体執行をする上で、こうした整合性をしっかりと据えて取り組むことを強く求めて、現町政に対してはまだ注文の余地があるということで反対の意思を表明して、私の討論といたします。

○議長（稲葉勝男君） 委員長の報告に賛成者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第39号 平成26年度南伊豆町一般会計予算は、委員長の報告のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 賛成多数です。

よって、議第39号議案は委員長の報告のとおり可決することに決定されました。

ここで10時50分まで休憩いたします。

休憩 午前10時40分

再開 午前10時50分

○議長（稲葉勝男君） 休憩を閉じ会議を再開いたします。

◎議第40号～議第42号の上程、委員長報告、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） 議第40号 平成26年度南伊豆町国民健康保険特別会計予算、議第41号

平成26年度南伊豆町介護保険特別会計予算及び議第42号 平成26年度南伊豆町後期高齢者医療特別会計予算を一括議題とします。

委員長の報告を求めます。

予算決算常任委員会委員長。

〔予算決算常任委員長 吉川映治君登壇〕

○**予算決算常任委員長（吉川映治君）** 同じく、3月5日に行われました平成26年度特別会計予算、水道事業会計予算のために審査されました予算決算常任委員会での審査の結果のことをご報告申し上げます。

平成26年3月14日、南伊豆町議会議長、稲葉勝男様。

予算決算常任委員会委員長、吉川映治。

委員会審査報告書。

当委員会に付託された平成26年度特別会計予算について及び水道事業会計予算については、審査の結果、原案のとおり認定することに決定したので、会議規則第77条の規定によりご報告申し上げます。

開催月日及び会場、平成26年3月5日、南伊豆町役場議場。

会議時間、開会午後1時、閉会午後2時8分。

委員会の出席状況、記載のとおりです。

事務局、記載のとおりです。

説明のために出席した町当局職員、町長以下、記載のとおりです。

議事件目、付託件目、委員会決定、議第40号 平成26年度南伊豆町国民健康保険特別会計予算について、原案のとおり認定することに決定。

議第41号 平成26年度南伊豆町介護保険特別会計予算について、原案のとおり認定することに決定。

議第42号 平成26年度南伊豆町後期高齢者医療特別会計予算について、原案のとおり認定することに決定。

審議中にあった質疑または意見要望事項。

議第40号 平成26年度南伊豆町国民健康保険特別会計予算について、議第41号 平成26年度南伊豆町介護保険特別会計予算について、議第42号 平成26年度南伊豆町後期高齢者医療特別会計予算について、質疑はありませんでした。

以上です。

○**議長（稲葉勝男君）** 委員長の報告を終わります。

委員長の報告に対する質疑を行います。

なお、議番号を述べ質疑をお願いいたします。

[発言する人なし]

○**議長（稲葉勝男君）** 質疑もありませんので、質疑を終わります。

これより討論に入ります。

なお、議番号を述べ討論願います。

まず、委員長の報告に反対者の発言を許可します。

横嶋隆二君。

- 11番（横嶋隆二君） 議第41号 平成26年度南伊豆町介護保険特別会計予算についての反対は、これ全て国に対する、国の姿勢に対する反対の意見であります。

現場の取り組みは、介護保険並びに一般の高齢者対応の保健事業に関して評価をしているものであります。

4月1日から消費税導入の理由が社会保障の充実ということを行っている一方で、介護保険制度の切り捨てが行われております。政府に対して、こうした矛盾する事態、国民に負担を消費税でも負わせて、介護保険でもサービスを切り捨て負わせる、これは許されないものであり、この点で反対の意思を表明します。

もう一点、議第42号 平成26年度南伊豆町後期高齢者医療特別会計予算に関しては、これは高齢者を差別する、後期高齢者として一部差別する制度そのものの撤廃を求めて、反対の意見とさせていただきます。

以上です。

- 議長（稲葉勝男君） 次に、委員長の報告に賛成者の発言を許可します。

横嶋隆二君。

- 11番（横嶋隆二君） 議第40号 平成26年度南伊豆町国民健康保険特別会計予算に関しては、制度そのもの矛盾を来して、国が一般会計からもっと負担を入れるべき点は改善の余地が、改善というか根本改善が求められます。ただし、この委員会で質疑がありませんでしたが、南伊豆町は高齢者が多い中で、保健事業の努力も含めて南伊豆町の国民健康保険が1人当たり、県下でも低いほうから数えて上のほうに位置づいているということの評価して、賛成の意見といたします。

同時に、町長にあっては国に制度の抜本的な改善を求めるよう強く求めて、私の意見とさせていただきます。

- 議長（稲葉勝男君） ほかに討論ありませんか。

[発言する人なし]

- 議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第40号 平成26年度南伊豆町国民健康保険特別会計予算は、委員長の報告のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第40号議案は委員長の報告のとおり可決することに決定されました。

採決します。

議第41号 平成26年度南伊豆町介護保険特別会計予算は、委員長の報告のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 賛成多数です。

よって、議第41号議案は委員長の報告のとおり可決することに決定されました。

採決します。

議第42号 平成26年度南伊豆町後期高齢者医療特別会計予算は、委員長の報告のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 賛成多数です。

よって、議第42号議案は委員長の報告のとおり可決することに決定されました。

◎議第43号～議第46号の上程、委員長報告、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） 議第43号 平成26年度南伊豆町南上財産区特別会計予算、議第44号 平成26年度南伊豆町南崎財産区特別会計予算、議第45号 平成26年度南伊豆町三坂財産区特別会計予算及び議第46号 平成26年度南伊豆町土地取得特別会計予算を一括議題とします。委員長の報告を求めます。

予算決算常任委員会委員長。

〔予算決算常任委員長 吉川映治君登壇〕

○予算決算常任委員長（吉川映治君） 改めまして、ご報告申し上げます。

なお今後、委員会の審査報告書、開催月日、出席委員の説明につきましては省略させていただきます。

議事件目、付託件目、委員会決定、議第43号 平成26年度南伊豆町南上財産区特別会計予算について、原案のとおり認定することに決定。

議第44号 平成26年度南伊豆町南崎財産区特別会計予算について、原案のとおり認定することに決定。

議第45号 平成26年度南伊豆町三坂財産区特別会計予算について、原案のとおり認定することに決定。

議第46号 平成26年度南伊豆町土地取得特別会計予算について、原案のとおり認定することに決定。

審議中にあった質疑または意見要望事項。

議第43号 平成26年度南伊豆町南上財産区特別会計予算について、議第44号 平成26年度南伊豆町南崎財産区特別会計予算について、議第45号 平成26年度南伊豆町三坂財産区特別会計予算について、議第46号 平成26年度南伊豆町土地取得特別会計予算について。

問 土地取得特別会計について、具体的な場所はどこなのか。

答 別紙図面にて説明します。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 委員長の報告を終わります。

委員長の報告に対する質疑を行います。

なお、議番号を述べ質疑願います。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を終わります。

これより討論に入ります。

なお、議番号を述べ討論願います。

まず、委員長の報告に反対者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 次に、委員長の報告に賛成者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第43号 平成26年度南伊豆町南上財産区特別会計予算は、委員長の報告のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第43号議案は委員長の報告のとおり可決することに決定されました。
採決します。

議第44号 平成26年度南伊豆町南崎財産区特別会計予算は、委員長の報告のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第44号議案は委員長の報告のとおり可決することに決定されました。
採決します。

議第45号 平成26年度南伊豆町三坂財産区特別会計予算は、委員長の報告のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第45号議案は委員長の報告のとおり可決することに決定されました。
採決します。

議第46号 平成26年度南伊豆町土地取得特別会計予算は、委員長の報告のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第46号議案は委員長の報告のとおり可決することに決定されました。

◎議第47号～議第50号の上程、委員長報告、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） 議第47号 平成26年度南伊豆町公共下水道事業特別会計予算、議第48号 平成26年度南伊豆町子浦漁業集落排水事業特別会計予算、議第49号 平成26年度南伊豆町中木漁業集落排水事業特別会計予算及び議第50号 平成26年度南伊豆町妻良漁業集落排水事業特別会計予算を一括議題とします。

委員長の報告を求めます。

予算決算常任委員会委員長。

〔予算決算常任委員長 吉川映治君登壇〕

○予算決算常任委員長（吉川映治君） ご報告申し上げます。

議事件目、付託件目、委員会決定の順でご報告申し上げます。

議事件目、付託件目、委員会決定、議第47号 平成26年度南伊豆町公共下水道事業特別会計予算について、原案のとおり認定することに決定。

議第48号 平成26年度南伊豆町子浦漁業集落排水事業特別会計予算について、原案のとおり認定することに決定。

議第49号 平成26年度南伊豆町中木漁業集落排水事業特別会計予算について、原案のとおり認定することに決定。

議第50号 平成26年度南伊豆町妻良漁業集落排水事業特別会計予算について、原案のとおり認定することに決定。

審議中にあった質疑または意見要望事項。

議第47号 平成26年度南伊豆町公共下水道事業特別会計予算について、議第48号 平成26年度南伊豆町子浦漁業集落排水事業特別会計予算について、議第49号 平成26年度南伊豆町中木漁業集落排水事業特別会計予算について、議第50号 平成26年度南伊豆町妻良漁業集落排水事業特別会計予算について。

問 クリーンセンター改築更新実施計画業務委託料についての質問がなされた。

答 長寿命化計画に基づき事業化するものです。

問 下水道工事の加入率に関する質問がなされた。

答 現在539戸が加入している。加入促進のため利子補給制度もある。

以上です。

○議長（稲葉勝男君） 委員長の報告を終わります。

委員長の報告に対する質疑を行います。

なお、議番号を述べ質疑願います。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を終わります。

これより討論に入ります。

なお、議番号を述べ討論願います。

まず、委員長の報告に反対者の発言を許可します。

[発言する人なし]

○議長（稲葉勝男君） 次に、委員長の報告に賛成者の発言を許可します。

[発言する人なし]

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第47号 平成26年度南伊豆町公共下水道事業特別会計予算は、委員長の報告のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第47号議案は委員長の報告のとおり可決することに決定されました。

採決します。

議第48号 平成26年度南伊豆町子浦漁業集落排水事業特別会計予算は、委員長の報告のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第48号議案は委員長の報告のとおり可決することに決定しました。

採決します。

議第49号 平成26年度南伊豆町中木漁業集落排水事業特別会計予算は、委員長の報告のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第49号議案は委員長の報告のとおり可決することに決定しました。

採決します。

議第50号 平成26年度南伊豆町妻良漁業集落排水事業特別会計予算は、委員長の報告のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第50号議案は委員長の報告のとおり可決することに決定しました。

◎議第51号の上程、委員長報告、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） 議第51号 平成26年度南伊豆町水道事業会計予算を議題とします。
委員長報告を求めます。

予算決算常任委員会委員長。

〔予算決算常任委員長 吉川映治君登壇〕

○予算決算常任委員長（吉川映治君） 改めて、ご報告申し上げます。

議事件目、付託件目、委員会決定についてご報告申し上げます。

議事件目、付託件目、委員会決定、議第51号 平成26年度南伊豆町水道事業会計予算について、原案のとおり認定することに決定。

審議中にあった質疑または意見要望事項。

議第51号 平成26年度南伊豆町水道事業会計予算について。

問 減価償却、損益分岐点に関するの質問がなされた。

答 減価償却は定額法で処理している。新会計基準の適用に際し、損益分岐点等の試算は実施していない。今後は、財務分析等を検証することが必要と認識しております。

問 一般会計からの繰入金に関するの質問がなされた。

答 一般会計からの繰入金は、今後ともお願いしたいと思います。

以上です。

〔「次はどこ」と言う人あり〕

○予算決算常任委員長（吉川映治君） すみませんでした。申しわけありませんでした。

問 簡易水道に関するの質問がなされた。

答 簡易水道施設整備に関しては平成28年度で完了いたします。

問 簡易水道の電源装置に関するの質問がなされた。

答 南上簡水の非常用発電機については未整備である。長時間停電等の課題解決に向けて早期に対応していきたい。

以上です。すみませんでした。

○議長（稲葉勝男君） 委員長の報告を終わります。

委員長の報告に対する質疑を行います。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を終わります。

これより討論に入ります。

まず、委員長の報告に反対者の発言を許可します。

[発言する人なし]

○議長（稲葉勝男君） 次に、委員長の報告に賛成者の発言を許可します。

[発言する人なし]

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第51号 平成26年度南伊豆町水道事業会計予算は、委員長の報告のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第51号議案は委員長の報告のとおり可決することに決定しました。

◎議第52号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） 議第52号 備品購入契約の変更について（平成25年度静岡縣市町共同利用 260Mhz帯デジタル防災行政無線機器購入）を議題とします。

提案説明を求めます。

町長。

[町長 梅本和熙君登壇]

○町長（梅本和熙君） 議第52号の提案理由を申し上げます。

本議案は、南伊豆町議会本定例会におきまして、繰越明許した案件であります。

当該事業は、アナログ式防災行政無線移動系の老朽化に伴い、平成24年度から静岡県と共同利用する260Mhz帯デジタル移動通信システム整備に着手し、災害時における移動系無線の有効利用と経費削減を図りつつ進めてまいりました。

本案件は、防災行政無線機器購入に当たり、静岡県共同利用参加市町が並行して機器導入、システム整備を実施しており、機器製作部材の調達、機器調製施工に不測の日数を要したため、また工期延長に伴い、4月から8%の消費税導入による3%の差額分を増額するものであります。

ご審議のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

○議長（稲葉勝男君） これより質疑に入ります。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますがご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって質疑を終わります。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 次に、原案に賛成者の発言を許可します。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

議第52号 備品購入契約の変更について（平成25年度静岡縣市町共同利用 260Mhz帯デジタル防災行政無線機器購入）は、原案のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（稲葉勝男君） 全員賛成です。

よって、議第52号議案は原案のとおり可決することに決定しました。

◎発委第1号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉勝男君） 発委第1号 南伊豆町専決処分条例制定についてを議題とします。

本案は、議会運営委員会委員長、谷正君が提出者であります。

趣旨説明を求めます。

谷正君。

〔議会運営委員長 谷 正君登壇〕

○議会運営委員長（谷 正君） 発委第1号 町長の専決処分に関する条例制定についての

趣旨説明を申し上げます。

本条例につきましては、地方自治法第180条の関係でございます。180条の第1項では、「普通地方公共団体の議会の権限に属する軽易な事項で、その議決により特に指定したものは、普通地方公共団体の長において、これを専決処分することができる。」となっております。

軽易な事項を委任することにより、議会の承認を必要としない専決事項を定め、業務及び議会運営の効率を図ること、これを目的としております。それで今お話ししました軽易な事項というのは、この条例におきまして5つの項目を指定しております。

まず、第一に、1件50万未満の損害賠償の額を定めること。これに伴う和解及び調停を含む。

(2) 議決した契約の変更。金額、工期等に関する事。金額は、変更前の10分の1以内かつ500万円以下。工期等は、契約年度内に限るものとする。

(3) 一部事務組合等の団体の数の増減及びそれに伴う規約変更に関する協議に関する事。

(4) 年度末における地方税法等の改正に伴う条例の改正をする事。

(5) 条例の趣旨を変更しない字句の修正または法令の改正に伴う引用法令等の条例改正です。

以上が、この軽易なものという5項目であります。

なお、地方自治法第180条第2項の規定では、指定した軽易な事項による専決処分をしたときは、議会による承認は必要ないが報告は必要ということになっております。

以上で、趣旨説明を終わります。

○議長（稲葉勝男君） 趣旨説明を終わります。

これより質疑に入ります。

〔発言する人なし〕

○議長（稲葉勝男君） 質疑もありませんので、質疑を打ち切りたいと思いますがご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって質疑を終わります。

これより討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許可します。

[発言する人なし]

○議長（稲葉勝男君） 次に、原案に賛成者の発言を許可します。

[発言する人なし]

○議長（稲葉勝男君） 討論する者もありませんので、討論を終わります。

採決します。

発委第1号 南伊豆町専決処分条例制定については、原案のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

○議長（稲葉勝男君） 賛成多数です。

よって、発委第1号は原案のとおり可決することに決定しました。

◎各委員会の閉会中の継続調査申出書

○議長（稲葉勝男君） 日程第23、閉会中の継続調査申出書を議題とします。

議会運営委員会委員長、第1常任委員会委員長、第2常任委員会委員長、予算決算常任委員会委員長、行財政改革調査特別委員会委員長、議会改革調査特別委員会委員長、共立湊病院跡地利活用調査特別委員会委員長から会議規則第75条の規定により、お手元に配付いたしました「所管事務調査、本会議の会期日程等、議会の運営及び議長の諮問に関する事項」についてなど、閉会中の継続調査の申し出がありました。

お諮りします。

各委員長から申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることにご異議ありませんか。

[「異議なし」と言う人あり]

○議長（稲葉勝男君） 異議ないものと認めます。

よって、各委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定されました。

◎閉議及び閉会宣告

○議長（稲葉勝男君） 本日の議事件目は終了いたしましたので、会議を閉じます。

3月定例会の全部の議事件目が終了しました。

よって、平成26年3月南伊豆町議会定例会は本日をもって閉会といたします。

どうもご苦労さまでした。

閉会 午前11時21分

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

平成 年 月 日

議 長 稲 葉 勝 男

署 名 議 員 清 水 清 一

署 名 議 員 齋 藤 要